

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、主に社会福祉の全体 (基本) を学ぶものである。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

科目の概要

講義では、現代社会における福祉の理念、福祉制度、実態、福祉政策との関係という内容を順次学んでいく。

学修目標

福祉の原理をめぐる理念、理論、哲学について理解することができる。

福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。

福祉政策の課題について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れながら、学びを深めていく。

目次

- 1 福祉制度の概念と理念 憲法理念を中心に
- 2 福祉制度の概念と理念 ノーマライゼーション理念を中心に
- 3 福祉制度と福祉政策の関係
- 4 福祉政策と政治の関係
- 5 福祉政策の主体と対象
- 6 福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
- 7 前近代社会と福祉 (救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他)
- 8 近代社会と福祉 (第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他)
- 9 現代社会と福祉 (新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他)
- 10 需要とニーズの概念 (需要の定義、ニーズの定義、その他)
- 11 資源の定義 (資源の定義、その他)
- 12 福祉政策と社会問題 (貧困、孤独、失業、要援護〔児童・高齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他)
- 13 社会政策の現代的課題 (社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他)

14 福祉政策の課題と国際比較（国際動向を含む）

15 授業のまとめ

評価

平常点30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト]

- ・片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版
- ・『福祉小六法 2019』みらい社

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDa201		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。「社会福祉概論」、「社会保障論」、「ソーシャルワーク論」、「基礎介護論」との関連性がある。

科目の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。社会福祉サービスを展開するうえで保健医療関係者及び地方行政機関との連携、協同のあり方について学び、社会福祉サービスに必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、社会福祉サービスの本質について検討する。

学修目標

本科目の学修目標は、（１）わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、（２）身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、（３）個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、受講者とのディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	社会福祉の理念と概念について ~社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ~
2	社会福祉の対象と主体について ~現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ~
3	社会福祉のニーズ概念について ~需要と供給の関係のもとに検討してゆく~
4	社会福祉の発展について ~英国と日本の比較をしながら学ぶ~
5	社会福祉法体系について（１） 社会保障制度と社会福祉法制度について検討する
6	社会福祉法体系について（２） 生存権を視点に社会保障制度と社会福祉法制度を検討する
7	福祉行財政の仕組み（１）
8	福祉行財政の仕組み（２）
9	中間まとめ
10	少子高齢化社会と暮らし（１）子どもの貧困の現状と対策
11	少子高齢化社会と暮らし（２）子どもの貧困の現状と対策
12	少子高齢化社会と暮らし（３）高齢者の貧困の現状と対策
13	少子高齢化社会と暮らし（４）高齢者の貧困の現状と対策
14	未来への課題 ~人権保障と生活保障~
15	まとめ

評価

中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び筆記試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。 中間試験50%、筆記試験50%。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：現代社会と福祉 <第4版> 社会福祉士シリーズ 4 現代社会と福祉

福祉臨床シリーズ編集委員会 編・塩野 敬祐 責任編集・福田 幸夫 責任編集 2017年01月刊 ISB

N 978-4-335-61176-6

他オリジナル資料配付

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者福祉を学ぶ背景 (高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等) や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅は大きく、個々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点から、これらの内容を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

高齢者福祉を学ぶ背景 (高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等) や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等に関し基礎的な知識を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針 (ディグロガリシ) の 1 に該当する。

内容

1	オリエンテーション、高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
2	高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
5	介護保険制度
6	介護保険制度
7	介護保険制度
8	介護保険制度
9	老人福祉法
10	老人福祉法
11	高齢者虐待防止法
12	高齢者虐待防止法
13	高齢者の経済状況と就労
14	認知症の理解
15	まとめ

評価

課題の提出およびリアクションペーパーの内容（15点）、小テスト（40点）、最終レポート40点

その他加点すべき優れた点（5点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーおよび小テストは、翌週以降に授業内でコメントまたは解説し、返却する。

授業外学習

【事前準備】自分の住んでいる自治体（もしくは関心のある自治体）が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらっておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック 高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDa202		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等を理解した上で、高齢者福祉の具体的な援助や実践活動、その基盤となる考え方について学ぶ科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅の差は大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス、それらの歴史の変遷等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者に対する支援と介護保険制度 で学んだ基礎知識をもとに、地域ケアにおける高齢者の生活支援に関する概念や仕組み等を学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

福祉専門職として高齢者の生活支援に必要となる概念や仕組みに関する知識を修得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

1	オリエンテーション、高齢者に対する支援と介護保険制度 の復習
2	介護福祉に関する概念（介護、介護過程）
3	介護福祉に関する概念（介護過程）
4	終末期ケア
5	認知症ケア
6	高齢期の住まい
7	高齢期の住まい 、ケアマネジメント
8	ケアマネジメント
9	ケアマネジメント
10	介護保険制度 （運営の仕組みと保険者の役割）
11	介護保険制度 （介護報酬、介護保険事業計画）
12	地域ケアシステムと地域包括ケア
13	地域包括ケアシステム
14	地域包括支援センターの役割と実際
15	まとめ

評価

課題やリアクションペーパー（25点）、小テスト（15点×3回）、最終レポート（30点）とし、総合評価60点以上

を合格とする。

【フィードバック】授業内でのリアクションペーパーに対するコメント、小テストの返却と解説

授業外学習

【事前予習】自分の住んでいる自治体（もしくは関心のある自治体）の第7期介護保険事業計画（平成30年度～平成32年度）に目を通しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリントを配布する

【推薦書】

岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

太田貞司(2003)『地域ケアシステム』有斐閣アルマ

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDa103		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得及び保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「思考・判断」に関わる科目である。

科目の概要：「児童の権利条約」が国連で採択された後も、児童の売買、児童貧困、家庭内暴力（DV、虐待）等、児童の権利侵害の事例は依然として後を断たない。「児童・家庭福祉論」では、子どもは家庭や社会との相互関係の中で成長発達していくという基本的な考えのもとに、児童家庭福祉の歴史の変遷、現状と課題、動向と展望のほか、児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み、諸制度、援助の方法など、専門職として必要となる児童福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識の習得を目指す。

学修目標：

- 1) 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2) 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権擁護について理解する。
- 3) 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4) 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
- 5) 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

内容

1	オリエンテーション・児童福祉の基礎概念、
2	子ども達を取り巻く社会の現状、子どもの権利と子ども家庭福祉の理念
3	子ども家庭福祉を考える視点 - 児童虐待事例から -
4	子ども家庭福祉の歴史
5	子ども家庭福祉に関する法制度
6	子ども家庭福祉の行財政と実施体制
7	少子化対策と保育制度
8	子ども健全育成・地域子育て支援に関するサービス
9	児童虐待とドメスティック・バイオレンス
10	社会的養護を必要とする子どもに対するサービス
11	非行問題や心理治療の必要性を抱える子どもへのサービス
12	ひとり親家庭に対するサービスと子どもの貧困問題
13	障害がある子どもとその過程に対するサービス
14	関係機関との連携・ネットワーク、子ども家庭福祉の現状と子ども家庭支援の課題
15	まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修 比嘉真人・「輝く子どもたち 子ども家庭福祉論」・みらい

【推薦書】柏女霊峰・「子ども家庭福祉論[第4版]」・誠信書房

【参考図書】山縣文治、柏女霊峰 編・「社会福祉用語辞典[第9版]」・ミネルヴァ

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当する。

本科目は卒業認定の必修科目であり、ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけるための科目である。また社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応し、さらに介護福祉士受験資格取得のための指定科目である。

科目の概要

本科目では、障害のある人の生活とそれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要について学んでいく。これまでの障害者福祉制度の発展過程や相談援助活動において必要となる障害者総合支援法、障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

学修目標

- (1) 障害のある人への福祉の歴史と理念について理解する。
- (2) 障害のある人の生活実態について理解する。
- (3) 障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて理解する。
- (4) 障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて理解する。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史 欧米
3	障害者福祉の歴史 日本
4	障害者福祉の基本理念 歴史的変遷
5	障害者福祉の基本理念 現代
6	障害の概念とそのとらえ方
7	障害者の生活とニーズ
8	障害者福祉法の法体系
9	障害者福祉のサービス体系
10	障害者の生活保障
11	障害者福祉を支える人々
12	障害者福祉実践
13	障害者の社会参加
14	障害者の権利擁護
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】教科書の関連ページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者への支援と障害者自立支援制度 第2版』株式会社みらい

【推薦書・参考書】適時紹介する。

科目名	医学一般		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDa105		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP2・3に該当する。

本科目は、社会福祉士及び介護福祉士資格取得のための指定科目である。介護・福祉領域に携わる専門職に必要な心身の健康、病気、老化に関する知識を幅広く習得することで支援にいかし、医療関係者と連携を保つ力の基礎知識を得る。

科目の概要

本科目は人体の構造と機能、主な疾病や障害について学ぶ。ヒトの成長や発達、正常な身体構造及び生体活動、疾病や障害の概要、リハビリテーション、医療社会保障の概要について理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 基本的な人体の構造と機能を理解できる。
- (2) 介護・福祉の現場で必要な疾病や傷害の概要を理解する。
- (3) 医学知識と健康の視点から対人援助や多職種との連携を理解する。

内容

この授業は講義を中心にディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	人体の成長・発達
2	人の老化と高齢者に多い疾患
3	身体の構造と機能
4	疾病の概要 脳血管疾患、心疾患、高血圧
5	疾病の概要 呼吸器疾患、消化器疾患
6	疾病の概要 腎臓疾患、泌尿器系疾患、血液疾患、膠原病
7	疾病の概要 神経疾患と難病、先天性疾患
8	疾病の概要 内分泌疾患、生活習慣病、悪性新生物、終末期
9	障害の概要 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由
10	障害の概要 内部障害、知的障害、発達障害
11	障害の概要 認知症、高次脳機能障害、精神障害
12	リハビリテーションの概要
13	国際生活機能分類の基本的な考え方
14	健康のとらえかた
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とす

る。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会「人体の構造と機能及び疾病 第3版」中央法規株式会社

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	浅見 隆行		
ナンバリング	KDa206		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉士は日常的に何らかの援助を必要としている人々の近くで支援します。高齢者の支援は介護保険と成年後見制度が両輪となって行われます。医療や介護の知識同様に権利擁護や関係する法律、制度を学んで実践することは大切なことです。

科目の概要

成年後見制度の概要、成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業、成年後見制度に関係する組織・団体の役割と実践を学びます。また成年後見制度の関連する法律（憲法、民法、行政法、消費者契約法等）も学びます。さらに後見制度を支えている家庭裁判所等の機関や専門職について学びます。

学修目標（＝到達目標）

日本国憲法や行政法や民法を理解する。

成年後見制度の概要、申立ての流れ、任意後見制度を理解する。

権利擁護に関する制度、虐待に関する法律、支援する機関や支援者の役割を理解する。

内容

1	オリエンテーション、講座の進め方、権利擁護における相談専門職の役割について(第1章第1節)
2	日本国憲法とは何かを知る。(第1章第2節)
3	福祉国家とはを知る(第1章第2節)、課題の出題
4	課題の確認と提出、行政法とは何か知る(第1章第3節)、課題の出題
5	課題の確認と提出、民法を知る(第1章第4節)
6	民法を知る、各種契約について知る(第1章第4節)
7	民法を知る、親族相続について知る。(第1章第4節)、課題の出題
8	課題の確認と提出、成年後見制度の概要を理解する、ビデオ他。(第2章第1節)
9	成年後見制度：成年後見人の役割(第2章第1節)、課題の出題
10	課題の確認と提出、成年後見制度：保佐及び補助の概要(第2章第2節、第3節)、課題の出題
11	課題の確認と提出、成年後見制度：申立ての流れ、任意後見制度の概要(第2章第4節、第5節)
12	成年後見制度：成年後見人等の義務と責任、他。(第2章第6節、第7節)、課題の出題
13	課題の確認と提出、日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業(第3・4章)、出題
14	課題の確認と提出、虐待防止の制度を知る：高齢者・障害者・児童(第5章第5節)、課題の出題
15	課題の確認と提出、権利擁護のかかわる組織・団体、専門職(第5章・第6章)、課題の確認提出

評価

授業への参加度60%、各章ごとに出題する課題への取り組み、授業にて確認後提出をおおよそ10回ほどを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎授業の終わり及び10回ほどの課題の確認後に質疑返答で、学習理解を深められるようにする

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を読み、また法律も法律書で確認しておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に配布された資料を確認する。課題があれば返答する。法律用語や専門用語も確認して復習ノートを作成しておく（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新・社会福祉士養成講座19「権利擁護と成年後見制度」第4版 社会福祉士養成講座編集委員会編集

【参考図書】他の授業等で使用する社会福祉小六法も毎回持参して下さい。参考図書はその都度紹介します。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KDa207		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当する。

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法」に関する科目となります。日常生活で起きうる出来事を科学的に理解する講義です。

科目の概要

心理学理論による人の理解とその技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活とこころの健康との関係、心理学支援の方法と実際、についてそれぞれ理解する。

学修目標

- (1) 社会福祉・介護福祉の専門職として必要な心理学理論と心理学支援の方法について修得する。
- (2) 人の心理学的理解、心理学的支援の方法と実際、を理解する。
- (3) 人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、を理解する。

内容

この授業は座学形式の講義を基本、必要に応じて心理検査・心理実験などの演習（体験）を取り入れながら、学びを深めていく。

1	はじめに 講義の進め方
2	心理学を学ぶ意義 : 心理学を学ぶことで、変化すること
3	人の心理学的理解(1): 生物学的基礎、行動のメカニズム(脳の話、欲求と動機づけ)
4	人の心理学的理解(2): 感情・情動・情緒(ゆれる気持ちを考える)
5	人の心理学的理解(3): 認知・知能・学習(学習の法則、条件づけ、洞察学習、モデリング)
6	人の心理学的理解(4): 個人差の理解(性格・人格・深層心理)
7	人の心理学的理解(5): 防衛機制(無意識の行動)
8	人の心理学的理解(6): 集団行動、社会的適応(コミュニケーションを考える)
9	人の成長・発達と心理 : 発達段階とその心理的特質(各発達段階で乗り越えるべき課題)
10	日常生活とこころの健康(1): 心と精神の健康度・前編(こころの病)
11	日常生活とこころの健康(2): 心と精神の健康度・後編(ストレスと病)
12	心理的支援の方法と実際(1): 心理査定の概要(観察・面接・検査)
13	心理的支援の方法と実際(2): 心理療法の概要(各種心理療法について)
14	心理的支援の方法と実際(3): カウンセリングの技法と理論(きく技術の基礎と応用)
15	おわりに 国試対策とまとめ

評価

平常点(通常講義内のミニレポート)30点、筆記試験(期末試験)70点、で総合評価60点以上で合格とします。なお、合格点に満たない場合は、再試をおこないます。また、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は、追試をおこない

ます。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答し、提出物は返却します。

授業外学習

【事前予習】当該週の内容に応じた、テキスト内容を読んでおく。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内で解説された内容・プリント・テキスト内容の統合をしておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤伸司・山口利勝 編著『心理学理論と心理的支援[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦図書】講義内で随時紹介します

【参考図書】霜山徳璽 監修『心理療法を学ぶ』有斐閣選書

水島恵一・岡堂哲雄・田畑 治 著『カウンセリングを学ぶ』有斐閣選書

中村 有 著『イラストとケースでわかる やさしくできる傾聴』秀和システム

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、主に社会保障の全体（基本）を学ぶものである。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

科目の概要

講義では、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史（国内及び諸外国の動向）、負担と給付のあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった事がらを順次学んでいく。

学修目標

- 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障の関係を含む）について理解することができる。
- 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。
- 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保障をとらえる視点－毎回講義を基本とするが、適宜、質疑応答を取り入れる。
2	社会保障とは何か - 理念と目的
3	社会保障とは何か - 範囲と役割、機能
4	社会保障制度体系とは
5	社会保障度の歴史的展開（諸外国）
6	社会保障度の歴史的展開（諸外国つづき）
7	社会保障の歴史的展開（日本）
8	社会保障の歴史的展開（日本つづき）
9	社会保障の財源問題をどう考えるか
10	社会保障制度の現状と課題（諸外国）
11	社会保障制度の現状と課題（諸外国つづき）
12	日本における社会保障制度の現状と課題（サービス体系）
13	社会保障制度改革の方向性と課題
14	福祉レジームモデルから社会保障政策の在り方を考える
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内に返却する。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第6版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「相談援助の基盤と専門職」の一科目に該当する。ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学び、理解を深める。

科目の概要 社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について学び、さらに相談援助に係る概念及びその範囲についてその形成過程から理解し、相談援助の重要な理念 (人権尊重、社会正義、利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション) について理解を深める。

学修目標 ソーシャルワークの基本理念や基礎的知識を身につけ、実際の現場における活用としてのステップへ向かえるようになること、を目標とする。

内容

1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要—本科目は講義を基本とするが毎回適宜、質疑応答を行う。
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義
5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念 2 社会正義
9	相談援助の理念 3 利用者本位
10	相談援助の理念 4 尊厳の保持
11	相談援助の理念 5 権利擁護
12	相談援助の理念 6 自立支援 (地域生活支援)
13	相談援助の理念 7 社会的包摂 (地域包括)
14	相談援助の理念 8 ノーマライゼーション
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、中間レポート30%、テスト40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間レポートについては、授業中に受講生全体の傾向をコメントする。

授業外学習

【事前準備】専門的な知識や用語に接する事を基本に、授業時に指定された次回予定のテキスト箇所を一読し、要点を調べのとにまとめておく (各授業に対して30分)

【事後学修】授業終了時に告げられる今回の授業テキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートに

まとめておく（各授業に対して30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柳澤・坂野責任編集『相談援助の基盤と専門職 第3版』弘文堂

科目名	社会的養護論		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDa110		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「思考・判断」に関わる科目である。

科目の概要

親のいない要保護児童問題が中心であった時代から、現代は家庭の子育て機能の低下による要保護児童問題へと移行してきている。「社会的養護」では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえながら、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について学ぶことにより、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について、理解することを目指す。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
- 2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
- 3) 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- 4) 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解する。
- 5) 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション・子どもや家庭をとりまく状況 子どもと家庭における現状、その他
2	社会的養護の基礎概念 社会的養護の基本原理
3	社会的養護の基礎概念 児童福祉施設
4	社会的養護論 子ども観
5	社会的養護論 子どもの発達
6	社会的養護論 子どもと家庭を取り巻く現状
7	社会的養護論 社会的養護理論の変遷
8	社会的養護の展開 社会的養護の歴史的変遷
9	社会的養護の展開 社会的養護施策の動向
10	社会的養護の仕組み 相談体制
11	社会的養護の仕組み 養護系施設群
12	社会的養護の仕組み 障がい系施設群
13	社会的養護の仕組み 施設保育士
14	社会的養護の今後の課題
15	まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジュメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山縣文治、林浩康 編・「よくわかる社会的養護 [第 2 版] 」・ミネルヴァ書房

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDa208		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「社会調査の基礎」、「権利擁護と成年後見制度」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会福祉施設経営論」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

学修目標

1. 地域福祉の基本的考え方について理解する。
2. 地域福祉の主体と対象について理解する。
3. 地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。
4. 地域福祉の推進方法について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	地域福祉を知る
2	地域福祉の実際について
3	地域福祉の概観を捉える
4	地域福祉の主体と対象
5	地域福祉における民間組織・住民の役割
6	地域福祉実践を知る
7	社会福祉協議会の組織と役割
8	地域福祉の専門職と人材
9	社会福祉協議会の仕事
10	ネットワーキングの意味と方法
11	地域福祉ネットワークの実際
12	ボランティア・市民活動の推進と福祉教育
13	福祉教育・ボランティア学習の実際
14	地域福祉の課題
15	まとめ

評価

授業への参加度10%(シンキングタイムで学生同士で話し合う)、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート40%、筆記試験40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】厚生労働省HP「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」「地域共生社会の実現に向けて」を確認し、自分なりに内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたHP、法律や政策、図書、国家試験問題等について各自で内容を理解し深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb212		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。、本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「相談援助の基盤と専門職」の一科目に該当する。相談援助の専門職としての基礎知識をテキストを活用して学び、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務や専門性について理解を深める。

科目の概要 総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職の機能の展開について理解し、そのために重要な権利擁護をはじめ、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門 職業倫理について理解する。また、諸外国の動向、及び現場で生じるジレンマの実際と必要な対応の基本視点を学ぶ。

学修目標 ジェネラリスト視点に立ち、問題解決へと向かうに当たり、多職種連携の必要性と意義を理解することのできるソーシャルワーカーとしての資質を獲得することを、目標とする。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義 本科目は講義を基本とするが毎回適宜、質疑応答を行う。
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念
8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく地域における他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と地域における他職種連携の意義と内容
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、中間レポート30%、テスト40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業中に中間レポートについて、受講生の全体的傾向をコメントする。

授業外学習

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読し、板書した項目についてノートにまとめておく（各

授業に対して30分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 柳澤・坂野責任編集『相談援助の基盤と専門職 第3版』(弘文堂)

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、ソーシャルワークにおける専門的援助関係の形成及びその知識・技術の修得が目指される。本学科学位授与方針1.2に対応する。ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある相談援助における専門的援助関係の特性について理解する。相談援助の過程について理解する。ソーシャルワークの定義について理解し、その概要を説明できるようになる。相談援助における専門的援助関係の特性とその重要性について理解し説明できる。相談援助の過程を理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

主な授業形態・方法は、講義、個人ワーク、グループワークである。

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの定義
3	専門的援助関係について：基本的臨床スキルと、自己覚知
4	専門的援助関係について：3つのおごり、援助者の未完了な問題
5	専門的援助関係について：転移関係
6	援助の基本姿勢：バイスティックの7原則
7	相談面接技術 1
8	相談面接技術 2
9	相談援助の過程：インテーク、アウトリーチ
10	相談援助の過程：アセスメント
11	相談援助の過程：プランニング、モニタリング
12	相談援助の過程：評価、終結
13	相談援助の過程：効果測定
14	ケアマネジメントの定義とその過程
15	まとめ

評価

中間テスト30点、授業中のミニワーク30点、最終テスト40点の計100点より評価を行い、60点以上を合格とする。課題の結果に関しては、関連する授業ソーシャルワーク論 で返却する。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 の内容を振り返り、自己覚知の定義について確認すること。

【事後学修】相談援助過程及び国内介護保険制度上のケアマネジメント過程について復習すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法 』（株）みらい 2010

【推薦書】『ケースワークの原則』誠信書房 1996

【参考図書】『面接のプログラム学習』相川書房 1990

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb313		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。本学科学位授与方針 1, 2 に関連し、ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけることと関連する。システム論および生態学理論のモデルによってソーシャルワークを理解する。相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。システム論および生態学理論モデルによってソーシャルワークの一般的な定義を説明することができる。ソーシャルワークにおける3つの実践モデルをはじめ、各所アプローチの概要について説明することができる。

内容

講義を中心とし、個人ワークやグループワークを通じた集合学習の形態を用いる。

1	オリエンテーション
2	一般システム理論と生態学モデル
3	システム理論と家族療法
4	ソーシャルワークにおける3つの実践モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ: 心理社会的アプローチ
6	精神分析理論について
7	様々な実践モデルとアプローチ: 機能的アプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ: 問題解決アプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ: 行動変容アプローチ
10	様々な実践モデルとアプローチ: 課題中心アプローチ
11	様々な実践モデルとアプローチ: エンパワメントアプローチ
12	様々な実践モデルとアプローチ: ナラティブアプローチ
13	相談援助における専門的援助関係: 感情転移と逆転移
14	相談援助における専門的援助関係: 自己覚知、自己の活用とスーパービジョン
15	まとめ

評価

中間試験30点、授業中のミニワーク30点、最終試験40点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】ソーシャルワーク論 で学習した専門的援助関係について確認すること。

【事後学修】相談面接の基本技術、ソーシャルワークの各理論モデルについて確認すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法 』(株)みらい 2010

その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDb314		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「ソーシャルワーク論 から 」を踏まえて本科目を理解するの必要があり、「相談援助演習 」との関連性がある。

科目の概要

1. 相談援助におけるアウトリーチ
2. 集団を活用した相談援助(グループワーク)
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキング

学修目標 (=到達目標)

1. 相談援助におけるアウトリーチについて理解する。
2. 集団を活用した相談援助について理解する。
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキングについて理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	地域福祉の推進に向けたソーシャルワーク
2	多職種連携によるソーシャルワークの必要性
3	アウトリーチの意義と目的
4	アウトリーチの方法と留意点
5	グループを活用した相談援助
6	グループワークの展開過程
7	自助グループを活用した相談援助
8	コーディネーションとネットワーキングについて
9	ソーシャルサポートネットワークについて
10	地域ケアシステムについて
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
12	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点
13	ソーシャルアクションについて
14	事例に基づくサービス開発の展開方法について
15	まとめ

評価

授業への参加度10% (シンキングタイムで学生同士で話し合う)、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート40%と、筆記試験40%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】社会保障審議会福祉部会「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割について」をHPで確認し、自分なりに内容を理解しまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で紹介されたHP、法律や政策、専門用語等について、各自で内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法」中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb414		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

これまで学んだソーシャルワーク論 ~ をもとに、実践場面におけるソーシャルワークについて事例を通して学ぶ科目である。

科目の概要

スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術の活用、権利擁護活動の意味や意義を理解した上で、具体的事例検討を通して、ソーシャルワーク論の総合的な学修をする。

学修目標 (= 到達目標)

- ・スーパービジョン、福祉における情報、権利擁護活動の意味や意義を説明することができる。
- ・困難事例の支援過程をソーシャルワークの理論と方法を活用して考えることができる。

なお、本科目は、主に学位授与方針 (デイ・ロポリス) の 1 と 3 に該当する。

内容	
1	オリエンテーション
2	福祉と情報 (情報の特性、プライバシーと情報共有)
3	福祉と情報 (守秘義務、個人情報保護法)
4	福祉と情報 (記録の方法と意義、ICT化)
5	スーパービジョン
6	支援困難事例 (支援困難事例とは何か、問題解決の思考)
7	支援困難事例の検討
8	支援困難事例の検討
9	支援困難事例の検討
10	支援困難事例の検討
11	支援困難事例の検討
12	権利擁護活動の意味、意義と実際
13	権利擁護活動の意味、意義と実際
14	権利擁護活動の意味、意義と実際
15	まとめ

評価

ワークシート・小テスト (60%)、最終レポート (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業内でのリアクションペーパーに対するコメント、小テストの返却と解説

授業外学習

【事前予習】新聞や雑誌、インターネット等で、各授業テーマに関する記事等を読み、その背景について考えをまとめておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ソーシャルワーク論 ・ で使用した教科書

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb215		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。福祉的援助を必要とする人々の「生活の向上」や地域における「共生」をめざし、生活課題の問題点を総合的に思考し判断し支援を行う専門的知識を身につけるための科目である。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「?学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

- (1) 相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。
- (2) 就労支援にかかわる組織、団体及び専門職について理解する。
- (3) 就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

学修目標

- (1) 労働関連法令と近年の労働市場の変化について説明ができること
- (2) 障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること
- (3) 低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者福祉施策における就労支援
7	障害者の就労における専門職の役割
8	障害者の就労における民間の取り組み
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者の就労支援
11	低所得者の就労支援制度
12	低所得者の就労のための組織・団体・専門職の役割
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援サービスの今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%のとし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジユメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジユメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】レジユメを使用する

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDb316		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「社会調査の基礎」、「権利擁護と成年後見制度」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会福祉施設経営論」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

学修目標(=到達目標)

- 1.地域福祉の基本的考え方について理解する。
- 2.地域福祉の主体と対象について理解する。
- 3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。
- 4.地域福祉の推進方法について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	地域で安心して暮らし続けるために-地域福祉論 のふりかえり-
2	共同募金活動の実際について
3	地域福祉の理論
4	イギリス・アメリカにおける地域福祉の発展過程
5	日本における地域福祉の発達過程
6	地域福祉における行政の役割と公民協働
7	地域福祉における社会資源の意味
8	地域福祉における社会資源活用の実際
9	社会布資源の活用・調整・開発
10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
11	地域福祉における評価の方法と実際
12	地域福祉を踏まえた地域包括ケアシステム
13	地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの構築と実際
14	地域福祉計画策定プロセスと実際
15	まとめ

評価

授業への参加度10% (シンキングタイムで学生同士で話し合う)、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート40%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】地域福祉論 の学びを踏まえて、厚生労働省、全国社会福祉協議会等のHP等を確認して、自分なりに学びを整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介された図書、HP、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、深められるよう、復習ノートを作成しておく(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KDb217		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科のD P 3に該当する。

科目の概要

福祉専門職として、地域社会や社会全体への問題提起や問題解決方法の提案を行うには、エビデンスに基づく議論が不可欠だが、その基礎データは社会調査で収集されることが多い。政府が行うものから、現場の専門職が行うものまで、幅広く社会調査の基礎知識を学ぶ科目である。

学修目標

1. 住民や福祉機関を対象に、政府が定期的に行なう社会調査の種類と概要を理解し、必要な時に利用できる。
2. 社会調査の基本的な考え方を理解し、社会調査の良否が判断できる。
3. 量的調査と質的調査の特徴と、適切な使い分けが理解できる。

内容

この授業は講義が基本ですが、必要に応じて演習も行います。

1	社会調査の意義・目的
2	政府が行う社会調査
3	社会調査における倫理と個人情報保護、小テスト
4	量的調査のデザインと変数（第1・2章）
5	量的調査の実施方法（第3・4章）
6	量的調査での標本抽出（第5・6章）
7	量的調査での信頼性と妥当性及び回収率（第13章）・小テスト
8	量的調査での調査票の作り方（第7・8章）
9	量的調査の実施過程（第9・10章）
10	量的調査の集計（第11・12章）
11	量的調査の統計解析・小テスト
12	質的調査の目的・種類・方法
13	質的調査でのデータ分析
14	社会調査でのITの活用・小テスト
15	まとめ

評価

平常点10%、小テスト(4回)90%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。小テス

ト・確認テストの答えは、採点が終わり次第、返却する。

授業外学習

【事前準備】第4～10回は。教科書を事前に読み、内容の骨子を把握し、疑問点を書き出すこと。それ以外の回は、事前学習の課題を提供する。（各授業に対して60分）

【事後学修】社会福祉士国家試験の問題を提供するので、その問題を解く(各授業に対して30分)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西野理子．社会をはかるためのツール - 社会調査入門．学文社

【推薦書】潮谷有二，杉澤秀博，武田 丈編著．社会調査の基礎．ミネルヴァ書房

鈴木淳子．質問紙デザインの技法(第2版)．ナカニシヤ出版

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb318		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。また、人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「?学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援助と介護保険制度、障害者に対する支援助と障害者自立支援助制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業計画]

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

1	「福祉行財政と福祉計画」をとらえる視点
2	福祉の法制度 - 憲法を中心とした福祉の法的枠組み
3	福祉行政の実施体制 - 国レベル
4	福祉行政の実施体制 - 都道府県、市町村（区）レベル
5	社会福祉と地方自治、地方分権一括法の意味 - 法定受託事務、自治事務
6	自治体における社会福祉の行政機関 - 法的根拠と主な業務
7	自治体における社会福祉の行政機関 - 主な業務と専門職配置
8	福祉財政 - 国家財政（社会保障関係費）
9	福祉財政 - 地方財政（民生費）
10	福祉財源問題をどうとらえるか
11	福祉計画 - 必要とされた時代背景
12	福祉計画 - 国の基本計画
13	福祉計画 - 自治体における福祉計画、地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画等
14	福祉計画 - 自治体における福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、次世代育成支援助行動計画等
15	福祉計画の策定過程、授業のまとめ

評価

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジюмеを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジюмеの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】いとう総研資格取得支援センター「見て覚える。社会福祉士国試ナビ2019」中央法規

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KDb219		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科のDP2・3に該当する。

科目の概要

社会の捉え方を学ぶ科目です。具体的には、現代社会の理解、生活の理解、人と社会との関係、社会問題が柱となります。社会福祉士の基礎となる科目です。

学修目標

1. 社会の基本的な仕組みと動向を理解する。
2. 社会学の基本概念を理解する。
3. 近年の社会問題を理解し、福祉専門職の関わりについて理解を深める。

内容

この授業は講義を基本とするが、講義と併行して、近年の社会問題(10～14回のテーマ)に関する課題レポートを作成してもらう。

1	家族と生活
2	社会集団・組織
3	地域
4	人口（小テスト）
5	ライフスタイルの変化
6	社会変動
7	社会関係資本・社会的行為
8	社会的役割と社会的ジレンマ（課題レポート提出日）
9	社会の法的側面・経済的側面（小テスト）
10	犯罪・暴力・非行
11	虐待（児童・障がい者・高齢者）
12	ひきこもり・自殺
13	貧困と格差社会
14	社会的不寛容と差別
15	まとめ（課題レポート最終提出日）

評価

平常点10%、小テスト(2回)40%、課題レポート50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で出来る限り回答する。課題レポ

ートはコメントをつけて返却するので、加筆・修正して最終回に再提出すること。再提出後の課題レポートは、採点後に返却する。

授業外学習

【事前準備】事前に示された授業のキーワードを調べておく。(60分)

【事後学修】配付された社会福祉士・介護福祉士の国試問題で、授業内容を再確認すること。(40分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず、プリントを配付する。

【参考図書】社会福祉士養成講座編集委員会編．社会理論と社会システム(第3版)．中央法規出版
福祉臨床シリーズ編集委員会編．社会理論と社会システム - 社会学(第3版)．弘文堂

科目名	公的扶助論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb320		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉士国家試験受験資格を得るために履修を必要とする科目の一つであり、「低所得者に対する支援と生活保護制度」に該当する。また、人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「 学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

公的扶助（生活保護）は社会保障制度の重要な柱のひとつで、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する最後のセーフティネットと言われるものである。生存権保障としての生活保護制度、その歴史、理念・原則、仕組みと運用、自立を支援する具体的方法を中心に順次学んでいく。

学修目標

- ・生活保護制度の概要につき、その体系や基本的内容を理解することができる。
- ・低所得者対策の概要および関連施策について、その基本的内容を理解することができる。
- ・生活保護における自立支援の具体的方法や施策について理解することができる。

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 オリエンテーション。本講義の概要、貧困の概念について説明する。
- 2 貧困・低所得者問題。見える貧困と見えない貧困および絶対的貧困と相対的貧困を理解する。
- 3 公的扶助の歴史I。イギリスにおける公的扶助制度の歴史。
- 4 公的扶助の歴史II。日本における公的扶助制度の歴史。
- 5 低所得者層の生活実態。低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学ぶ
- 6 公的扶助のしくみ。社会保険と公的扶助の基本的な違いを理解する。
- 7 生活保護制度I。生活保護制度の基本原則と実施の原則。
- 8 生活保護制度II。生活保護の種類、範囲、方法について理解する。
- 9 生活保護制度 。最低生活費の体系について理解する。
- 10 生活保護制度 。収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。
- 11 福祉事務所の業務と組織。法定受託事務と自治事務。生活保護制度の実施体制と福祉事務所の役割、組織について理解する。
- 12 生活保護制度運用の実態について。生活保護ケースワークに関連したビデオを視聴し、生活保護制度運用の実態について考える。

- 13 生活保護制度における専門職の役割。現業員および査察指導員の役割と実際の業務について学ぶ
- 14 生活保護における相談援助活動。生活保護制度における「自立」について考える。
- 15 その他の低所得者支援の制度。生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付・社会手当について理解する。

評価

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジュメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レジュメを使用する。テキストは使用せず。

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	塩澤 和人		
ナンバリング	KDb321		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

本科目は、相談援助において必要となる医療保険制度、診療報酬、医療施設の概要、保険医療の専門職の役割、連携等について学ぶ科目である。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目になっている。

科目の概要

本科目は、保険医療サービスの基本的事項と社会的変化を踏まえ、対象となる患者・利用者とその家族の支援について、社会福祉士としての役割、専門性および各専門職との連携を学ぶ。そこにおける制度、施設、各専門職の役割や連携等を理解する。

学修目標（＝到達目標）

- 1．医療保険制度、診療報酬、保健医療サービス（医療施設等）の基本的な知識が得られる。
- 2．保険医療サービスの領域で活躍する医療ソーシャルワーカーの役割と業務を理解できる。
- 3．包括的な保険医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について理解できる。

内容

この授業は講義を基本に、調べたことや考えたことについてディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。予習、復習を含めて今起こっている事象、今後予想される事象について調べ、考えることを通してこの分野に興味や関心を持ってもらう。

1	保健医療サービスとは。戦後の保健医療サービスの整備・拡充について。
2	保健医療サービスの今日的課題。チーム医療と社会福祉専門職の役割。
3	医療法および保健医療政策による医療施設の機能・類型。
4	地域包括ケアシステムとは。診療報酬・介護保険法における施設等の機能・類型。
5	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組みについて。
6	医療ソーシャルワーカーの業務の内容（ミクロレベル・メゾレベル・マクロレベル）。
7	保健医療サービスの専門職の役割（概観・基本的姿勢）。
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際。
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要。
10	介護保険制度と介護報酬の概要。
11	公費負担医療制度の概要。
12	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識。チームケア実現のための連携機関・団体。
13	保健医療の専門職との連携の実際。
14	保健医療サービスにおける地域の社会的資源との連携と実践。
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、各セッションの課題等10%、筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、筆記による「再試験」を実施する。

【フィードバック】各セッションの課題等は採点后、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】次回の授業のテーマやキーワードを明示するので、教科書を読んだり、関連事項を調べる（各授業に対して60分）。

【事後学修】復習として授業のポイントを明示するのでまとめる。これを各セッションの課題として次回の授業の最初に用紙に記入し提出する（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会編集 『保健医療サービス 第5版』 中央法規出版

【参考図書】埼玉県立大学編集 『IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携』 中央法規出版

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb322		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 この科目は、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容であり、また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

科目の概要 講義では、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその問題点を順次学んでいく。

学修目標

社会保障（社会保険）制度の体系について理解することができる。

年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。

公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保障制度の中における社会保険の位置づけ - 基本は講義。毎回適宜、質疑応答を行う。
2	社会保険とは何か - その性格
3	社会保険とは何か - その役割と機能
4	給付と負担 - 社会保険方式と税方式とのちがい
5	年金保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
6	年金保険制度の概要 - 給付の種類と内容
7	医療保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
8	医療保険制度の概要 - 給付の種類と内容
9	介護保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
10	介護保険制度の概要 - 給付の種類と内容
11	雇用保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
12	雇用保険制度の概要 - 給付の種類と内容
13	労働者災害補償保険 - その特徴、受給要件、給付対象
14	労働者災害補償保険 - 給付の種類と内容
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提

出してもらおう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して30分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して30分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第6版 』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb322		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 この科目は主に、更生保護制度の全体像を学ぶものである。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

科目の概要 「犯罪と福祉」という重い課題であるが、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であるだけに、「人権と社会正義」を掲げる社会福祉が果たすべき役割は大きい。

講義では、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の事からを順次学んでいく。

学修目標

司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。

犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。

更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

内容	
1	刑事司法、更生保護とは - 本科目は講義を基本とするが毎回適宜。質疑応答を行う。
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人
6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再レポートを提出してもらおう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して30分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して30分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb324		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本講義は国家試験指定科目「福祉サービスの組織と経営」に該当する。組織の管理運営について理解するために、施設管理者である理事、施設長の立場で考察し、取り組む科目である。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「 学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

福祉サービスに係る組織や団体（主に社会福祉法人）及び経営管理等について考察する。

学修目標（=到達目標）

社会福祉施設について、また、一般企業に共通する組織運営・経営についての知識が獲得できる。

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

1	福祉サービスにおける組織、経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（1）法人
4	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（2）社会福祉法人 1
5	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（3）社会福祉法人 2
6	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（4）NPO等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（1）
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（2）
9	福祉サービスの管理運営の方法（1）サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法（2）人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法（3）労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法（4）会計と財務 1
13	福祉サービスの管理運営の方法（4）会計と財務 2
14	福祉サービスの管理運営の方法（5）情報管理
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】毎回の講義前に出題範囲および内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメ・ノートの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】いとう総研資格取得支援センター編「見て覚える。社会福祉国試ナビ2019」中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

評価

ワークシートや小テスト（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

評価

ワークシートや小テスト（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

評価

ワークシートや小テスト（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

評価

ワークシートや小テスト（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

評価

ワークシートや小テスト（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。本学科学位授与方針1に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリトレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。本学科学位授与方針1に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリトレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。本学科学位授与方針1に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリトレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習 で学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	今井 伸、教員未設定、大山 博幸、富井 友子		
ナンバリング	KDb225		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【科目の性格】本科目は、社会福祉士受験資格習得課程の科目であり、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識・価値・技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化及び理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。なお、より効果的に授業を進めるために相談援助実習指導 と連動している。

【科目の概要】本科目は、事例理解を中心に具体的な支援のあり方およびアセスメント、個別支援計画について学ぶ。事例をイメージし理解することから始め、支援のあり方について学んだ上で、アセスメントや個別支援計画作成のワークを行う。また、初回面接やインテーク場面を想定してロールプレイを行い、知識および技術の修得を目指す。

【学修目標】

- ケースワークを理解した上で、相談援助過程を具体的に説明することができる
- ICFを理解した上で、アセスメントを行い、記録できる
- 個別支援計画を作成できる
- 社会福祉士という専門職が習得すべき重要用語について説明することができる

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1・2・3に該当する。

内容

1	オリエンテーション
2	記録の内容及び方法に関する理解
3	事例の理解
4	事例の理解
5	ICFについて
6	事例を通してアセスメントを学ぶ
7	事例を通してアセスメントを学ぶ
8	事例を通してアセスメントを学ぶ
9	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
10	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
11	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
12	実習報告会への参加
13	ロールプレイを通して初回面接やインテークについて学ぶ
14	ロールプレイを通して初回面接やインテークについて学ぶ
15	まとめ

評価

記録に関するワークシート（10%）、事例の理解における提出物・発表・グループワーク参加態度（20%）、ア

セスメント・個別支援計画・インテークにおける提出物・発表・グループワーク参加態度（50%）、最終レポート（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートや発表内容をもとに授業内で意見交換を行う。

授業外学習

【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子、大山 博幸、今井 伸、佐藤 陽		
ナンバリング	KDb325		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1・2・3に該当する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉計画・地域福祉活動計画
15. まとめ

評価

ワークシートおよび課題作成内容(30%)、演習における発言・発表・参加態度(50%)、最終レポート(20%)と

し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の課題に返答し、発言や口頭発表にコメントをして学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえり、基本的なソーシャルワークに関する専門用語をまとめておくこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、テキストや用語辞典で授業で取り扱ったソーシャルワーク知識に関してまとめておく。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸、富井 友子、今井 伸		
ナンバリング	KDb425		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。本学科学位授与方針1.2に関連し、ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけること、自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現することと関連する。本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討1（ねらいと手順の説明）
3	ワークシートを用いた事例検討2（各グループごとにシェア）
4	ワークシートを用いた事例検討3（各グループごとにシェア）
5	ワークシートを用いた事例検討報告4（全体で報告、質疑）
6	ワークシートを用いた事例検討報告5（全体で報告、質疑）
7	ワークシートを用いた事例検討報告6（全体で報告、質疑）
8	実習経験と専門知見との関連生成・統合1（レポート記述とプレゼンテーション）
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成1（説明）
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成2（実施）
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成3（実施）
12	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成4（実施）
13	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成5（実施）
14	実習経験と専門知見との関連生成・統合2（レポート記述とプレゼンテーション）
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述およびインシデント記述のためのワークシートを中間レポートとして評価（30%）する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める（60%）。授業態度を10%とする。総合評価60点以上を合格とする。課題へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
高良聖『サイコドラマの技法』岩崎学術出版 2013

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC126		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

社本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論 ・ 」、「基礎介護論 」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

科目の概要

1 . 介護福祉士を取り巻く状況（介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化）や 2 . 介護問題理解、 3 . 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」と「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者 2 人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	前期オリエンテーション	内 容：求められる介護福祉士とは何か
2	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～老人福祉法から介護保険制度～
6	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：老老介護と高齢者虐待
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：福祉専門職種資格の変遷
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士の定義と義務規定
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：名称独占と業務独占
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士養成の現状と課題
13	専門職団体の活動	内 容：介護福祉士会の現状と課題
14	専門職団体の活動	内 容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ	

評価

1. レポート20%、2. 筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：西村 洋子(編集)『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,第5版/2016年 12月。

他オリジナル資料配付。

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC226		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1， 2， 3 に該当する。

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論 ・ 」、「基礎介護論 」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

科目の概要

1．「尊厳を支える介護」、2．「自立に向けた介護」3．「介護を必要とする人の理解」4．「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護）」、について学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」・「自立」・「倫理」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者 2 人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	尊厳を支える介護	内 容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護	内 容：A. マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションからエンパワメント
5	尊厳を支える介護	内 容：憲法 2 5 条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護	内 容：憲法 1 3 条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護	内 容：生活保護と尊厳を支える介護
8	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～
10	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～介護保険施設の種類とサービス～
12	介護実践における連携	内 容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理	内 容：介護従事者の職業倫理
14	介護従事者の倫理	内 容：介護実践の場で求められる倫理
15	まとめ	

評価

1．レポート 2 0 %、2．筆記試験 8 0 %とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：西村 洋子(編集)『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,第5版/2016年 12月。

他オリジナル資料配付

科目名	介護と倫理		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論」、「基礎介護論」、「コミュニケーション技術」との関連性がある。

科目の概要

1. 倫理学をベースとし、社会福祉哲学・思想・倫理観について学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、「倫理」「規範」「尊厳」「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	前期オリエンテーション 求められる介護福祉士とは何か
2	介護と倫理 倫理とは何か
3	介護と倫理 倫理とは何か
4	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ
5	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ
6	介護と倫理 思想からのアプローチ
7	介護と倫理 思想からのアプローチ
8	介護と倫理 介護福祉士法による倫理綱領
9	介護と倫理 他専門職団体による倫理綱領
10	介護と倫理 高齢者虐待防止法
11	介護と倫理 事例検討～抑制について～
12	介護と倫理 事例検討～虐待行為～
13	介護と倫理 事例検討～虐待行為～
14	介護と倫理 求められる介護福祉士像
15	まとめ

評価

1. レポート 20%、2. 筆記試験 80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

藤谷 秀・横山 貴美子『介護福祉のための倫理学(介護福祉士のための教養学 4)』

弘文堂 2007年10月刊 ISBN 978-4-335-61064-6

他オリジナル資料配付。

科目名	介護と自立		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング	KDC228		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は介護福祉士受験資格取得のための指定科目の一つとして設置されており、介護と自立について理解することを到達目標とする。

科目の概要

ICFの視点に基づくアセスメントを理解してエンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するために、車椅子・杖・装具・自助具等の利用を含む環境整備、早期からの介護予防、各疾患毎の急性期から維持期までのリハビリテーションの意義や方法等について理解する。より自立した生活の実現に向けて切れ目なく医療・保健・教育・福祉分野各々の職種が関わり自立へと支援する実践事例を通して多職種連携の重要性を理解する。

学修目標

- 1 . 介護と自立についての基本的考え方を理解する。
- 2 . 自立に向け将来予測を立てながら行う介護方法を理解する。
- 3 . リハビリテーションの意義や方法等について理解する。
- 4 . 自立へと支援する各専門職のかかわりについて理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、身体活動を取り入れながら、学びを深めていく。

1	自立について考える
2	子ども・障がい者・高齢者の自立について考える
3	ICFの理解（1）総合的な視点としてのICF
4	ICFの理解（2）隠れたプラスの側面を引き出すICF
5	自立に向けた介護（1）臥位から座位への動きの観察と介助
6	自立に向けた介護（2）座位から立位への動きの観察と介助
7	自立に向けた介護（3）立位動作・歩行の動きの観察と介助
8	保健・医療・教育分野等の自立を支える専門職の役割
9	介護予防の取り組み
10	急性期・慢性期・維持期のリハビリテーション
11	スポーツ分野でのリハビリテーション
12	医療・保健・教育・福祉現場での実践事例（1）脳血管疾患等
13	医療・保健・養育・福祉現場での実践事例（2）脊髄損傷等
14	医療・保健・教育・福祉現場での実践事例（3）脳性麻痺、難病等
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート40%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】介助方法、ICFについてこれまでの学びを自分なりに整理しまとめておく。（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業内で配布した資料と課題を再確認し理解を深める。事前に提示する課題については提出期限までに必ず提出できるように各自準備して取り組む。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。必要に応じ随時プリントを配布する。

【推薦書】松井彰彦、川島聡、長瀬修編『障害を問い直す』東洋経済新報社

科目名	介護と環境		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング	KDC329		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、介護福祉士養成課程カリキュラムにおける科目の一つです。

科目の概要

利用者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたいという思いを支えるためには、安全の確保とリスクマネジメントは不可欠です。介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、事故や感染症対策の具体的手法を学びます。またそのためにも介護者自身の心身の健康は重要であり、健康管理に必要な基礎的知識と技術を学びます。

学修目標 (= 到達目標)

授業の形式は、講義およびグループワークによる演習です。毎回、授業後に演習シートにより、授業を振り返り、理解を深めます。

学修目標は、介護における安全の確保とリスクマネジメントを利用者の立場、介護福祉士の立場から理解できるようになることです。

授業では、学び、理解するだけでなく、グループワークを通して、共に学び、考えを深めてほしいと思います。そしてリスクマネジメントは、利用者の自立を支援することと表裏一体のことで、現場で仕事をしていくうえで、ずっと考え続けていくものです。その礎となるものをこの授業で得ていただきたいと思います。

内容

1	オリエンテーション
2	介護における安全の確保 (1) 介護における安全の確保の重要性
3	介護における安全の確保 (2) 安全確保のためのリスクマネジメント
4	介護における安全の確保 (3) 事故・トラブルを繰り返さないための検討
5	事故防止・安全対策 (1) 事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み
6	事故防止・安全対策 (2) 演習・事例検討
7	事故防止・安全対策 (3) 生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策 (4) 演習
9	感染管理のための方策 (1) 生活の場での感染対策・演習
10	感染管理のための方策 (2) 感染対策の基礎知識・演習
11	介護に携わる人の健康管理 (1) 健康管理の意義と目的
12	介護に携わる人の健康管理 (2) 心の健康管理
13	介護に携わる人の健康管理 (3) からだの健康管理
14	安心して働ける職場づくり 労働環境の整備
15	まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

毎回、授業後に記入する演習シート 50点、授業態度・グループワークへの参加する姿勢 10点、学修目標に関するテスト 40点により、評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合には、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】実習先や今までの介護経験の中から、ヒヤリと思ったこと、危険だと思ったことを振り返っておいてください。

【事後学修】授業で学んだことを実際の介護場面で生かせるよう、しっかり復習してください。また、国家試験の問題集などに取り組んで、理解を深めてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』中央法規出版

三好明夫編著『介護福祉学 介護福祉士の専門性と独自性の探究』学文社

科目名	介護と地域		
担当教員名	大友 正樹		
ナンバリング	KDC330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、介護福祉士受験資格取得のための指定科目の一つとして設置しており、介護サービスとその地域における連携を理解することをねらいとする。

科目の概要

ケアワーカーの活動の場としての地域および地域ケアの現状と課題を概観し、制度や社会資源を理解した上で、地域住民が住み慣れた地域で暮らし続けることを支えるために、ケアワーカーに求められる視点や役割、支援の実際を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

地域ケアに関する基本的な制度や社会資源、専門職連携、地域課題解決に向けた住民との協働に関し、基礎的な知識を習得すること。

内容	
1	オリエンテーション、介護と地域とは
2	地域社会の現状と地域ケア
3	地域包括ケアシステム
4	地域ケアに関わる社会資源
5	地域包括支援センター
6	介護保険制度と介護サービス
7	介護保険制度と介護サービス
8	地域におけるケアマネジメント
9	地域における認知症ケア
10	地域における看取りケア
11	地域課題の認識・共有化と解決に向けた共働
12	地域の中の介護福祉施設
13	介護の場におけるボランティア活動
14	介護労働者と地域生活
15	まとめ

評価

課題やリアクションペーパー (30点)、グループ発表 (20点)、小テスト (20点)、最終レポート (30点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出されたリアクションペーパー、課題、小テスト、発表は授業内で返却・解説・意見共有等を行う。

授業外学習

【事前準備】介護保険制度や地域包括ケアシステムについて概要をつかんでおくこと。自身の住む(または出身地の)区市町村の社会資源について調べておくこと。介護や地域に対するニュースや新聞記事等を確認し、介護と地域に関わる課題について問題意識を深めておくこと。

【事後学修】授業内で配布した資料と課題を再度確認し、理解を深めること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。授業時に資料を配布する。

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC131		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

「コミュニケーション技術」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「ソーシャルワーク論」、との関連性がある。

科目の概要

コミュニケーション技術 では介護におけるコミュニケーションの基本について、（ 1 ）コミュニケーションとは、（ 2 ）コミュニケーションの基本、（ 3 ）コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、介護におけるコミュニケーションの基本、について、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション ～授業の概要～
2	コミュニケーションとは（ 1 ）～日常生活におけるコミュニケーション～
3	コミュニケーションとは（ 2 ）～日常生活におけるコミュニケーション場面～
4	コミュニケーションとは（ 3 ）～日常生活におけるコミュニケーション手段～
5	コミュニケーションの基本（ 1 ）～介護福祉士に求められるコミュニケーション能力～
6	コミュニケーションの基本（ 2 ）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
7	コミュニケーションの基本（ 3 ）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
8	コミュニケーションの理論と実際（ 1 ）～自己紹介と他者紹介～
9	コミュニケーションの理論と実際（ 2 ）～自己紹介と他者紹介～
10	コミュニケーションの理論と実際（ 3 ）～自己開示～
11	コミュニケーションの理論と実際（ 4 ）～伝言ゲーム～
12	コミュニケーションの理論と実際（ 5 ）～価値交流～
13	コミュニケーションの理論と実際（ 6 ）～交流分析と自己覚知～
14	コミュニケーションの理論と実際（ 7 ）～リーダーシップ理論～
15	まとめ

評価

課題レポート 30 %、定期試験 70 %とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美 ISBN : 978-4-8392-3144-6

第1版/2014年 12月

他オリジナル資料配付

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC231		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

「コミュニケーション技術」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「ソーシャルワーク論」、との関連性がある。

科目の概要

コミュニケーション技術 では、（1）介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、（2）利用者の特性に応じたコミュニケーション（3）介護におけるチームのコミュニケーションの基本、について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、（1）介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、（2）利用者の特性に応じたコミュニケーション（3）介護におけるチームのコミュニケーションの基本、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(1)
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(2)
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(1)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(2)
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1)高齢者とコミュニケーション
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2)認知症とコミュニケーション
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3)認知症とコミュニケーション
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1)障害とコミュニケーション
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2)障害とコミュニケーション
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3)障害とコミュニケーション
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(1)
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(2)
13	実習場面における再構成(1)

14	実習場面における再構成（2）
15	まとめ

評価

評価 課題レポート30%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書:最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美第2版/2014年 12月 ISBN : 978-4-8392-3193-4 他オリジナル資料配付。

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC132		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、介護福祉士養成課程の教育カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。

科目の概要

介護とは、介護福祉士の理念に基づき、日常生活を営むのに支障がある者への支援（＝日常生活支援）を意味している。介護を必要とする人々の日常生活の自立を促し、個々に応じた安全で安楽な基本的介護技術を実践するに必要となる基本的知識を身につける。

学修目標

1. 支援を必要な人にとって人間として尊厳のある「暮らし」について理解する
2. 自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解する
3. 基礎的な生活支援技術の理論を理解する

内容

1	ガイダンス 生活の定義
2	生活支援とは何か（1）
3	生活支援とは何か（2）
4	高齢者と障害者の理解（1）
5	高齢者と障害者の理解（2）
6	自立に向けた生活支援（移動・移乗の意義と目的：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援（移動・移乗の意義と目的：体位変換）
8	自立に向けた生活支援（安全な移動：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援（安全な移動：車いす介助）
10	施設における高齢者の暮らしの実際
11	施設における障害者の暮らしの実際
12	施設における暮らしの実際とまとめ
13	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持の意義と目的）
14	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	まとめ

評価

課題レポート（30%）、ペーパーテスト（70%）とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。再試験の実施については、平均点等から検討する。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却し、質疑についても授業内で解説する。

授業外学習

【事前予習】事前に配布するシラバスで次講義内容を確認し、「生活支援技術」の講義内容（解説文）を読んでおく。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の講義時に配布された資料をノートにまとめ、理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術』 中央法規出版

【推薦書】介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC133		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。生活支援技術概論と組み合わせた授業である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。尊厳の保持・自立支援等、介護の基本理念をもとに、安全・安楽に配慮した生活支援技術を習得する。

学修目標（＝到達目標）

1. 支援を必要とする人々の身体的状況や心理的状況を理解し、適切な介護技術を選択できる。
2. 基礎的な生活支援技術を科学的な理論とともに習得する。

内容	
1	生活とは何か 生活支援における技術
2	生活支援技術とは何か
3	生活における環境整備（1）
4	生活における環境整備（2）
5	高齢者疑似体験
6	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：体位変換）
8	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：車いす介助）
10	施設における生活支援技術の実際
11	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助まとめ）
12	自立に向けた生活支援技術（バイタルサイン・バイタルチェック）
13	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
14	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	まとめ

評価

課題レポート(20%)、実技試験(60%)、授業への取り組み(20%)とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については試験直後に解説を実施する。

授業外学習

【事前予習】初回に配布されたシラバスにもとづき、「生活支援技術」の演習内容をよく読んでおく。演習内容により持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。事後学修は、利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC233		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護を必要とする人に対して、自立に向けて様々な視点から生活を支援していくための技術である。日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて、安全で安楽に支援できるように、知識や技能を習得する。科学的根拠にもとづく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においても生かす力を身につけるための学びである。

学修目標（＝到達目標）

1. 介護を必要とする人の自立（自律）に向けた介護について理解できる。
2. 科学的根拠に基づいた生活支援技術について理解できる。
3. 生活支援技術における多職種連携について理解できる。

内容

1	ガイダンス・生活支援技術の実践と応用について
2	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展見学）
3	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展振返り）
4	自立に向けた生活支援技術（食事介助）
5	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助）
6	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助）
7	自立に向けた生活支援技術（屋外での車いす介助）
8	自立に向けた生活支援（福祉用具の利用と留意点）
9	施設における生活支援技術の実際
10	施設における生活支援技術の実際
11	自立に向けた生活支援技術（排泄介助）
12	自立に向けた生活支援技術（排泄の介助）
13	自立に向けた生活支援技術（排泄の介助）
14	自立に向けた生活支援技術（睡眠時の介護・環境整備）
15	まとめ

評価

課題レポート(30%)、ペーパーテスト(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。再試験の実施については、平均点から検討する。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。

授業外学習

【事前準備】初回に配布するシラバスにより講義内容を確認し、「生活支援技術」の講義内容（解説文）を熟読する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ内容を「生活支援技術」のテキストで読み返し、配布資料をもとにポイントの理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。日常生活支援技術 と組み合わせた授業である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 介護を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。
2. 介護を必要とする人の状態変化に応じ、プライバシーを保持し、安全・安楽に対応できる技術を習得する。
3. 必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を選択できる。

内容

1	高齢者・障害者における生活環境整備 福祉機器展
2	高齢者・障害者における生活環境整備 福祉機器展振り返り
3	整容の介護技術
4	衣服の着脱の介護技術
5	食事の介護技術 普通食
6	食事の介護技術 嚥下食
7	屋外における車いす介助の技術
8	福祉用具を活用した介護技術
9	様々な介護における多職種との連携
10	実習 - における介護技術
11	トイレ介助の技術
12	おむつ交換の介助技術
13	その他の排せつ介助方法
14	睡眠の介護 (技術演習)
15	まとめ

評価

課題レポート (20%)、実技試験 (60%)、授業への取り組み (20%) とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については、試験直後に解説を行

う。

授業外学習

【事前予習】初回に配布するシラバスにより次講義内容確認し、「生活支援技術」を確認しておく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。事後学修は利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	鄭 春姫		
ナンバリング	KDC234		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1，2，3 に該当する。

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

日本の住宅の抱える問題点を考え、利用者個人に合わせた住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深める。

科目の概要

利用者の生活歴・心身状態をもとにアセスメントを行い、快適な生活環境整備の工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

利用者の自立にむけた居住環境の整備について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

内容

1	生活の理解と生活支援
2	居住環境整備の意義と目的
3	生活行動と生活空間
4	快適な室内環境（温度、湿度、採光、換気等）
5	住居の管理と安全（住居の維持管理・衛生管理・事故防止等）（課題 1 を提示）
6	心地よい生活の場づくりのための工夫
7	住宅改修・バリアフリー化の例（課題 1 発表）
8	ユニバーサルデザインの視点と実際（課題 2 を提示）
9	高齢者と住居（ユニットケア、居室の個室化、施設での工夫）（課題 2 発表）
10	高齢者と住居（住み慣れた地域での生活の保障）（課題 3 を提示）
11	障害者児者と住居（施設での工夫）
12	障害者児者と住居（住み慣れた地域での生活の保障）（課題 3 発表）
13	自立に向けた居住環境の整備（課題 4 を提示）
14	他職種との連携
15	まとめ（課題 4 発表）

評価

授業への参加度30%、リアクションペーパー・小テストなど20%、課題40%とし、総合評価の60%以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の授業の最初に前回授業に関する質疑に返答 小テストの後は、答え合わせを行うことで、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】 駅・学内・自宅 日常生活における生活環境・生活道具の観察を行う。

【事後学修】 課題1・2・3・4に関して、レポートを作成し、全員発表しながら、自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業で資料配布

【参考図書】 中央法規 生活支援技術

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング	KDC235		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。

科目の概要

授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

学修目標

- 1.家事生活支援技術の基礎的技術と理論が理解できたか。
- 2.家事生活支援技術を学ぶ方法論が身についたか。
- 3.他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	家庭生活の基礎知識（個人と家庭生活）
3	家庭生活の基礎知識（家庭生活とその経営、生活設計）
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法（調理1）
7	家事援助の技法（調理2）
8	家事援助の技法（掃除・ごみ捨て）
9	家事援助の技法（買い物）
10	家事援助の技法（衣生活の基礎知識）
11	家事援助の技法（衣類・寝具の衛生管理）
12	家事援助の技法（裁縫1）
13	家事援助の技法（裁縫2）
14	自立に向けた家事の介護（利用者の状況に応じた介護の留意点）
15	まとめ

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けることができ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】積極的に家事に参加し、知識・技術を身につける。また、利用者に対してどのような支援ができるのかを常に考える。

【事後学修】プリントを精読しまとめる。技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC236		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。

科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

1. 介護が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重した支援を実施することができる。
2. 利用者の状況に応じた適切な介護技術を選択し、安全に支援できる技術や知識を習得する。
3. 視覚障害のある人の支援、聴覚障害のある人の支援について理解する。

内容

1	オリエンテーション < 利用者の特性に応じた生活支援技術とは >
2	実習現場における介護技術
3	視覚障害に応じた介護 < 視覚障害のある人と生活の理解 >
4	視覚障害に応じた介護 < 視覚障害のある人とのコミュニケーション1 >
5	視覚障害に応じた介護 < 視覚障害のある人とのコミュニケーション2 >
6	視覚障害に応じた介護 < 視覚障害のある人の介護技術 >
7	聴覚・言語障害に応じた介護 < 聴覚・言語障害の理解 >
8	聴覚・言語障害に応じた介護 < 聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション1 >
9	聴覚・言語障害に応じた介護 < 聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション2 >
10	重複障害（盲ろう）に応じた介護 < 盲ろう者の生活の理解 >
11	重複障害（盲ろう）に応じた介護 < 盲ろう者への介護技術 >
12	利用者の特性に応じた食事支援 < 食事支援の基本と実際 >
13	利用者の特性に応じた食事支援 < 障害別の食生活支援 >
14	利用者の特性に応じた食事支援 < 障害特性に応じた食事作り >
15	まとめ

評価

口頭発表（30％）授業への参加度（30％）実技試験（40％）として、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、原則再試験を行う。再試験の実施の有無は平均点などから判断する。

授業外学習

【事前予習】初回時に配布するシラバスを参考に、次講義内容について確認し「生活支援技術」のテキストでポイントを予習しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにできるように練習する。また、授業内で紹介する事例は、実生活との関連性を意識しながら復習し理解を深めること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC336		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護を必要とする人へ状況に応じ生活支援をする方法について学ぶ。障害に対する知識に基づいて生活支援について考える力を身につけてもらう。

科目の概要

- ・「介護実習 - 1 1」で実習する訪問介護サービスの基礎的知識について学ぶ
- ・重症心身障がい児（者）、高次脳機能障がい、運動障がい、知的障がい児（者）、認知症の人に対し、状況に応じた生活支援技術について学ぶ

学修目標（=到達目標）

- ・訪問介護の内容及び方法、その対象者への状況に応じた生活支援技術について理解できる。
- ・課題にとりくみ、考える力をつける。
- ・課題にとりくみ考えたことを言語化及び文章化できる。

内容

1	オリエンテーション 訪問介護の機能及び実際
2	訪問介護の機能及び実際
3	訪問介護の機能及び実際
4	知的障がいのある人への介護
5	知的障がいのある人への介護
6	運動機能障がいのある人への介護
7	運動機能障がいのある人への介護
8	運動機能障がいのある人への介護
9	精神障がいのある人への介護
10	高次脳機能障がいのある人への介護
11	発達障がいのある人への介護
12	重症心身障がいのある人への介護
13	認知症のある人への介護
14	在宅における介護
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、レポート20%、授業時の課題60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内で返却・解説する。

授業外学習

【事前準備】 次回学ぶことについて提示するので、テキスト等を読んでくる。

【事後学修】 授業で学んだことについての課題、疑問点について調べる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術」中央法規出版

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング	KDC237		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、福祉の現場において、支援を必要とする人々の生活の質の向上を理解、共有する。

また、社会福祉学を基礎とする、生活支援のための援助技術や知識を身につけられるようにする。

科目の概要

介護・福祉に関する知識と技術を学び、特に介護福祉士として、日常生活を総合的に支援する中で福祉レクリエーションサービスの重要性を理解する。

学修目標（＝到達目標）

1. 個人に対しての、生活支援のあり方について理解する。
2. 小集団の交流を活かした、レクリエーション活動への支援を理解する。
3. 対象者と環境に合わせた、レクリエーション活動のアレンジについて理解する。

内容

この授業は、演習を中心に行い、グループワークを取り入れながら技術を学んでいく。

1	オリエンテーション	福祉レクリエーション支援の重要性について知る
2	個人への福祉レクリエーション支援の構造と展開	ラポール構築のための技術や態度
3	個人への福祉レクリエーション支援の構造と展開	ホスピタリティの技法
4	個人で楽しむレクリエーション活動の展開	
5	個人で楽しむレクリエーション活動の展開	
6	小集団の交流を活かしたレクリエーション活動の展開	
7	小集団の力を引き出し、活かしやすいレクリエーション活動の展開	音楽レクリエーション
8	小集団の力を引き出し、活かしやすいレクリエーション活動の展開	音楽レクリエーション
9	手作りのものや身近なものを使ったレクリエーション活動	
10	レクリエーション活動の特性の把握と活動分析	
11	レクリエーション活動の特性の把握と活動分析	
12	対象者と現場に合わせたレクリエーションの活動アレンジ	
13	レクリエーション活動を活かした介入技術（実技）	
14	レクリエーション活動を活かした介入技術（実技）	
15	まとめ	

評価

授業への取り組み（参加度・演習課題・リアクションペーパー）30%、

支援実技 30% 筆記試験40%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

[フィードバック] 授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーによる質疑に返答し、学習理解と共有することで、深め

られるようにする。

授業外学習

【事前準備】次回の授業内容から、課題に対する調査や取り組み（およそ40分）

【事後学修】授業内で実践したコミュニケーションのとり方や技法などをふりかえり、各自で演習するなど、ノートやファイルを作成しておく。（およそ60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない プリント配布

【参考図書】「楽しさの追求を支えるための介入技術」（公益財団法人）日本レクリエーション協会

【推薦書】授業内で、随時紹介する

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC338		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士の指定科目である。

支援を必要とする人々への支援方法として、生活支援技術で学んだ技術について発展させ、自立を目指す応用技術を学ぶ科目である。

科目の概要

慢性疾患をもちながら生活する利用者の自己管理や、医療に関する基礎知識及び緊急時の対応、終末期の介護について学ぶ

学修目標（＝到達目標）

慢性疾患を抱える利用者の介護や終末期の介護に必要な知識及び技術を習得し、適切な支援ができることを目指している。

内容	
1	オリエンテーション 内部障がいについて
2	内部障害「心臓機能障がい」に応じた介護
3	内部障害「呼吸機能障がい」に応じた介護
4	内部障害「腎機能障がい」に応じた介護
5	内部障害「膀胱・直腸機能障がい」に応じた介護
6	内部障害「小腸機能障がい・肝機能障がい」に応じた介護
7	障がい体験発表（レポートを各自報告）
8	障がい体験発表（レポートを各自報告）
9	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」
10	緊急時の対応
11	終末期の介護の概要
12	終末期の介護とは（ビデオ鑑賞）
13	終末期の会后（終末期における介護の意義・目的）
14	臨終期の介護の実際・医療との連携
15	総括

評価

学習状況・レポート提出状況（40%）、ペーパーテスト（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキスト等、事前に指示した内容を整理しまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 ． ． 」中央法規

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC139		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は介護過程の導入科目と位置づけ、次の3つをねらいとする

1. 介護過程を学ぶ前提として、人とのかかわりや、人の生活についての理解を深めることができる
2. 介護過程を学ぶ前提として、「課題解決思考」について理解できる
3. 「情報」の内容や意味を理解し、「情報」に基づき「利用者の願いや思い」を理解できる

科目の概要

[授業の目的・ねらい]を達成するために、テーマに添った演習を行う。

学修目標（=到達目標）

1. 介護過程の展開に必要な視点、「課題解決思考」及び「情報」について理解できる（知識・理解）
2. 自己学習及びグループ学習を通し、提示したワークを達成できる（思考・技能・実践）
3. 授業内容に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ（態度・志向性）
4. 他者と意見交換し、相互に学びあう姿勢を持つ（態度・志向性）
5. 提示したワークに対し、提出物は締め切を厳守して提出できる（態度・志向性）

内容

1	オリエンテーション：介護過程とは
2	介護過程を学ぶために <コミュニケーションについて>
3	介護過程を学ぶために <相手の立場になって考える>
4	介護過程を学ぶために <わたしの生活>
5	介護過程を学ぶために <高齢者が生きてきた時代>
6	介護過程を学ぶために <高齢者が生きてきた時代>
7	利用者の願いや思いに気づく
8	利用者の願いや思いに気づく
9	利用者の願いや思いに気づく
10	・ 利用者の願いや思いに気づく / 課題解決思考
11	課題解決思考 <情報の整理>
12	課題解決思考 <情報の分析・解釈・判断>
13	課題解決思考 <情報の分析・解釈・判断>
14	課題解決思考 <情報の分析・解釈・判断>
15	まとめ・介護過程の理解に向けて

評価

1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30% 2.演習課題の提出（内容評価含む）：70%

総合評価60点以上を合格とする．不合格の場合は，演習課題及びレポートの再提出により評価する．

【フィードバック】提出されたレポート等は，翌週以降の授業で質疑に回答し必要に応じて紹介することもある．

授業外学習

【事前準備】初回時に配布するシラバスを確認し「楽しく学ぶ介護過程」の講義内容を読み予習しておく。講義終了時に課題の提示がある際には必ず取り組むこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに，専門用語や疑問点について調べる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『楽しく学ぶ介護過程』（新版）．時潮社，2018年．

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC239		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、介護過程の概要を理解する科目と位置づけ、次の2つをねらいとする

1. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解し、説明できる
2. 一人で介護過程を一通り展開できる。

また、本科目は、介護実習 - 1 - や介護実習 - 2とも関連性がある。

科目の概要

介護過程を一人で一通り展開できるよう、教授する

学修目標（=到達目標）

1. 介護過程は介護の思考過程、実践方法及び実践過程であることを理解できる（知識・理解）
2. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解できる（知識・理解）
3. 既に学んだ介護の知識・技術・価値を統合し、介護過程の展開ができる（思考・技能・実践）
4. 提示した課題に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ（態度・志向性）
5. 提出物は締め切りを厳守して提出できる（態度・志向性）

内容

1	オリエンテーション
2	介護過程の理解 <定義・目的・構成要素>
3	ICFの視点から利用者を理解する
4	語り、ライフヒストリーから利用者を理解する
5	介護過程の展開（事例1）
6	介護過程の展開（事例1）
7	介護過程の展開（事例1）
8	介護過程の展開（事例1）
9	介護過程の展開（事例2）
10	介護過程の展開（事例2）
11	介護過程の展開（事例2）
12	介護過程の展開（事例2）
13	介護過程の展開（事例2）
14	介護過程の展開（事例2）
15	まとめ

評価

1. 授業への参加状況・課題の提出30%

2. 筆記試験 70%

総合評価 60 点以上を合格とする。不合格の場合は、課題の再提出により評価する

授業外学習

【事前準備】毎回の授業時に課題を提示するので、各自必ず取り組み、次の講義時までに理解を深めておくこと。（各授業に対して 60 分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。講義内で課題が未提出の場合には、必ず取り組み、次講義までに提出すること（各授業に対して 60 分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『楽しく学ぶ介護過程』（新版）時潮社，2018年

科目名	介護過程展開		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC240		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

介護過程基礎で学んだ 1．介護過程の 4 つの構成要素（ アセスメント 計画立案 実践 評価・考察）、2．ICF 理論について、を基礎とし、介護過程展開 では、事例（主に高齢者と障害者）によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの理解を深めることを目的とする。

「基礎介護論」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、「介護実習」、「介護総合演習」との関連性がある。

科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

学修内容

3 年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることを到達課題とする。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション	内 容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
2	事例 1．高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1．のグループワーク演習実践
3	事例 1．高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1．のグループワーク演習実践
4	事例 1．高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1．グループワーク演習（発表準備）
5	事例 1．高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1．グループワーク発表
6	事例 2．居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク演習実践
7	事例 2．居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク演習実践
8	事例 2．居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク（発表準備）
9	事例 2．居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例 2．グループワーク発表
10	事例 2．認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク演習実践
11	事例 2．認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク演習実践
12	事例 2．認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例 2．のグループワーク演習（発表準備）
13	事例 2．認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例 2．グループワーク演習実践発表
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括	内 容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ	

評価

評価 1．演習発表内容 40%、2．筆記試験 60%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎

授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、配布オリジナル資料の学習箇所を事前に読み、わからない用語及び関連用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った配布オリジナル資料の学習箇所を再度読み、わからなかった用語及び関連用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

オリジナル資料の配付。

科目名	介護過程展開		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC340		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護過程」に関する科目の一つである。

科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できるように学ぶ。特に障害者介護における介護過程の展開を理解する。

学修目標（＝到達目標）

1. 障害者介護における介護過程の展開について理解する
2. 介護過程の展開について実習等で実践できるようになる

内容

1	介護過程の展開（障害者）の理解
2	障害者介護における介護過程の視点 生活の自立
3	障害者介護における介護過程の視点 自律とは
4	事例1．介護過程の実際 情報収集
5	事例1．介護過程の実際 アセスメント
6	事例1．介護過程の実際 課題の抽出
7	事例1．介護過程の実際 介護計画の作成
8	事例2．知的障害者支援における介護過程の視点
9	事例2．知的障害者支援におけるケアプラン
10	事例3．介護過程の実際 情報収集とアセスメント
11	事例3．介護過程の実際 課題の抽出
12	事例3．介護過程の実際 介護計画の作成
13	事例3．介護過程の実際 評価と再アセスメント
14	事例研究発表と介護過程総括
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、事例発表20%、課題提出60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。事例発表は、発表後の授業内でコメントする。

授業外学習

【事前予習】指示された課題について準備する

【事後学修】介護過程について様々な事例を各自またはグループで学び、理解を深める

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉教育委員会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

【推薦書】澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	品川 智則		
ナンバリング	KDC341		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、介護支援専門員の作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。

ケアマネジメントのしくみや介護サービス計画を作成するうえで必要な知識や考え方について学び、利用者の自立支援、その人らしく生きることの実現を基本とした介護サービス計画作成のために必要な考え方を多角的に学びます。

科目の概要

本科目では、介護サービス計画を作成するにあたっての基礎となる知識や考え方について学び、利用者の自立支援に向けた介護サービス計画を作成するための考え方を深めます。また、施設ケアの事例を通して実際の介護サービス計画作成に関するプロセスを学びます。

学修目標（＝到達目標）

介護サービス計画作成に関するアセスメントの視点と方法について理解することができる

利用者の自立支援を基本理念とした介護サービス計画作成について理解することができる

内容

第1回～第7回までは、ケアマネジメントの基本的な考え方などを講義を中心にグループディスカッション取り入れながら学びを深めていく。

第8回からは、講義、個人ワークを中心に、事例に対する介護サービス計画の作成に関する学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	介護サービスの特性
3	介護サービス提供の場の特性
4	在宅介護を支えるチームアプローチ
5	家族介護を理解する
6	高齢者の心理（施設に入所する高齢者の心理について考える）
7	中間まとめ
8	施設ケアマネジメント 施設ケアマネジメントの基本的なとらえ方
9	施設ケアマネジメント 施設ケアマネジメントのプロセス
10	施設ケアマネジメント事例演習
11	施設ケアマネジメント事例演習
12	施設ケアマネジメント事例演習
13	施設ケアマネジメント事例演習
14	施設ケアマネジメント事例演習

評価

授業への参加度（取り組み）20% 中間まとめレポート40% 期末まとめレポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出されたレポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】介護保険制度の復習、自立に向けた介護とは何か、生活とは何かについて復習をしてきてください。（各授業に対して60分）

【事後学修】多くの事例に触れ、多様な利用者のニーズやアセスメントの視点について学習してください。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。講義ごとにプリント（資料）を配布します。

【推薦書】講義の中で紹介します。

【参考図書】新・介護福祉士養成講座4 介護の基本 介護福祉士養成講座編集委員会 編集
財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 ケアプラン事例集 東京都介護支援専門員研究協議会編

科目名	発達と老化		
担当教員名	石井 栄子		
ナンバリング	KDC142		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

科目の概要

ライフサイクルを念頭に発達の観点から高齢化を理解し、高齢に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得し、援助への足掛かりとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 人間の成長と発達の観点から人の一生について理解し、説明できる。
2. 高齢化に伴う心身機能の変化を理解し、説明できる。
3. 高齢化に伴う心身機能の変化を踏まえ、援助に必要な基礎的知識を理解し、説明できる。
4. 発達段階を通し、広く高齢期を支える環境援助についても理解し、説明できる。

内容

1	ライフサイクルの捉え方
2	発達段階に沿った各段階の理解 胎生期・乳幼児期
3	発達段階に沿った各段階の理解 児童期
4	発達段階に沿った各段階の理解 思春期・青年期
5	発達段階に沿った各段階の理解 成人期
6	発達段階に沿った各段階の理解 高齢期
7	高齢期の身体機能の変化と日常生活への影響
8	高齢期の身体機能の変化と日常生活から見た援助
9	高齢期の精神機能の変化と日常生活への影響
10	高齢期の精神機能の変化と日常生活から見た援助
11	高齢期の価値観、生きがい援助
12	高齢期のコミュニケーションとその援助
13	高齢期を支える地域援助
14	地域連携と地域包括ケアシステム
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、毎回のリアクションペーパー等20%、授業に対する意欲・関心・態度10% 中間レポート10%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及びリアクションペーパー上で見られた関心、疑問に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布テキストの該当箇所を読み、課題をまとめておく(各授業に対して60分)

【事後学修】返却のリアクションペーパーを確認し、配布テキストの内容と照らし合わせ、理解を深めておく(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】配布テキストを使用

【参考図書】授業内で適宜、紹介する。

科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング	KDC242		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：本科目は人間福祉学科の学位授与方針1・2・3に該当する。本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムの1つである。老年期を中心とした人間発達について学び、対人援助の際の手掛かりを得ることを目的としている。

科目の概要：心理学の観点から、人間の発達過程を理解する。

学修目標：各発達段階でどのような変化が起きるのか、発達を支援するためにはどのようなことが必要か理解する。

内容

各回、配布プリントをもとに講義を行う。

1	ガイダンス・発達とは何か
2	発達における遺伝と環境
3	発達段階と発達課題、老化に関する学説
4	老年期に多い疾患（1）骨・関節・筋肉・循環器
5	老年期に多い疾患（2）消化器・内分泌系
6	老年期に多い疾患（3）泌尿器・皮膚
7	老年期に多い疾患（4）神経系、老年期の疾患の特徴
8	感覚・知覚の発達と老化
9	記憶・注意・反応の発達と老化
10	知能の発達と老化
11	人格の発達と老化
12	老年期のストレスと適応
13	認知症とケア
14	老年期のQOL
15	まとめ

評価

平常点を20点、小テストを30点、期末試験を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

小テストは翌週以降の授業内で返却および問題の解説を実施する。期末試験は試験終了後に返却および解説を行う。

授業外学習

【事前予習】事前に資料を配布するので、授業開始までに読み、用語の意味を調べておくこと。学習時間の目安：各授業に対して15分。

【事後学修】授業で扱ったトピックについて学生同士で話し合いながら内容をまとめ、履修者以外の他者にも内容を説明できるようにしておくこと。学習時間の目安：各授業に対して30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。

資料・参考図書は授業中に紹介します。

科目名	認知症の理解		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC243		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士指定科目である。

認知症については正しく理解されていないことも多いため、認知症に関する基本的・標準的な理解に努めたい。

科目の概要

認知症に関する中核症状及び周辺症状など医学的な理解をはじめ、認知症の人を支援する際に注意すること、認知症の人を介護する家族の心理などについて学ぶ。認知症の人の考えていることや状態について理解を深めてほしい。

学修目標 (= 到達目標)

認知症の種類及び病態について理解する。

認知症の人の考えていることや感じ方について理解する。

家族の心理及び家族支援について理解する。

介護予防上の留意点について理解する。

倫理的な問題、関連する社会制度及び課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション	なぜ認知症について理解する必要があるのか。
2	認知症について知る	「毎日がアルツハイマー」から学ぶ
3	認知症について知る	映画鑑賞から考えたこと
4	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの歴史
5	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点
6	認知症の人の理解	認知症とは何か
7	認知症の人の理解	認知症とは何か
8	認知症の人の理解	認知症とは何か
9	認知症の人の理解	認知症の治療・予防
10	認知症の人の理解	認知症の人の行動と心理
11	認知症の人の理解	若年性認知症の人の理解
12	認知症の人の生活の理解	認知機能の変化が生活に及ぼす生活習慣
13	認知症の人の生活の理解	環境の力
14	認知症の人の生活の理解	地域の人々との関係
15	まとめ	

評価

学習状況・レポート提出状況(40%) ペーパーテスト(60%) を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読し、自分なりに内容を整理し、まとめる（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことについて復習をする。授業時に紹介した資料等について見直し、内容を深められるように、ノートにまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『認知症の理解』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科目名	認知症の理解		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC343		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士指定科目

認知症の理解 で得た知識をもとに介護に必要な視点と支援方法を学ぶ

科目の概要

当事者の思いや願いを汲み取る

家族環境、生活環境、施設環境、病型、進行レベルによる介護の展開

施設、地域、家庭など介護が展開される場の理解

認知症の人と家族の状況とその支援

学修目標

当事者の思いや願いを汲み取ることができる

認知症利用者へのステージ別介護の基本が理解できる

家族や地域社会への支援の必要性、実際に理解できる

内容

1	オリエンテーション 認知症の人のくらしを理解する
2	認知症の人のくらしを理解する（1）映像に見る認知症の人の思いや願い
3	認知症の人のくらしを理解する（2）映像から考える認知症の人のかかわりの基本
4	認知症の人の介護過程～本人や家族の思いや願いから始める介護
5	認知症の初期・中期にある人の介護
6	認知症の後期・終末期にある人の介護
7	地域の連携と協働の実際
8	中間のまとめ
9	認知症に関する制度・関係機関について
10	家族支援のあり方
11	認知症の人の支援に生かす技法（1）回想法
12	認知症の人の支援に生かす技法（2）バリデーションケア 理念と実際
13	課題の発表（1）
14	課題の発表（2）
15	課題の発表・提出（3）まとめ

評価

授業目標に沿った課題の提出20%、授業参加態度30%、試験50%

60%に達しない場合は再試験を実施

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習} テキスト当該章を読み、参考文献にも目を通す

【事後学修】参考文献を1冊以上読み感想・考察をレポートする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 「認知症の理解」中央法規出版

推薦書：小沢勲 「認知症とは何か」岩波新書

野村豊子「回想法とライフレビュー」中央法規

科目名	障がいの理解		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDC144		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP2・3に該当する。

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおけるケアワーク専門科目の1つで、介護福祉士資格取得に必要な指定科目である。福祉的支援を必要とする障がいのある人々を理解し、「生活の質」の向上や地域における「共生」をめざすための知識を習得する。

科目の概要

本科目では主に身体に障害のある人への理解について学ぶ。障害のある人を医学的側面から理解し、その特性や生活上の諸問題、介護上の注意点について理解を深める。

学修目標

- (1) 障がいのある人の心理や身体機能を学び、医学的視点から障がいのある人を理解する。
- (2) 障がいのある人を理解し、本人及び家族、周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。
- (3) 障がいのある人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	障害の概念
2	障害者福祉の基本理念
3	障害のある人の心理的側面の基礎知識
4	視覚障害に伴う機能変化と生活の理解及び支援
5	聴覚障害に伴う機能変化と生活の理解及び支援
6	言語機能障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援
7	肢体不自由（運動機能障害）に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 基礎知識
8	肢体不自由（運動機能障害）に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 心理
9	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 心臓の機能障害
10	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 呼吸器の機能障害
11	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 腎臓の機能障害
12	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 排泄器官の機能障害
13	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 小腸及び肝臓の機能障害
14	内部障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援 HIVによる免疫機能の障害
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト、課題20%、試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】谷口敏代編集「最新介護福祉全書11障害の理解」メヂカルフレンド社

【推薦書・参考図書】適時紹介する。

科目名	障がいの理解		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDC244		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP2・3に該当する。

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおけるケアワーク専門科目の1つで、介護福祉士資格取得に必要な指定科目である。福祉的支援を必要とする障がいのある人々を理解し「生活の質」の向上や地域における「共生」をめざすための知識を習得する。

科目の概要

障がいの理解 に引き続き、主に精神障害のある人や全介助を要する人への理解について学ぶ。障害のある人の特性や生活上の諸問題、介護上の注意点について理解を深める。

学修目標

- (1) 障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
- (2) 障がいのある人を理解し本人及び家族、周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。
- (3) 障がいのある人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	発達障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	発達障害
2	発達障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	知的障害
3	発達障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	自閉症
4	発達障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	合併する障がい
5	精神障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	基礎知識
6	精神障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	精神障害者福祉
7	高次脳機能障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	高次脳機能障害
8	高次脳機能障害に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	認知機能障害
9	全介助を要する人の理解	
10	難病に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	基礎知識
11	難病に伴う機能の変化と生活の理解及び支援	心理
12	障害のある人に対する介護の基本	
13	障害のある人の介護における多職種連携と協働	
14	障害のある人の家族への支援	
15	まとめ	

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト、課題20%、試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】谷口敏代編集「最新介護福祉全書11障害の理解」メヂカルフレンド社

【推薦書・参考書】適時紹介する。

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC245		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士指定科目である。

支援を必要とする人々へに対して、人権尊重を基本とする支援方法を導き出す為の根拠となるこころとからだのしくみについて学ぶ科目である。

科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面（身じたく・移動・食事・排泄・入浴・睡眠等）に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

学修目標（＝到達目標）

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる知識を習得する。

内容

1	オリエンテーション	こころとからだのしくみを理解する必要性をしる
2	こころのしくみについて	人間の欲求、自己実現と尊厳について
3	こころのしくみについて	こころのしくみの基礎
4	からだのしくみについて	加齢による機能低下 骨・関節の動き
5	からだのしくみについて	筋肉の動き、神経系の働き ポディメカニクス
6	身じたくに関連したしくみ	基礎的知識
7	身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
8	身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応
9	移動に関連したしくみ	基礎的知識
10	移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
11	移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応
12	入浴・清潔保持に関連したしくみ	基礎的知識
13	入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
14	入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応
15	総括	

評価

学習状況・レポート提出状況（40％） ペーパーテスト（60％）で総合的に評価し、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書で指定された箇所を熟読し、自分なりに内容をまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことについて各自で内容の理解を深め、ノートにまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】編集 / 介護福祉士養成講座編集委員会「こころとからだのしくみ」第3版 中央法規

ISBN : 978-4-8058-3943-0

【推薦書】編集 / 小坂橋喜久代 松田たみ子

最新 介護福祉全書 12 「こころとからだのしくみ」

ISBN : 978-4-8392-3199-6

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC345		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成のための指定科目である。

支援を必要とする人々に対して、人権尊重を基本とする支援方法を導き出すための根拠となるこころとからだのしくみについて学ぶ科目である。

科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面 (食事・排泄・入浴・睡眠等) に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

学修目標 (= 到達目標)

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる。

終末期におけるこころとからだについて学び、介護を実践することの意味・意義を考えることができる。

内容

1	食事に関連したしくみ	基礎的知識
2	食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
3	食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
4	食事に関連したしくみ	変化と気づきの対応
5	排泄に関連したしくみ	基礎的知識
6	排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
7	排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
8	排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応
9	睡眠に関連したしくみ	基礎的知識
10	睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす
11	睡眠に関連したしくみ	変化の気づきと対応
12	死にゆく人に関連したしくみ	基礎的知識
13	死にゆく人に関連したしくみ	終末期から「死」までの変化と特徴
14	死にゆく人に関連したしくみ	死に対するこころの理解
15	まとめ	

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%) ペーパーテスト (60%) を総合的に評価し、 60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書で指定された箇所を熟読し、自分なりに内容をまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことについて各自で内容の理解を深め、ノートにまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】編集：介護福祉士養成講座編集委員会

「こころとからだのしくみ」第3版 中央法規出版

【推薦書】最新 介護福祉全書 12 「こころとからだのしくみ」

編集 / 小坂橋喜久代 松田たみ子

ISBN : 978-4-8392-3199-6

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC246		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活支援するための「医療的ケアについて」医療職と連携して安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する科目である。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解した上で、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 医療的ケアの意義・目的を理解した上で、喀痰吸引等の安全な実施、保健医療制度とチーム医療、健康状態の把握、清潔保持と感染予防について理解できる。(知識・理解)
2. 上記1.で修得した内容について説明できる。(思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し、提示した課題に対する解決を行うことができる。(思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」を学ぶ目的
2	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」「喀痰吸引等」の用語
3	医療的ケアを学ぶために 医療的ケアニーズの増加
4	医療的ケアを学ぶために 歴史的変遷 介護福祉士の定義に追加された「喀痰吸引等」
5	安全な実施 医行為 教育・研修 安全のための実施条件 記録と報告・連携
6	保健医療制度とチーム医療
7	保健医療制度とチーム医療
8	介護における生活支援と介護の倫理
9	健康状態の把握
10	健康状態の把握
11	健康状態の把握
12	健康状態の把握
13	清潔保持と感染予防 感染予防
14	清潔保持と感染予防 消毒と滅菌
15	まとめ

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%
2. 筆記試験：90%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読み、内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】 授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『医療的ケア』建帛社, 2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC346		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活支援するための「医療的ケアについて」医療職と連携して安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する科目である。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解した上で、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 医療的ケアの意義・目的を理解した上で、喀痰吸引等の安全な実施、保健医療制度とチーム医療、健康状態の把握、清潔保持と感染予防について理解できる。(知識・理解)
2. 上記1.で修得した内容について説明できる。(思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し、提示した課題に対する解決を行うことができる。(思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	「医療を必要とする人への介護」(筆記試験)の復習 / 清潔保持と感染予防(2)演習
2	喀痰吸引概論
3	喀痰吸引概論
4	喀痰吸引概論
5	喀痰吸引概論
6	喀痰吸引概論
7	喀痰吸引概論(筆記試験を含む)
8	経管栄養概論
9	経管栄養概論
10	経管栄養概論
11	経管栄養概論(筆記試験を含む)
12	子どもの吸引
13	喀痰吸引に伴うケア
14	? リスクマネジメント
15	? リスクマネジメント

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容 : 10%
2. 筆記試験 : 70%

3. 提出物：20%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、課題レポートを課す。

授業外学習

【事前予習】事前にテキスト等の内容で指示した点について、内容を整理し、まとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、小山 サヨ子		
ナンバリング	KDC446		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。

1. 生活支援するための「医療的ケアについて」医療職と連携して安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。
2. 救急蘇生・喀痰吸引についての知識及び技術を習得する。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解した上で、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

1. 医療的ケアの意義・目的を理解した上で、喀痰吸引等の安全な実施、保健医療制度とチーム医療、健康状態の把握、清潔保持と感染予防について理解できる。（知識・理解）
2. 上記1.で修得した内容について説明できる。（思考・技能・実践）
3. 自己学習及びグループ学習を通し、提示した課題に対する解決を行うことができる。（思考・技能・実践）
4. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	? 緊急時の対応
2	? 緊急時の対応
3	喀痰吸引概論・経管栄養概論の確認試験（60点以上を合格とする）
4	喀痰吸引・経管栄養の実施手順の確認（演習評価の準備）
5	演習 救急蘇生
6	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
7	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
8	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
9	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
10	演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内）
11	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
12	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
13	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
14	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）
15	演習評価（2） 喀痰吸引（鼻腔内）

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30%
2. 筆記試験：70%

, 総合評価60点以上を合格とする .

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読み、指定のDVDを視聴し、内容をまとめる（各授業に対して60分）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、内容を深められるようにノートにまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『医療的ケア』建帛社，2015年

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、小山 サヨ子		
ナンバリング	KDC546		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。

- 1.生活支援としての「医療的ケア」について医療職と連携して安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
- 2.喀痰吸引、経管栄養についての知識及び技術を習得する。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う。

学習目標

1. 喀痰吸引（気管カニューレ内部）、経管栄養（経鼻経管栄養，胃ろう）の演習評価に合格できる。（知識・理解）（思考・技能・実践）
2. 毎回の授業に対し，自ら取り組み，考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
2	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
3	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
4	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
5	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
6	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
7	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
8	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
9	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
10	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
11	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
12	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
13	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
14	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
15	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）

評価

- 1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：50%
- 2.演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。 かつ、1.2.について、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴する（各授業に対して60分）

【事後学修】 演習で自分の不足している部分について、授業内容を振り返り、ノートにまとめる（各授業に対して60分）
（ .

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書： 『医療的ケア』建帛社，2015年．

科目名	保育原理		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd147		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は「保育士資格」取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能（技法）・表現、 関心・意欲・態度にかかわる科目である。

科目の概要

乳幼児期の保育に関する制度や歴史、保育の本質とその意義について学んでいく。保育士業務に関する基礎的かつ重要な内容であることから、適宜試験やレポート作成などを行い、知識の定着を図っていく。

学修目標（＝到達目標）

本科目では、 保育所の役割や保育の目的・方法理解すること、 保育所の諸制度や思想を理解すること、 保育者の役割や職業倫理について理解することを、目標とする。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	保育の意義と目的、対象
3	保育所等の機能と社会的役割
4	保育所等の制度的枠組み
5	保育職の資格・免許
6	諸外国の保育の思想と歴史
7	日本の保育の思想と歴史
8	保育所保育の基本
9	保育の目標
10	保育の方法
11	保育の内容
12	環境を通じた保育の展開
13	保育の環境
14	保育の計画と評価
15	まとめ

評価

評価は 授業への取り組み10%、 提出物40%、 試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

毎回のリアクションペーパー、試験の結果をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】授業内で事前配布する予習プリントに、予め内容を記入し持参すること。(各回60分)

【事後学修】各回の授業内容を各自でまとめておくこと。(各回60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

柴崎正行編著(2018)『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社、厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館、内閣府・厚生労働省・文部科学省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【参考図書】

子どもと保育総合研究所監修『最新保育資料集2019』ミネルヴァ書房、森上史朗・柏女靈峰編『保育用語事典第7版』ミネルヴァ書房

科目名	教育原理		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDd248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本授業は、学科の専門選択科目であり、保育士課程の指定科目である。学位授与方針2に関連し、保育の実践に関する知識、また対象者の生涯の段階における生活課題を理解することに関連する。

科目の概要

近代教育学の概要を踏まえ、幼児教育の理論と実践、今日の現状について理解する。

また、生涯教育の観点から、保育士としての専門職における学習と職能成長について言及する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 教育の意義、目的及び児童福祉法等とのかかわりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

内容

講義を基本とし、個人もしくはグループでのワークを教授法として用いる。

1	オリエンテーション
2	教育とは何か：教育の意義、教育の目的、ホリスティック教育における3つの学習
3	教育とケア：メイヤロフ、ノッティングス、佐藤学
4	学習とは何か：心理学の知見を中心に
5	近代教育学の思想1：子どもの誕生、ルソー、ペスタロッチ
6	近代教育学の思想3：フレーベル、子どもの自己形成空間論
7	近代教育学の思想4：倉橋惣三
8	教育の制度1：日本国憲法、教育基本法、保育所保育指針
9	教育の制度2：子どもの権利条約
10	教育の実践1：保育所における保育実践と保育カリキュラム
11	教育の実践2：子どもと自然、野外教育を中心に
12	生涯教育論1：生涯学習施策、生涯学習社会、現代の教育的課題
13	生涯教育論2：成人教育論における意識変容の学習
14	生涯教育論3：成人教育論における省察的学習
15	まとめ：保育士としての職能成長と生涯学習

評価

授業中のミニワークを30点、最終レポート課題を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】自分自身のこれまで教育を受けた経験から、教育についてのイメージをブレインストーミングで挙げてみましょう。

【事後学修】自分自身の子どもに対する教育観について、言及し記述してみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布。

【推薦書】広田照幸・塩崎美穂編著（2010）教育原理、樹村房 山野則子他（2012）福祉教育学の招待、せせらぎ書房

【参考図書】 佐藤学（1995）学びその死と再生、太郎次郎社 ノディングズ（1997）ケアリング、晃洋書房

科目名	相談援助		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd349		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「関心・意欲・態度」に関わる科目である。

科目の概要

少子高齢化が進むなか、家族形態、社会構造にも大きな変化が生じている。このような状況の中で、保育士は、保護者の不安定な心理状況を支え、親と子どもが安定した関係性が保てるように支援することが役割であるといえる。そこで保育士として、相談援助の理論、援助技術の意義、原則、展開を学び、保育士としての視点からソーシャルワークとは何かを学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 相談援助の概要について理解する。
- 2) 相談援助の方法と技術について理解する。
- 3) 相談援助の具体的展開について理解する。
- 4) 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

内容

1	オリエンテーション 保育と相談援助、相談援助とは何か
2	相談援助の過程と連携
3	相談援助者になるために1（自己覚知）
4	相談援助者になるために2（他者理解）
5	相談援助者になるために3（基本的態度、コミュニケーションスキル）
6	相談援助者になるために4（記録）
7	相談援助を行う前に（生活課題の把握、社会資源の把握）
8	相談援助の過程（インテークとアセスメント、援助計画、実施、評価）
9	事例検討の意義と方法
10	ショート事例集
11	児童虐待への対応事例
12	児童養護施設の事例
13	DVの事例
14	障がい受容の事例・創作事例（ロールプレイ）
15	まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】前田敏雄 監修、佐藤伸隆、中西遍彦 編集・「演習・保育と相談援助 [第2版]」・みらい

【推薦書】日本保育ソーシャルワーク学会編・「保育ソーシャルワークの世界 理論と実践」・晃洋書房

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	保育者論		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd350		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能（技法）・表現、 関心・意欲・態度にかかわる科目である。

科目の概要

専門職としての保育者の役割や倫理について学ぶとともに、その専門性について考察する。保育所と児童福祉施設の保育者の制度的位置付けと職務を確認するとともに、他機関や他の専門職との連携や協働について学び、保育者の専門性に対する理解を深める。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 保育者の役割と倫理について理解する。
- 2) 保育士の制度的な位置づけを理解する。
- 3) 保育士の専門性について考察し、理解する。
- 4) 保育者の協働について理解する。
- 5) 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、事例分析等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	保育者の職務と制度的位置づけ
3	保育士の役割と専門性
4	保育士の役割と専門性
5	子どもに対する保育に関する倫理
6	保護者に対する子育て支援に関する倫理
7	全国保育士会倫理綱領の理解
8	全国保育士会倫理綱領の理解
9	保育士に求められる資質・能力
10	課程との連携と保護者に対する支援
11	保育における職員間の連携・協働
12	地域の社会資源との連携・協働
13	保育者の資質向上とキャリア形成
14	資質向上に関する組織的取り組みとリーダーシップ
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢10%、提出物50点、試験40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

毎回のリアクションペーパーをフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】各回で取り扱う授業内容について、指定された保育所保育指針解説ページをまとめてくること。また、事前課題レポートを作成し、提出すること。（各回90分）

【事後学修】授業内容に関する復習ノートを作成し、各回の授業内容をまとめること。（各回60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館

このほか、授業内で具体的に指示する。

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	子どもの保健		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDd152		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当する。

本科目は、「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられ、保育士資格取得に必要な指定科目である。子どもの健康増進を図る保健活動について学ぶ。

科目の概要

本科目は、保育者として子どもを健康に療育するために必要な基礎知識を学ぶ。子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの心身の発育・発達、子どもの健康状態とその把握について理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 子どもの心身の発達の特徴を理解できる。
- (2) 子どもの生活習慣と健康について理解できる。
- (3) 子どもの心身の健康に関する現状と課題を理解できる。
- (4) 子どもの健康状態とその把握の方法を説明できる。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	子どもの保健の意義と目的
2	子どもの身体の発育と発達
3	子どもの生理機能の発達と保健 循環器、呼吸器、消化器
4	子どもの生理機能の発達と保健 排泄、免疫、体温調整
5	子どもの運動機能の発達と保健
6	子どもの精神機能の発達と保健
7	子どもの生活環境 (家庭、地域、自然)
8	子どもの生活習慣と健康 食事、排泄
9	子どもの生活習慣と健康 睡眠、清潔
10	子どもの心の保健 (発達障害、登校拒否、虐待)
11	子どもの栄養 子どもの栄養の特徴
12	子どもの栄養 治療と栄養
13	子どもによくみられる症状と対処 健康状態の観察と評価
14	子どもによくみられる症状と対処 主な症状と対処
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト15%、課題15%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにポイントをまとめ理解を深めておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】駒田聡子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

内山有子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

【推薦書・参考書】適時紹介する。

科目名	子どもの保健		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDd252		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与DP1・2・3に該当する。

本科目は、「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられ、保育士資格取得に必要な指定科目である。子どもの健康増進と安全管理について学ぶ。

科目の概要

本科目では、保育者として子どもの健康を守り、安全管理を行うために必要な知識を学ぶ。子どもの疾病の特徴や心身の健康状態の観察、不調等の早期発見、適切な対応方法、予防法について家庭や専門職等との連携・協働とともに理解する。

学修目標（＝到達目標）

- （１）子どもの疾病の特徴と予防方法を説明できる。
- （２）体調不良における子どもへの対応について説明できる。
- （３）母子保健における家庭や専門機関、地域との連携のあり方について理解できる。
- （４）主な母子保健対策を説明できる。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
2	障害のある子どもへの適切な対応
3	子どもの疾病と予防 胎児、先天性、新生児疾患
4	子どもの疾病と予防 消化器、呼吸器、循環器疾患
5	子どもの疾病と予防 精神、神経疾患
6	子どもの疾病と予防 泌尿器、内分泌代謝、皮膚疾患
7	子どもの疾病と予防 運動機能、感覚器、その他重要な疾患
8	子どもの疾病と予防 感染症
9	疾病の予防と予防接種
10	子どもの事故と安全教育
11	救急蘇生と応急手当
12	集団保育における健康管理
13	母子保健対策の現状と動向
14	母子保健における家庭、専門機関、地域との連携
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト15%、課題15%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読み、内容を理解しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにポイントをまとめ理解を深めておく。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】駒田聡子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

内山有子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

【推薦書・参考書】適時紹介する。

科目名	子どもの保健演習		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDd253		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当する。

本科目は、「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられ、保育士資格取得に必要な指定科目である。子どもの健康増進を図る保健活動について具体的な実践の方法を学び、小児保健の援助能力を養う。

科目の概要

本科目は、保育者として子どもの健康や安全を守りながら療育するための支援の方法について学ぶ。子どもの発育・発達の状況や健康状態、健康を保持増進するための支援方法、集団保育における安全管理のあり方や保護者との連携の実際について演習・実技を通して理解していく。

学修目標（＝到達目標）

- (1) 子どもの心身の発達状況及び健康状態を適切に把握・評価できる。
- (2) 子どもの状態に応じた日常生活の支援を適切に実施できる。
- (3) 集団保育における安全指導や安全管理の方法を理解し実施できる。
- (4) 保護者との情報共有の方法を理解できる。

内容

この授業は演習を中心としグループワークやディスカッションを取り入れ学びを深めていく。

1	保健活動の計画・評価
2	健康観察と記録（バイタルサイン測定）
3	身体発育の観察と評価（身体計測）
4	生活形成技術（抱き方、おんぶ、寝かせ方、昼寝）
5	排泄支援技術（おむつ交換、トイレトレーニング）
6	着脱支援技術（衣服の選択、更衣）
7	清潔支援技術（沐浴）
8	食生活支援技術（授乳、調乳、口腔ケア）
9	体調不良児への対応 発熱、嘔吐、下痢、冷温罨法
10	体調不良児への対応 けいれん、発疹、腹痛、咳、鼻出血、軟膏塗布、坐薬
11	事故、けがに対する応急処置 出血、熱傷、打撲、異物誤飲、包帯法
12	事故、けがに対する応急処置 救急蘇生法、発作対応、アナフィラキシー
13	集団保育における保健教育の実際 ほけんだよりの作成
14	集団保育における保健教育の実際 ほけんだよりの発表
15	まとめ

評価

授業への取り組み10%、演習課題シート20%、課題20%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出された演習課題シート及び課題、はコメントを記載し、振り返りの解説を行い理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読み、内容を理解しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにポイントをまとめ理解を深める。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】駒田聡子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

内山有子他「子どもの保健 第2版」株式会社みらい

【推薦書・参考書】適時紹介する。

科目名	子どもの食と栄養		
担当教員名	金高 有里		
ナンバリング	KDd254		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける必修科目であり、「保育の対象を理解すること」を目的としています。小児期の食生活や栄養に関する基本的知識と保育実践に係る食育の基本と内容について学ぶ演習科目です。

科目の概要

乳幼児期の栄養を中心として成長・発達期の栄養のもつ意義を学習します。さらに、小児栄養の重要性を理解して、未来を担う子どもたちが健全な発育をしていくために取られている対策を学びます。また、子どもの発育の特徴と実態を把握し、食べる機能や消化吸収機能の発達について理解を深め、子どもの発育や栄養状態を評価する意義と方法を理解します。

学修目標（＝到達目標）

1. 健康な生活を基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める
3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する

内容

1	オリエンテーション、乳幼児栄養の考え方、子どもの健康と食生活の意義
2	栄養に関する基本的知識(1) 栄養の基本的概念
3	栄養に関する基礎知識(2) 栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基礎知識(3) 食事摂取基準と献立作成
5	乳児期の食生活(講義)母乳栄養・人工乳栄養・混合栄養
6	乳児期の食生活(実習)調乳
7	離乳の意義と食生活(講義)
8	離乳の意義と食生活(実習)離乳食
9	幼児期の心身の発達と食生活
10	学童期の心身の発達と食生活
11	生涯発達と食生活
12	食育の基本と内容
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15	まとめ

評価

授業内の小試験またはレポート、および期末試験により総合的に評価する。

評価の比率は、レポート30%、期末試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】シラバスを確認し、授業内容について事前にテキストを読んでから、授業に臨んでください。

【事後学修】授業で配付する資料は、その時間内で必ず理解しておいて欲しい内容です。理解が不十分だった内容について、特に学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】高内正子監修、今津屋直子編著：『子どもの食と栄養』（第2版）保育出版社

【推薦書】1．堤ちはる・土肥正子編著：『子育て・子育てを支援する小児栄養』萌文書林

2．巷野悟郎・向井美恵・今村栄一監修：『心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援』医歯薬出版株式会社

科目名	児童・家庭支援論		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd255		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの「生活課題の問題点を複合的に思考し、判断する」力にかかわる科目である。

科目の概要

本科目では、子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の在り方について学んでいく。

学修目標（＝到達目標）

本科目の目標は、子育て家庭を取り巻く社会的状況とその課題を理解する、子育て支援サービスの法制度を体系的に理解する、子育て支援の具体的方法について学ぶ、の主に3点である。

内容

1	オリエンテーション
2	子育て家庭を取り巻く状況と子育て支援の必要性
3	支援対象としての家族・家庭の理解
4	子育てをめぐる社会環境
5	子育て支援施策の展開 少子化と子育て支援
6	子育て支援施策の展開 多様な保育サービスとその制度
7	子育て支援の基本
8	子育て支援の基本
9	地域の関係機関・社会資源との連携とネットワーク
10	保育所における地域子育て支援 地域子育て支援拠点
11	保育所における地域子育て支援 多様な子育て支援サービス
12	特別なニーズをもつ家庭への支援 子ども虐待への対応
13	特別なニーズをもつ家庭への支援 ひとり親家庭・ステップファミリーへの支援
14	特別なニーズをもつ家庭への支援 外国籍家庭に対する支援
15	特別なニーズをもつ家庭への支援 発達上の課題をもつ子どもの保護者への支援

評価

参加姿勢10%、 試験50%、 提出物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】成果物の発表と講評を行う。

授業外学習

【事前準備】テキストの該当箇所、保育所保育指針を事前に読んでおくこと。(各回60分)

【事後学修】各回の授業内容のうち、指定された学習内容をまとめ復習ノートを作成すること。(各回120分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

厚生労働省『保育所保育指針解説書』

高辻千恵他(2016)『新プリマーズ/保育/福祉 家庭支援論』ミネルヴァ書房

【参考図書】

橋本真紀他『よくわかる家庭支援論(第2版)』ミネルヴァ書房

科目名	児童・家庭支援演習（介入事例検討）		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd256		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得希望者を対象とした科目であり、主に市町村に勤務する公立保育士として、公立保育所及び、児童相談所一時保護（保育職）での実例やモデルを用いてより深く探求する科目である。また、本学科の学位授与方針1、及び3に該当し、知識・理解・技能（技法）・表現、に関わる科目である。

履修に際して、「保育原理」、「教育原理」、「社会的養護」、「児童・家庭福祉論」、「社会福祉概論」、「保育の心理学」、「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」、「保育実習指導 a・b」の単位取得済みを前提としている。

科目の概要

「保育実習 B」での体験、及び学習を前提により深く事例検討による考察を深める。

学修目標（＝到達目標）

主に市町村に勤務する公立保育士として、公立保育所及び、児童相談所一時保護（保育職）の従事に際し、適切な対応を取れるようになる。

内容

1	オリエンテーション：公立保育士の実際
2	保育所における保育士の子どもと家庭支援の実際
3	児童養護施設における保育士の子どもと家庭支援の実際
4	乳児院における保育士の子どもと家庭支援の実際
5	母子生活支援施設における保育士の子どもと家庭支援の実際
6	障害児施設における保育士の子どもと家庭支援の実際
7	親子関係の調整と演習（1）
8	親子関係の調整と演習（2）
9	学校・地域との関係調整と演習
10	リービングケアと演習
11	アフターケアと演習
12	子どもの最善の利益と演習
13	子どもの権利を守る仕組みと演習
14	生存と発達の保障と演習
15	まとめ

評価

授業への参加度40%、中間発表20%、テスト40%とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは、授業で指示する。

演習課題を随時配布する。

科目名	保育課程論		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd257		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格必修であり、本学科ディプロマポリシーのうち、3「保育の実践に関する知識に基づく複合的な思考・判断」にかかわる科目である。

科目の概要

本科目の前半では、保育における計画と評価について講義を通して理解を深める。後半では、指導計画を実際に作成と実践を行い、体験を通して保育の計画の実際について学んでいく。

学修目標 (= 到達目標)

本科目の学習目標は、以下の3点とする。

- 1 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
- 2 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
- 3 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。

内容

第1回～第4回 保育の計画の必要性、種類や構造についてのディスカッション
 第5回～第6回 実際の指導計画を活用したグループワーク(書式の多様性や内容についてまとめる)
 第7回 グループディスカッション 保育の質の向上とカリキュラムマネジメントについて
 第8回～第13回 グループワーク 指導計画の作成と発表・ディスカッション 評価の観点について
 第14回～第15回 グループワーク: 子ども理解から保育の展開について各グループでまとめ、発表する。

1	オリエンテーション
2	保育の過程と計画の必要性
3	保育における計画の種類 全体的な計画
4	保育における計画の種類 長期・短期の指導計画
5	子ども理解にもとづく計画 記録から計画へ
6	子ども理解にもとづく計画 子どもの実態に即した柔軟な展開
7	カリキュラムマネジメントと質の向上
8	指導計画の作成
9	指導計画の作成
10	指導計画の作成
11	計画にもとづく実践と評価
12	保育の評価と改善
13	評価・改善を踏まえた計画の立案

14	子ども理解にもとづく実践の展開
15	まとめ

評価

評価授業への参加度30%、小レポート・中間課題(指導案作成)30%、期末レポート課題40%として総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

作成した指導案の評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業に関するテキストの該当部分を読んでおくとともに、指導案作成に必要な情報や知識を各自で調べておく。発達に即した教材研究を各自で行う。各授業1時間

【事後学修】各回の授業内容をまとめ、理解を深める。作成した指導計画の自己評価と改善を行う。各授業1時間

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

指定教科書は使用しない。授業内に資料を配布する。

【参考書】

河邊貴子『教育課程保育課程論』東京書籍

那須信樹『新・基本保育シリーズ13 保育カリキュラム論』中央法規

厚生労働省『保育所保育指針』

科目名	保育内容総論		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd158		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育の全体構造を理解し、その中でも保育の基本的な考え方についての理解を深める。子どもの主体性を尊重し、充実した遊びや体験となるための援助について、基礎的な知識を習得するとともに、現代の子どもを取り巻く環境や生活を踏まえ、保育の多様な展開についても学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- ・乳幼児期にふさわしい生活や遊び、保育の全体的な構造について理解する。
- ・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景、保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を理解する。
- ・保育を観察・記録する技術を身に付ける。

内容

1	オリエンテーション
2	保育の全体構造と保育内容の理解
3	保育内容の歴史的変遷
4	子どもの発達や生活に即した保育内容
5	子どもの主体性を尊重する保育（グループワーク）
6	環境を通して行う保育（グループワーク）
7	生活や遊びによる総合的な保育（グループワーク）
8	中間まとめ
9	個と集団の発達を踏まえた保育
10	家庭・地域・小学校との連携
11	特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育（グループワーク）
12	保育における観察と記録（グループワーク）
13	保育における観察と記録（グループワーク）
14	保育における観察と記録（グループワーク）
15	まとめ

評価

授業への取り組み・提出物40%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

ワークシート、レポート等においては、教員からのコメント、解説を行う。

授業外学習

【事前準備】各回で指定された内容の予習と、保育や子どもに関する情報を集めてまとめておくこと。（各授業において60分）

【事後学修】授業内容やグループ内での話し合いの内容をレポートにまとめておくこと。（各授業において60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省『保育所保育指針解説書』（その他、適宜プリントを配布）

汐見稔幸 監修『保育所保育指針ハンドブック』学研

【推薦書】

鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記録入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育内容演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd260		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

各年齢における人間関係のあり方について理解し、人的環境である保育者として必要なことは何かを考え学ぶ。ディプロマポリシー3に該当する。

科目の概要

保育士資格、取得のための必須科目である。この授業では、乳幼児期の人間関係の発達の姿を理解し、必要な援助について学ぶ。また、保護者や子どもの関わりについて、自身の人間関係について各自の考えを積極的に発言し主体的に取り組むことを望む。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 保育所保育指針の領域「人間関係」について理解する。
- ・ 乳児期から幼児期にかけての人間関係について理解する。
- ・ 遊びや集団活動を通して、規範意識や自立、自律の発達・成長を理解する。
- ・ 「人間関係」という視点から保育者の役割について理解する。
- ・ 愛着形成の重要性を理解する。

内容

第1回 子どもの発達と人との関わりについて、これまでの自分を振り返り、どのような人と関わってきたのか、のマップングを作成し、発表する。

第2回 グループワーク：子どもを取り巻く人間関係に関する諸問題のマップング

第3回 領域「人間関係」のねらいと内容についてキーワードを抽出し、ディスカッションを行う。

第4回 事例を基に求められること・保育者の役割についてディスカッションする。

第5回 グループディスカッション：乳児期の愛着と基本的信頼感を育むためにはどのような関わりが求められるのか

第6回 事例を基に、1歳児の二項関係、三項関係について理解し、保育者の役割について、グループディスカッションをする。

第7回 事例をもとに、自我の芽生えについて、グループディスカッションを行う。

第8回 事例をもとに、子どもの自立について理解し、生活面、遊びにおける自立についてグループディスカッションを行う。

第9回 事例をもとに、遊びを通じた他者とのつながりについて、グループディスカッションを行う。

第10回 事例をもとに、遊びや生活面での仲間意識の芽生えについてグループディスカッションを行う。第11回 事例

をもとに、協同性についてグループディスカッションを行い、子どもたち同士で解決する力、工夫する力を促す保育者の役割について理解を深める。

第12回 事例をもとに、異年齢交流や保幼小の連携活動を通して育まれることについてグループディスカッションを行い、

理解を深める。

第13回 事例をもとに、多文化共生保育や、インクルーシブ保育について理解し、保育者の役割についてグループディスカッションを行い、理解を深める。

第14回 人との関わりを育てる保育者の様々な役割について、グループワークとしてパワーポイントにまとめる。

第15回 まとめ 各グループの発表とディスカッション

評価

平常点30%、課題提出物20%、レポート提出50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

課題した提出物に関しては、評価をし翌週以降の授業内で返却する。

提出物、リフレクションシートを活用し、前授業のフィードバックを実施する。

授業外学習

【事前学修】保育所保育指針と指定テキストを事前に熟読しておくこと。また、分からない用語は調べておくこと。各授業に対して1時間

【事後学修】授業内容の復習をするとともに、実習や保育現場に向けて学びを整理し、ノートにまとめること。各授業に対して1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】横山真貴子編 「子どもと保育者でつくる人間関係 「わたし」から「わたしたち」へ 保育出版社

【推薦書】田宮縁 「体験する・調べる・考える 領域 人間関係」 萌文書林

無藤隆・古賀松香 「実践事例から学ぶ保育内容 社会情動のスキルを育む 保育内容 人間関係」 北大路書房

【参考図書】幼稚園教育要領、保育所保育指針、

科目名	保育内容演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd261		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

本科目では、保育所等における保育内容のうち、領域「環境」に関わる内容と方法について学んでいく。乳幼児期の子どもが安定して生活するための生活環境、心身の発達や学びを支えるための遊びの環境について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

本科目の目標は、 保育方法としての環境構成、領域「環境」のねらいと内容について理解する、 子どもの生活や遊びを支えるための環境について理解する、 子どもの発達や興味・関心に即した環境を意図的に構成することができるの3点である。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	保育方法としての環境
3	領域「環境」のねらいと内容
4	子どもの発達と環境 0歳児
5	子どもの発達と環境 1・2歳児
6	子どもの発達と環境 3・4・5歳児
7	発達を促す遊びと教材
8	発達を促す遊びと教材
9	発達を促す遊びと教材
10	子どもの安全・安心を支える生活環境
11	身近な動植物とのかかわり
12	数量・図形とのかかわり
13	記号・文字とのかかわり
14	保育における環境構成
15	保育における環境構成

評価

授業への参加姿勢20%、 ポートフォリオ70%、 レポート10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

ポートフォリオやレポートに対しコメントする。

授業外学習

【事前準備】授業内で提示された課題に取り組んだ上で、授業に参加すること。（各回60分）

【事後学修】各回の授業内容をまとめ、指定課題レポートを作成すること。（各回90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

高山静子(2014)『環境構成の理論と実践 保育の専門性にもとづいて - 』エイデル研究所

厚生労働省(2018)『保育書保育指針解説』

【推薦書】【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育内容演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd362		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目である。ディプロマポリシー2に該当する。

科目の概要

本科目は、保育における領域「言葉」に関する科目である。子どもの言葉の発達の理解、子どもの言葉の発達を支援する手立ての理解、保育者として必要な言葉の力の向上が主な内容である。下記のテキストを中心とした15回の内容に加え、各回で受講者による保育実践の発表を行う。

学修目標 (= 到達目標)

本科目の目標は以下の通りである。(1)保育における領域「言葉」について理解している。(2)子どもの言葉の発達について理解している。(3)子どもの言葉の発達を支援する手立てを理解し、実践できる。(4)保育者として必要な言葉の力が身についている。

内容

- 第1回 オリエンテーション・言葉をめぐる諸問題の理解：ディスカッション：子どもを取り巻く言葉の諸問題について
- 第2回 保育における「言葉」領域「言葉」のねらい(他領域との関連)：グループワーク：領域「言葉」のキーワードの抽出
- 第3回 領域「言葉」と小学校「国語」の関連：ディスカッション：小学校以上の教科と領域の相違について
- 第4回 言葉の発達(前言語期)：グループワーク：乳児期からの言葉の発達について、発声の違いや言葉の変化をまとめる
- 第5回 言葉の発達(話し言葉)：ロールプレイ：3歳児、4歳児、5歳児の遊びの場面から、言葉の使い方の特徴について理解する
- 第6回 言葉の発達(書き言葉)：ディスカッション：事例を基に、書くことへの興味と文字について、気づいたことを話し合う
- 第7回 言葉を豊かにする保育環境：グループワーク：事例を基に、保育者の役割、保育室の環境について気づいたことをまとめる。
- 第8回 応答的な関わりと言葉：ディスカッション：家庭での子どもの様子や保育者の関わり
- 第9回 子ども同士の関わりから育つ言葉：ディスカッション：子どもが気持ちを表現すること
- 第10回 児童文化財と言葉の関係：ディスカッション：絵本の役割を考える
- 第11回 児童文化財と言葉の関係：グループワーク：様々な絵本の種類と内容を分析する
- 第12回 保育の指導計画の作成と実践：グループワーク：指導計画に沿って、読み聞かせの場面を実践する。
- 第13回 言葉遊びと言葉の獲得：グループワーク：言葉への関心を豊かな言葉を育む言葉遊びについて、まとめ、発表する。
- 第14回 言葉に関する障がいの理解と支援：ディスカッション：事例に基づいた支援の在り方と関連施設の理解

評価

授業への参加度10% 発表50%、 ミニテスト40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表内容に対する評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り扱うテキスト該当章を読んでおく。また、自分の発表会については計画的に準備を進める。各授業1時間

【事後学修】各回の議論の内容をまとめておく。各授業1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

内藤知美・新井美保子（編著）『コンパス保育内容言葉』建帛社

厚生労働省『保育所保育指針』

【推薦書】

文部科学省『幼稚園教育要領』

その他 授業内で適宜紹介する

科目名	保育内容演習		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd363		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は保育専門科目の一つであり、保育士資格の必修科目である。3回の保育実習を通して学んだ乳幼児の表現と、子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割について、理解と考察を深めていく。また、本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」「 関心・意欲・態度」に深くかかわる科目である。

科目の概要

乳幼児期の表現について、素材や環境設定、保育者の支援や役割について学ぶ。

また、音楽的な遊びや物語の読み聞かせ、身近な素材から遊びを考える活動などを通して、仲間と協力しあい、かかわりを深めていく力や、イメージを自分なりに表現する力をつけることも目的とする。

学修目標（＝到達目標）

- ・乳幼児の表現活動における援助方法や環境構成について理解する。
- ・声・身体・楽器・身近な素材などを用いて、自分なりのイメージを表現する。
- ・表現活動に取り組んで自ら感じたことを保育の現場でどう生かすのか、考えを深める。

内容

1	オリエンテーション
2	子どもの表現の捉え方（実習の振り返り）
3	身近な素材を使った遊び
4	乳幼児の運動遊び
5	乳幼児のリズム遊び
6	楽器を使った表現活動（分担奏）（グループワーク）
7	楽器を使った表現活動（分担奏）（グループワーク）
8	楽器を使った表現活動（分担奏）、グループ発表
9	秋の自然物を使った造形表現
10	秋の自然物を使った造形表現
11	秋の自然物を使った造形表現、製作物の発表
12	伝統行事における総合的な表現活動（グループワーク）
13	伝統行事における総合的な表現活動（グループワーク）
14	伝統行事における総合的な表現活動（グループワーク）
15	伝統行事における総合的な表現活動、グループ発表、まとめ

評価

授業への取り組み30%、実演・発表30%、ワークシート・レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークや発表に対してその都度コメントし、より深い気づきを促す。提出物についてはコメントを記載し返却する。

授業外学習

【事前準備】事前に示されたテーマについて、乳幼児の表現活動の展開を考えたりアイデアを集めたりしてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内で扱った内容について、自分の考えやヴァリエーションを加えた資料を作成すること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業において資料を配布する

【推薦書】授業において適宜紹介する

【参考図書】授業において適宜紹介する

科目名	乳児保育		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd264		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「保育の内容・方法に関する科目」に位置づけられている。ディプロマポリシー2に該当する。

0・1・2歳児の基本的理解と0・1・2歳児保育の実際について理解し、保育者の専門性を身につける。

科目の概要

0・1・2歳児の日常生活を理解するための知識や方法の基本を学ぶ。現在において0・1・2歳児にとってふさわしいと環境とはどのようなものかを追求しつつ、「0・1・2歳児の最善の利益」とは何なのかを考え、日々保育実践をする保育者がいる。この授業では、現代の子育て事情を理解しながら「乳児が乳児として生活する」ことを目指し、蓄積されている具体的な0・1・2歳児の保育の内容や方法について、事例から検討を進めていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1．0・1・2歳児の発達やその特徴を理解し、保育者の援助や配慮を具体的に述べることができる。
- 2．乳児保育の意義を理解して、基本的な保育者の役割が説明できるようになる。
- 3．具体的な事例の検討などを通して、自分なりの保育観を持ち、自分の言葉で説明できる。
- 4．乳児保育における保護者や関係機関との連携について説明できる。

内容

第1回～第6回事例を基にグループディスカッション

第7回～第9回事例や写真を基にグループワーク（乳児保育と遊び）

第10回～第14回 事例を基にグループディスカッション

第15回 これまで学んだことを基に各グループでテーマを定め、パワーポイントで発表する。

1	オリエンテーション・乳児保育の意義・乳児保育の歴史と現代的課題
2	ヒトの子育てと乳児の発達
3	乳児の生活＜睡眠＞
4	乳児の生活＜食事・排泄＞
5	乳児の生活＜健康・安全＞
6	乳児の生活＜乳児としての日課と保育者の仕事＞
7	乳児の生活＜遊び1＞
8	乳児の生活＜遊び2＞
9	乳児保育の環境
10	家庭・地域などとの連携
11	保育者の専門性-関わりの観点から -
12	子どもの生活を共にする保育者の役割＜クラス担任間の連携・保育所内での連携＞
13	保育の計画と評価＜保育課程と指導計画＞
14	子育て支援＜親が親になる過程を支えていく＞

評価

平常点 20% 課題提出 30% 試験 50% 総合評価 60点以上を合格とする。

課題やリフレクションシートをもとに前授業のフィードバック、返却を実施する。

授業外学習

【事前準備】教科書を精読しておくこと。わからない用語を事前に調べ、ノートにまとめておくこと。各授業1時間

【事後学修】毎回、授業内に配布したプリントや自分のノートを整理して、授業内容を理解しまとめること。各授業1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】阿部和子編 「演習 乳児保育の基本」 萌文書林、厚生労働省編「保育所保育指針解説」

【参考図書】厚生労働省「保育所保育指針」・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

科目名	障害児保育		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd256		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：本科目は、保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」に関わる科目である。

科目の概要：保育所で保育を行う際に、障害の定義や障害児保育の動向を概観し、障害のある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援、関係機関との連携のあり方などについて理解する。また、障害のある子どもの発達を促すために必要な支援のあり方について、具体的に理解することを目指す。障害の有無を問わずに、同じ時間・空間で保育を行う意義や目的を理解し、さまざまな違いを持った人達はその違いを認め合い、互いに支え合って生きていくインクルーシブが当たり前の社会であることを学ぶ。

学修目標（＝到達目標）：

1) 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション	障がい児保育とは何か
2	障がい児保育の仕組み	制度と体系
3	障がい児保育の仕組み	支援の概要
4	知的障がい児の理解と支援	知的障害の特徴
5	知的障がい児の理解と支援	知的障がい児の保育の実際
6	自閉症児の理解と支援	自閉症の特徴
7	自閉症児の理解と支援	自閉症児の保育の実際
8	注意欠陥多動性障がい児の理解と支援	注意欠陥多動性障害の特徴
9	注意欠陥多動性障がい児の理解と支援	注意欠陥多動性障がい児の保育の実際
10	コミュニケーション障がい児の理解と支援	視覚・聴覚・言語障害の特徴
11	コミュニケーション障がい児の理解と支援	視覚・聴覚・言語障がい児の保育の実際
12	肢体不自由児の理解と支援	肢体不自由の特徴
13	肢体不自由児の理解と支援	肢体不自由児の保育の実際
14	障がい児を養育している家族への支援	
15	まとめ	

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要なものは授業内で紹介する。

【推薦書】必要なものは授業内で紹介する。

【参考図書】野田敦史、林 恵 編・「演習・保育と障害のある子ども」・みらい

科目名	社会的養護演習		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd266		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「関心・意欲・態度」に関わる科目である。

科目の概要

社会的養護の意味を理解したうえで、社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。その過程において、児童福祉施設で生活している児童の権利に対する理解を深め、合わせて保育士の使命、倫理について理解し、さらに施設養護および援助するための具体的実践について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
- 2) 施設養護及び他の社会的養護の実践について学ぶ。
- 3) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。
- 4) 社会的養護にかかわる相談援助の方法と技術について理解する。
- 5) 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

内容

1	オリエンテーション、子どもと子育て家庭の現状
2	社会的養護の実践と保育士
3	社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み
4	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利
5	施設養護のプロセス
6	記録および評価
7	個別支援計画の作成
8	日常生活支援
9	治療的支援
10	施設養護の自立支援
11	家庭養護へ向けての支援
12	施設の小規模化と地域との関わり
13	社会的養護系施設に訪問 施設概要の把握
14	社会的養護系施設に訪問 施設保育士と専門職種の仕事の実践
15	まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジユメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で紹介する。

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	保育相談支援		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd267		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能（技法）・表現、思考・判断にかかわる科目である。

科目の概要

本科目は、保育士の法定業務としての「保育指導」の具体的方法を学ぶ科目であり、日常保育と一体的に展開される保育指導の特性を踏まえ、その原理、方法、活用技術等について具体的に学んでいく。

学修目標（＝到達目標）

本科目では、以下の4点を学修目標とする。

保育相談支援が求められる社会的背景を理解する

保育相談支援の原理と構造について理解する

保育における多様な場面・手段を活用した保護者支援の方法を身につける

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ワークショップを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	保育所における子育て支援の歴史的展開
3	保育相談支援の構造と展開過程
4	保育相談支援の基本
5	保育相談支援の事例分析
6	保育相談支援の計画と評価
7	送迎場面を活用した保育相談支援
8	環境構成を活用した保育相談支援
9	環境構成を活用した保育相談支援
10	中間まとめ
11	子ども理解を促す保育相談支援 連絡帳
12	子ども理解を促す保育相談支援 ドキュメンテーション
13	親子のコミュニケーションを促す保育相談支援
14	園と家庭の相互理解を支える保育相談支援
15	子育ての知識獲得を支える保育相談支援

評価

参加姿勢10%、 提出物40%、 試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出レポート、検討事例に対する講評を行う。

授業外学習

【事前準備】各回で取り扱うテキストならびに『保育所保育指針解説』の該当箇所を読んでおくこと。また、関連する実習体験について、まとめておくこと（各回60分）。

【事後学修】各回の授業内容をまとめ、ノートを作成すること（各回60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

亀崎美沙子(2018)『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社

【推薦書】

柏女霊峰他(2014)『保育相談支援』ミネルヴァ書房

科目名	保育の表現技術（造形表現）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd270		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目である。本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

子どもの様々な生活体験を、造形活動や遊びにどのように展開していくかを考え、理解を深めていく。実際に様々な素材や教材にふれ、その特性を理解しながら、子どもの五感にはたらきかける、感性を養うための環境構成や保育の展開について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

造形表現の表現活動に関する知識や技術を習得する。また、教材の活用・作成を通して、子どもの体験がより豊かになるための保育環境の構成、様々な遊びに展開していくための援助方法に関する技術を習得する。

内容

1	オリエンテーション
2	子どもの発達と造形表現
3	子どもの発達と造形表現
4	様々な技法・素材を用いた表現活動
5	様々な技法・素材を用いた表現活動
6	様々な技法・素材を用いた表現活動
7	様々な技法・素材を用いた表現活動
8	身近な素材を用いた造形表現
9	身近な素材を用いた造形表現
10	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
11	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
12	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
13	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
14	行事にちなんだ造形表現（グループ発表）
15	まとめ、振り返り

評価

授業への取り組み50%、提出物20%、レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート・レポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】必要な教材・用具を準備し、忘れないようにすること。また、様々なアイデアを自分なりに集め、レポートにまとめておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】実施した内容について、再度取り組んだり、アレンジしたりするなど、自分の感性を豊かにする努力をし、それをレポートにまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で資料等を配布する。

【参考書】適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術（言語表現）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd271		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、保育士資格の必修科目です。子どもの発達と絵本、紙芝居、ストーリーテリング、人形劇などに関する知識と技術を身につけます。子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開を考えます。

本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目です。

科目の概要

子どもの遊びやイメージを豊かにする様々な素材や教材などの特性を理解し、それらの活用や作成に必要な技術を学びます。学生自身が児童文化財などに親しみ、実感をこめて言葉で表現できるようになることを目指すと共に、保育の展開と環境構成について理解します。

学修目標（＝到達目標）

- ・学生自身が日本と世界の文学作品や伝承文化に触れて深く味わい、言語感覚を敏感にし、感性を磨くこと。
- ・子ども自らが児童文化財等に親しめるよう、子どもの発達段階に適した絵本などを選定できるようになり、子どもの遊びやイメージを豊かにするための環境構成と保育の展開を考えられるようにすること。
- ・子どもの言葉への興味関心、豊かな表現を育む保育士のあり方について考えること。

内容

第1回～2回 児童文化の理解、保育における言語表現についてディスカッション

第3回～12回グループワーク： 絵本・紙芝居・ストーリーテリング・ペープサート・人形劇・パネルシアターの実演と発表

第13回～15回 グループワーク：発表・振り返り・改善点の共有

1	オリエンテーション
2	児童文化とは 保育の中の言語表現
3	絵本の研究
4	絵本の研究
5	絵本の読み語り
6	紙芝居の演じ方
7	紙芝居の研究と発表
8	昔話・童話とストーリーテリング
9	ペープサートの作成と実演
10	パペットの制作
11	人形劇の演じ方
12	パネルシアターの演じ方
13	グループワーク(構成と環境設定)
14	発表と振り返り
15	まとめ

評価

授業への取り組み60%（実演・提出物を含む）、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

グループワークや実演に対する評価と今後の課題をフィードバックします。

授業外学習

【事前準備】事前に示されたテーマについて、子どもと取り組む言語表現活動の展開を考え、実演の練習をしていくこと。各授業1時間【事後学修】授業で取り上げた作品や教材の特徴をノートにまとめること。自分の実演を振り返り、練習を重ねること。児童文化に親しむ機会を多く持ち、視野を広げること。各授業1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

古橋和夫(著)保育者のための言語表現の技術、萌文書林

【推薦書】授業において紹介します。

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示

する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示

する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	発達障害の理解		
担当教員名	白井 信光		
ナンバリング	KDd273		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

本科目は、保育専門科目であり、さまざまな発達障害の特性を理解するとともに、発達を促す適切な支援方法について学ぶ科目である。

科目の概要

さまざまな発達障害の特性を理解し、発達を促す支援のあり方について学ぶ科目である。幼児期を中心に学童期や成人期の対応について、保護者の支援方法についても学ぶ。将来の実践を常に見据えながら進める講座である。

学修目標（＝到達目標）

- ・さまざまな発達障害の特性について理解すること
- ・発達障害児者への支援方法について理解すること
- ・発達障害に関連する基礎的な知識について理解すること
- ・子どもの標準的な発達（運動・認知・言語・社会性等）について理解すること

内容

この授業は講義形式を基本とするが、グループワークやロールプレイを取り入れながら、実践的な学びを深めていく。映像や写真をたくさん使用しながら、発達障害児者に関わったことがない方にも発達障害のイメージを高めてもらう講義である。

1	オリエンテーション：発達障害児者とどう向き合うか
2	療育相談の実際：発達障害に関わる専門的対応について
3	発達障害の診断（1）：さまざまな発達障害の特徴と診断基準について
4	発達障害の診断（2）：発達障害の診断のながれについて
5	知的障害の特性とその対応（1）：診断基準と特性について
6	知的障害の特性とその対応（2）：支援の実際
7	自閉スペクトラム症（ASD）の特性とその対応（1）：診断基準と特性について
8	自閉スペクトラム症（ASD）の特性とその対応（2）：支援の実際
9	注意欠如・多動性障害（ADHD）の特性とその対応：診断基準と特性、支援の実際について
10	学習障害（LD）の特性とその対応：診断基準と特性、支援の実際について
11	発達課題の理解：エリクソン、ピアジェ、フロイトを中心に
12	発達障害への虐待について
13	発達障害者の就労と余暇の支援について
14	総括：発達障害への理解と対応
15	発達障害児者の家族への支援：家族の心理、家族への支援方法について

評価

授業への参加度10%、リアクションペーパー（授業に対する意欲・関心・態度：毎回）10%、レポート40%、筆記試験（小テスト含）40%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する。
【フィードバック】毎授業のはじめに前回講義の質疑に応え理解を深める（レポートなども同様）。

授業外学習

【事前準備】予習すべきポイント・キーワードについて簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）
【事後学修】授業で学んだことについて自分なりの考えを整理する。理解できていないポイント・キーワードについては簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず。講義ごとにレジュメ・資料を配布する。
【推薦書】「発達障害キーワード&キーポイント」市川宏伸著（金子書房）
【参考図書】講義において紹介する。

科目名	障害児と地域支援		
担当教員名	白井 信光		
ナンバリング	Kd374		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育専門科目であり、障害児の地域支援に関する制度やサービス、より適切な支援方法について学びを深めていく科目である。

科目の概要

障害児とその家族の地域生活を支えるためには、どのようなことが必要なのだろうか。発達障害児（知的障害児含む）への対応を中心に、ロールプレイやグループワークを通して、専門的な知識を深め技術（スキル）を高める講座である。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 障害児の地域支援に関する基礎的な知識について理解すること
- ・ 障害児の家族の心理を理解すること
- ・ 発達障害児（知的障害児含む）への支援方法について理解を深め、技術を高めること

内容

この授業は、講義だけではなくロールプレイやグループワークを行いながら障害児の地域支援について理解を深めていく。映像や写真をふんだんに用いながら、知的障害を含む発達障害児へのイメージを深め、よりよい地域支援方法を学ぶ講座である。将来の実践を見据えて、専門知識を学び技術を磨くことを目的としている。

1	オリエンテーション：障害児とその家族を地域でどう支えるか
2	障害児の地域生活を支える乳幼児健診・就学相談・療育手帳制度
3	療育の実際（1）：認知・言語、運動、社会性の発達を促す対応について
4	療育の実際（2）：学校・他機関との連携について
5	発達検査・知能検査に関する基礎知識（1）：ピネーを中心に
6	発達検査・知能検査に関する基礎知識（2）：ウェクスラー式を中心に
7	発達相談の実際（1）：面接の基礎を学ぶ
8	発達相談の実際（2）：専門的知識の活用法
9	障害児を育てる家族の心理
10	障害児の地域生活を支える医療
11	学童保育における障害児支援：巡回相談の実際
12	障害児の地域生活を支えるさまざまな制度・サービス
13	災害時における障害児支援のあり方：事例を通して
14	総括：障害児と地域支援
15	障害児の支援者に求められる専門的素養

評価

授業への参加度15%、リアクションペーパー（授業に対する意欲、関心、態度：毎回）15%、レポート20%、試験（小テスト含）50%、により評価し、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する。
【フィードバック】毎講義のはじめに前回の質疑に応え、学習理解を深める（レポートなども同様）。

授業外学習

【事前準備】予習すべきポイント・キーワードについて簡潔にまとめ、問題意識を高める。
【事後学修】授業で学んだことについて自分なりの考えを整理する。理解できていないポイント・キーワードについては簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず。講義ごとにレジュメ・資料を配布する。
【推薦書】「発達障害キーワード&キーポイント」市川宏伸著（金子書房）
【参考図書】講義において紹介する。

科目名	保育の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd2213		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

生涯発達の観点から、子どもの発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、発達援助のあり方を理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期の発達と保育者の役割について理解する。また、子どもの情緒の発達、ことばの発達、記憶の発達等を理解し、人とのかかわりを通して成長することの理解を深める。

さらに、生涯発達の観点で子どもの発達をとらえ、子どもの発達を援助する方法と評価について理解する。

学修目標（＝到達目標）

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。

子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎の理解を深める。

子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育との関連を考察する。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	保育と心理学 子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方・とらえ方
2	子どもの発達と環境 子どもの発達と環境
3	子どもの発達と環境 からだの発達と運動機能
4	子どもの発達と環境 見ること・考えることの発達
5	子どもの発達と環境 情緒の発達と自己の形成
6	子どもの発達と環境 ことばの発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達 基本的信頼感の獲得
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達 人とのかかわり
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達 友達関係と遊びの発達
10	学びと発達 記憶の発達、学びのしくみ
11	学びと発達 やる気と環境
12	生涯発達と発達援助 発達段階と発達課題、胎児期および新生児期、乳幼児期
13	生涯発達と発達援助 児童期、青年期、成人期以降の課題
14	発達援助と評価 発達援助の意義、保育実践の評価と心理学
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点、キーワードについて、各自、調べておくこと。(60分)

【事後学修】講義で、明らかになったこと、キーワードの内容をよく復習し、理解しておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第3版 ナカニシヤ出版

【参考図書】亀田秀子著 いじめ・不登校・虐待と向き合う支援と対応の実際 三恵社

【参考図書】亀田秀子著 いじめ・不登校・虐待から大切なわが子を守る -いま、お父さん・お母さんにできること-

科目名	子ども家庭支援の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd2214		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達的な観点から理解を深めることを目指す。

科目の概要

生涯発達としての初期経験の重要性を理解し、乳幼児期から学童期前期にかけての発達、学童期後期から青年期にかけての発達、成人期・老年期における発達について理解する。また、家族・家庭の理解では、家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解、子育ての経験と親としての育ちについての理解を深める。さらに、子育て家庭に関する現状と課題では、子育てを取り巻く社会的状況、多様な家庭とその理解、特別な配慮を要する家庭等について理解を深める。最後に、子どもの精神保健とその課題について理解を深めていく。

学修目標 (= 到達目標)

生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、発達課題等について理解する。

家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達的な観点から理解を深める。

子育てをめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	生涯発達 - 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
2	生涯発達 - 学童期後期から青年期にかけての発達
3	生涯発達 - 成人期・老年期における発達
4	家族・家庭の理解 - 家族・家庭の意義と機能
5	家族・家庭の理解 - 親子関係・家族関係の理解
6	家族・家庭の理解 - 家族関係と保育
7	家族・家庭の理解 - 子育ての経験と親としての育ち
8	子育て家庭に関する現状と課題 - 子育てを取り巻く社会的状況
9	子育て家庭に関する現状と課題 - 家庭支援へのアプローチ
10	子育て家庭に関する現状と課題 - ライフコースと仕事・子育て
11	子育て家庭に関する現状と課題 - 多様な家庭とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題 - 特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題 - 子どもの生活・生育環境とその影響
14	子どもの精神保健とその課題 - 子どもの心の健康に関わる問題・保育と保健
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について各自調べておく。(60分)

【事後学修】講義で明らかになったこと等、よく復習し、理解しておくこと。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】本郷一夫・神谷哲司 編著 シードブック『子ども家庭支援の心理学』2019年度 新保育士養成課程 対応
建帛社

【参考図書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第3版 ナカニシヤ出版

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd2215		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「保育士資格」取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能(技法)・表現、 関心・意欲・態度にかかわる科目である。

科目の概要

本科目では、保育実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学んでいく。集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいく。

学修目標 (= 到達目標)

本科目では、以下の3点を到達目標とする。

- ・ 保育実践における子ども理解の意義について理解する。
- ・ 一人一人の子どもの心身の発達状況を把握し、理解するための具体的方法を身に付ける。
- ・ 生活や遊びの中に生じる子どもの学びをとらえるとともに、必要な援助を考えることができる。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	保育における子ども理解の意義
3	子ども理解にもとづく養護と教育の一体的展開
4	発達に応じた生活と遊び
5	子ども相互のかかわりとその援助
6	集団における経験と子どもの育ち
7	保育における環境構成の意義と方法
8	子ども理解の方法 観察
9	子ども理解の方法 記録
10	子ども理解の方法 省察・評価
11	子ども理解の方法 カンファレンスにもとづく多面的理解
12	保護者との連携と子ども理解の相互理解
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
14	発達の連続性と就学前教育
15	まとめ

評価

成績評価は、参加姿勢10%、提出物50%、テスト40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回のリアクションペーパーをフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】テキストの該当箇所を読み、まとめること（各回60分）

【事後学修】授業で出された課題を指定日までに仕上げ提出すること（各回60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

その他、授業内で指示する。

科目名	保育内容演習（健康）		
担当教員名	鈴木 明		
ナンバリング	KDd2216		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。本学科のディプロマポリシー 1、3に該当する。

科目の概要

乳幼児期までにおける健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつけられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力を習得し、健康な乳幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていく。

学修目標（＝到達目標）

1. 保育者に必要な知識・技能を身につける
2. 乳幼心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことができる。
3. 子どものヘルスプロモーションについてどう対処していくか理解、実践できる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	子どものヘルスプロモーション
2	生活習慣の指導と健康管理（乳幼児の栄養と食生活）
3	生活習慣の指導と健康管理（運動と休養）
4	生活環境と安全教育（自然環境に対する適応、遊具）
5	生活習慣と安全指導（安全管理、安全指導の実際）
6	運動遊びの指導
7	健康教育の実際例
8	救急法
9	乳幼児の応急手当
10	子どもの健康教育演習（グループワーク）
11	子どもの健康教育演習（学生プレゼンテーション）
12	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）
13	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）
14	健康の評価（健康観察、健康相談）
15	振り返りとまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、グループワークプレゼンテーション（30%）、筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業終了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

授業外学習

【事前準備】常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。（各回60分）

【事後学修】学びを基に、健康問題について興味を持ってください。（各回90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します

【参考図書】初回授業時に指示します

科目名	保育内容の理解と方法（健康）		
担当教員名	鈴木 明		
ナンバリング	KDd2217		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。本学科DPの1、3に該当する。

科目の概要

健康な子どもたちを育てるという見地から、乳幼児期から移りゆく発育発達を、身体発育、生理機能、運動機能、精神機能より検討し、保育に必要な基礎的知識を養う。

また、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの基本的な生活習慣や健康状態の把握方法等を理解する。

学修目標（＝到達目標）

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの基本的な生活習慣と食生活について理解する
4. 子どもの健康状態の把握方法を理解する

内容

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れて、学びを深めていく。

1	健康の概念
2	乳幼児の健康（乳幼児の生理機能）
3	乳幼児の健康（身体の発育・発達）
4	乳幼児の健康（発育・発達と疾病）
5	心身の発育と発達（乳幼児のからだ）
6	心身の発育と発達（乳幼児のこころ、乳幼児の動き）
7	乳幼児の健康管理（健康及び日常の観察）
8	乳幼児の健康管理（健康診査、健康診断、環境の整備）
9	乳幼児の安全管理
10	乳幼児の応急手当
11	乳幼児の基本的な生活習慣
12	乳幼児の遊び
13	乳幼児の健康教育
14	健康を求めて
15	振り返りとまとめ

評価

質疑応答を含む授業への参加度(10%)、毎回授業の最後に確認のショートテスト(40%)、筆記試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業終了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

授業外学習

【事前準備】日ごろから新聞等の健康関連の記事に目を通して、健康に興味を持ってください。またその内容が正しいかどうか判断できるような知識を持ってください。(各回60分)

【事後学修】その日の授業の内容を自分なりに理解、整理しておいてください。また授業で習ったことの課題を出すのでまとめておくようにしてください。(各回90分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に説明します。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて紹介します。

科目名	保育内容の理解と方法（人間関係）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd2218		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得に関連する科目である。ディプロマポリシー2「保育の実践の理解と専門性」に該当する。

科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「人間関係」について理解を深める。乳幼児期の人間関係形成の理論的理解を踏まえ、保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。

学修目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解している。
2. 乳幼児期の人間関係形成の理論的理解と個と集団を捉える観点を説明することができる。
3. 遊びにおける人間関係の形成と保育者の援助・役割を理解している。
4. 乳幼児期に育まれる自我の芽生えと自立について理解し、保育における生活場面における自立を理解し、その指導と援助について理解している。

内容

第1回オリエンテーション・領域「人間関係」の理解：グループワーク：これまでどのような人と関わってきたのかを振り返る

第2回親との出会いとかかわり-信頼関係の基盤-：ディスカッション：家庭における愛着形成について話し合う。

第3回自己の感覚と自我の芽生え：ディスカッション：事例を基に自我の芽生えの時期について理解する

第4回子どもと保育者のかかわり 子どもとの信頼関係を築く：ディスカッション：事例を基に信頼関係を築くことについて話し合う。

第5回子どもと保育者のかかわり 子ども同士のかかわりを育む：ディスカッション：事例を子ども同士の人間関係について話し合う。

第6回人間関係を育む遊びと環境 遊びと子どもの育ち：ディスカッションと事例検討

第7回人間関係を育む遊びと環境 遊びのなかで共有すること：ディスカッションと事例検討

第8回人間関係を育む遊びと環境 遊びをつくる仲間・異年齢交流：ディスカッションと事例検討

第9回人間関係を育む遊びと環境 地域との交流：ディスカッションと事例検討

第10回人間関係を育む保育者の援助 個と集団：ディスカッションと事例検討

第11回人間関係を育む保育者の援助 多様性・協働性を育む保育のデザイン：ディスカッションと事例検討

第12回人間関係を育む保育者の援助 いざこざから生みだされるもの：ディスカッションと事例検討

第13回人間関係を育む保育の計画：グループワーク：指導計画の作成（人間関係を育む保育の展開）

第14回人間関係を育む保育の実施と評価、改善：グループワーク：発表を基に改善点を検討する。

第15回まとめ 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題：これまでの学びをもとに、関心のあるテーマについてプレゼン

テーションを行う。(ギャラリートーク)

評価

授業への参加度 30%、小レポート・中間課題 30%、期末レポート課題 40%とし、評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業に該当する資料や教科書を熟読すること。わからない用語は事前に調べノートにまとめること。各授業1時間

【事後学修】授業内で得た気づきや考えをリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 岩立京子「事例で学ぶ保育内容」萌文書林
厚生労働省「保育所保育指針」

【推薦書】無藤隆 古賀松香「社会情動のスキルを育む保育内容人間関係」北大路書房
汐見稔幸・無藤隆(2018)『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の理解と方法（言葉）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd2219		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得に関連する科目であり、ディプロマポリシー2「保育の実践に関する知識、専門性」に該当する。

科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するよう具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を習得する。

学修目標（＝到達目標）

1. 領域「言葉」のねらいと内容を理解している。
2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解している。
3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解している。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

内容

- 第1回 オリエンテーション・領域「言葉」のねらい及び内容：グループワーク：キーワードの抽出
- 第2回 言葉の発達過程 乳児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成
- 第3回 言葉の発達過程 乳児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成
- 第4回 言葉の発達過程 幼児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成
- 第5回 言葉の発達過程 幼児期（書き言葉の発達の道筋）：ディスカッション：文字への関心と援助
- 第6回 言葉を育む環境構成と援助 話したい、聞きたい、伝え合いを生む援助：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。
- 第7回 言葉を育む環境構成と援助 言葉の豊かさ、美しさに気づく援助：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。
- 第8回 言葉を育む環境構成と援助 特別な配慮を要する子どもへの援助と支援：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。
- 第9回 言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解 絵本・紙芝居：グループワーク：絵本や紙芝居を基に、選定の仕方や保育の展開について話し合う。
- 第10回 言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解 言葉あそび：グループワーク：言葉を使った遊びを探し、保育の展開について話し合う。
- 第11回 子どもの言葉を育む保育の実際：グループワーク：事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のねらい、内容を読み取る。
- 第12回 子どもの言葉を育む保育の計画（模擬保育）グループワーク：事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のね

らい、内容を計画する。

第13回 子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育）グループワーク：計画を基に、実践する。

第14回 子どもの言葉を育む保育の評価と改善（模擬保育）グループワーク：発表をもとに実践を評価し、改善を考える。

第15回 まとめ これまでの学びを踏まえ、関心のあるテーマについてまとめる。

評価

授業への参加度30%、小レポート・中間課題30%、期末レポート課題40%として総合的に判断する。とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リフレクションシートを基に、各回にて、前授業の振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】各授業に該当する配布資料や教科書を熟読しておく。授業に必要な教材を準備する。各授業1時間

【事後学修】授業内で考えたことや気づいたことを基にリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内藤知美・新井美保子（編著）（2017）『コンパス保育内容言葉』建帛社

【推薦書】汐見稔幸・無藤隆（2018）『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』ミネルヴァ書房

【参考図書】授業内で提示する

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン
8	楽典、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示

する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「 知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン
8	楽典 、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける授業であり、本学科のディプロマ・ポリシーの「 知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導ができるように、個人レッスンやグループレッスンの形態で授業を行うこととする。

学修目標（＝到達目標）

- ・自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）を知る。
- ・学生自身も、音楽や歌を楽しむ経験を積み重ねる。
- ・子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン
8	楽典 、個人レッスン
9	個人レッスン
10	個人レッスン
11	個人レッスン
12	グループレッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン
15	弾き歌いのまとめ、振り返り

評価

実技試験60%、授業への参加・取り組み40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎回の授業で取り上げた全課題曲について、評価と今後の課題、改善方法、練習方法などを具体的に提示する。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各授業に対して80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各授業に対して80分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	富井 友子、片居木 英人、大山 博幸、今井 伸		
ナンバリング	KDe276		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、社会福祉士受験資格取得課程の科目である。相談援助実習（社会福祉実習）の事前学習として、見学実習を含む基本的な学習のための科目である。

科目の概要

相談援助実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系づけていく能力を滋養する。実習を行う実習分野についての理解をする。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。相談援助に係る知識と技術を理解、習得する。また実習における記録の内容、方法について理解する。実習事前学習は、相談援助実習指導 へと継続する。

学修目標（＝到達目標）

- ・各分野におけるソーシャルワークと実習先（施設・機関）について理解ができる。
- ・社会福祉士の実習分野や実習施設の理解ができる。
- ・実習に臨む態度が修得できる。
- ・実習における記録の意味を理解し、初歩的な記録ができる。
- ・学生が実習領域への志向性を自己覚知することができる。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

見学実習A・Bは、前期集中講義期間に予定する。事前学習・グループ別指導等については、オリエンテーションで説明するので、履修予定者は、学科の掲示板での連絡にも留意すること。

1	オリエンテーション、社会福祉士に関する制度理解、実習に対する心構え
2	実習課題の設定 / 地域福祉分野におけるソーシャルワークと実習
3	障がい者福祉分野・高齢者福祉分野におけるソーシャルワークと実習
4	高齢者福祉分野（つづき）・児童分野におけるソーシャルワークと実習
5	車イス操作の演習
6	記録の理解と演習
7	見学実習A 児童関係機関・施設
8	見学実習A 児童関係機関・施設
9	見学実習A 児童関係機関・施設
10	見学実習A 振り返り
11	見学実習B 障害者支援施設 または 高齢者施設
12	見学実習B 障害者支援施設 または 高齢者施設
13	見学実習B 障害者支援施設 または 高齢者施設
14	見学実習B 振り返り

評価

見学実習記録（25点×2回）、見学実習および講義・演習における授業態度（50点）を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された記録や課題については、授業内で返却し、意見交換の後、教員がコメントする

授業外学習

【事前準備】ソーシャルワーク論 および相談援助演習 ・ の内容を復習しておく（各授業に対して30分）

【事後学修】見学実習や報告会の記録をまとめる（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科で作成した実習マニュアルを配布する

【推薦書】特に指定しない。見学実習先によって、各種の資料を配布する

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	富井 友子、大山 博幸、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング	KDe376		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【科目の性格】本科目は、社会福祉士受験資格習得課程の科目であり、ソーシャルワークの知識・技術・価値を実践的に習得するために、社会福祉実習の事前学習を行う。なお、本科目はより効果的に授業を進めるために相談援助演習 と連動している。

【科目の概要】本科目は、個別指導およびグループ指導を通して、相談援助実習の意義について理解した上で、相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得すること、社会福祉士として求められる資質・技能・倫理等、総合的に対応できる能力を習得すること、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養することを目的としている。

【学修目標】

相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。

実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。

実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。

事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

なお、本科目は、主に学位授与方針（ディプロマポリシー）の1と2に該当する。

内容

1	オリエンテーション、社会福祉実習への心得
2	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
4	「実習ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
5	「実習ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解、実習課題と実習計画作成の方法
6	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
7	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
8	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
9	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 4
10	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 5
11	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 6
12	実習報告会への参加
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 7
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 8
15	実習最終オリエンテーション、実習中のマナーおよび事故防止

評価

リアクションペーパー（30%）、グループスーパービジョンにおける提出物、発表、グループワークの参加態度等（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表内容をもとに授業内で意見交換を行う。また、提出されたリアクションペーパーや課題は評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。（各授業に対して30分）

【事後学修】作成した実習課題（目標）や実習計画について再度見直すこと（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成による実習マニュアルや適宜ワークシートおよび資料を配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、佐藤 陽、片居木 英人、富井 友子 他		
ナンバリング	KDe476		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。本学科学位授与方針1.2に関連する。ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけること、自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現すること、お互いに自分自身の考え伝えあい、自らの考えや集団の考えを高め発展させることと、自己覚知を深めることと関連する。 社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について实际的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

全体では主に講義やガイダンス、各グループごとにおいては、個人ワークやグループスーパービジョンの形式を用いる。

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通した事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通した事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通した事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 2
12	実習報告会の実施
13	実習全体の振り返り 1
14	実習全体の振り返り 2
15	まとめ

評価

実習後の事後報告書の提出（60％）と実習報告会での報告（20％）、本授業全体に対する最終レポート（20％）を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

【フィードバック】課題等は返却する。発表等はコメントし学習理解を深める。

授業外学習

【事前予習】実習中作成した実習記録やケーススタディワークシートを見直しておくこと。

【事後学修】実習報告会の報告書やケーススタディワークシートをはじめこれまでの実習での学習を総括しそれが、今後の自分の進路においてどのような意義を持つのかを明らかにすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、富井 友子、今井 伸 他		
ナンバリング	KDe477		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術・価値について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。本学科学位授与方針1.2に関連する。

指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導と関連して学習を深める。実習先の実習指導者の指導を受け、職場の理解・職種の理解・利用者の理解を積み重ね、さらに実習先の関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

受講生は、社会福祉士養成課程に規定され本大学と契約した実習先において、実習を行う。

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】本実習の事前指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

【事後学修】本実習の事後指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、二瓶 さやか、人見 優子		
ナンバリング	KDe178		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 に対応し、実習と組み合わせたの学習を行う。

実習において支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくり進めるための事前学習及び事後学習を行う科目である。

科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法など、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

学修目標

1. 介護実習 における実習の意義について理解できる。
2. 実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解できる。
3. 介護実習 - 1 から介護実習 - 2 まで介護実習全体の学びを理解できる。

内容

1	介護実習とは何か
2	介護実習 - 1 の実習先の理解
3	介護実習の実習計画の立案方法
4	介護実習におけるマナー
5	介護実習における記録の書き方
6	介護実習 - 1 グループ指導
7	介護実習 - 1 振り返り
8	実習報告会参加
9	実習報告会参加
10	介護実習 - 2 とは何か
11	介護実習 - 2 の実習先の理解
12	介護実習 - 2 実習目標・実習計画立案
13	介護実習 - 2 に向けたグループ指導
14	介護実習 - 2 実習前報告会
15	介護実習 - 2 報告会

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却する。実習に関する記録物については事前及び事後学習、教員との面談に使用し、フィードバックする。

授業外学習

【事前予習】実習の手引きをよく読み、自分なりに内容を整理しまとめておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業については、復習することを必須とし、実習施設の特徴や、根拠法などについて学習する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	介護総合演習		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、二瓶 さやか、人見 優子		
ナンバリング	KDe278		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 - 1 に対応し、実習と組み合わせた学習である。

支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な支援方法について実習で学ぶための事前・事後学習を行う科目である。

科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 実習施設の概要を理解できる。
- 2 実習計画を作成し、学習課題を明確にできる
- 3 介護過程におけるアセスメントを理解し、実践できる

内容

1	介護実習 の目的・位置づけについて
2	介護実習 - 1 - のオリエンテーション
3	実習計画の立案の仕方について
4	個人票・実習計画書の作成
5	介護実習 - 1 - 計画書発表
6	介護実習 - 1 - のオリエンテーション
7	介護実習報告会参加
8	介護実習報告会参加
9	個人票・介護計画書作成
10	介護技術確認
11	介護技術確認
12	介護実習 - 1 - 報告会
13	介護実習 - 1 - 実習計画書発表
14	帰校日(介護過程の展開等の確認)
15	実習事後指導

評価

授業への参加状況30%、個人票・実習計画書の作成レポート30%、実習に向かう準備状況20%、実習の振り返り状況

20%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】「介護実習の手引」を読み、内容を整理し、まとめる。

【事後学修】 授業については、復習することを必須とし、実習施設の特徴や根拠法などについて学習する。（書く授業に愛して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学作成）を使用する。

科目名	介護総合演習		
担当教員名	二瓶 さやか、宮内 寿彦、山口 由美、人見 優子		
ナンバリング	KDe378		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

1.本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 ・ 、介護実習 および介護実習 -1

を単位取得した者のみが履修できる。

2.介護実習 -1の事後学習、介護実習 -2の事前学習及び事後学習を行う。

3.授業形態は、講義・教員別の個別指導、グループ別学習等を組み合わせて行う。

科目の概要

1.介護実習 -1- の事後学習を行う。

2.介護実習 -2の事前学習、実習中の指導、事後学習を行う。

学修目標（=到達目標）

1.介護実習 -1- の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し意見交換することができる。

2.介護実習 -2の事前学習として、実習の概要を理解し、個人調書・実習計画書の作成ができる。

また、実習を行うための準備ができる。

3.介護実習 -2の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し、意見交換することができる。

内容

1	オリエンテーション/介護総合演習 の概要理解/介護実習 -1- の振り返り方法の理解
2	介護実習 -1- :事後学習
3	介護実習 -1- :事後学習
4	介護実習 -1- :事後学習
5	介護実習 -2 概要理解/個人調書・実習計画書作成準備/実習配属先発表
6	個人調書・実習計画書作成
7	介護過程展開の復習/個人調書・実習計画書の作成
8	ケーススタディの事前学習
9	ケーススタディの事前学習/個人調書・実習計画書の完成
10	実習計画書の発表
11	介護実習 -2: 帰校日指導
12	介護実習 -2: 帰校日指導
13	介護実習 -2: 事後学習
14	介護実習 -2: 事後学習
15	まとめ

評価

授業への参加状況、個人調書・実習計画書の作成、実習に向かう準備状況、実習の振り返り状況により評価し総合評価60点以上を合格する。不合格の場合は個別の課題を提示する。

授業外学習

【事前準備】「介護実習の手引き」を読む。事前に指示された課題に取り組む。介護実習 - の実習内容について振り返り学びを深めておき課題について整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】個別課題を毎回の授業時に提示する。課題については提出期限までに必ず提出できるよう各自準備し取り組むこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）

科目名	介護総合演習		
担当教員名	宮内 寿彦、山口 由美、二瓶 さやか、人見 優子		
ナンバリング	KDe478		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

介護福祉士養成課程必須専門科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

全ての指定介護福祉士養成カリキュラムとの関連性がある。

科目の概要

介護実習 - 2 の実習事後指導を行う。

概要は内容を参照。

学修目標

介護実習報告会で、選定したケーススタディをロールプレイ動画及びプレゼンテーションを行い、個々の介護観を構築する。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション ケーススタディ作成
2	介護実習 - 2 全体共有
3	ケーススタディ作成
4	ケーススタディ作成
5	ケーススタディ作成
6	プレゼンテーション技法
7	介護実習報告会の概要と運営
8	実習報告会準備及び資料作成
9	実習報告会準備及び資料作成
10	実習報告会準備及び資料作成
11	介護実習報告会準備報告会会場設営
12	介護実習報告会
13	介護実習報告会
14	介護実習報告会
15	介護実習及び介護総合演習総括

評価

評価 ケーススタディの作成、実習報告会の取り組みとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】指定された学習課題を事前に取り組み、わからない用語、機関名、関連法を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った学習箇所について、担当教員とわからなかった用語、機関名、関連法を確認すること(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

科目名	介護実習		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、二瓶 さやか、人見 優子		
ナンバリング	KDe179		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士養成課程における、「介護実習」に関する科目の1つである。

支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくることについて、実践的に学ぶ。生活支援を行う際は、人権を尊重を意識した実践を行う。

科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する学習とする。

学修目標

介護実習 - 1

- ・高齢者介護等に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。
- ・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。

介護実習 - 2

- ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の施設の概況と利用者の生活について理解する。
- ・入所施設における基礎的な生活支援技術を学ぶ。

内容

実習施設・事業 に区分される事業所での学外施設実習である

実習 - 4日間（32時間） 1年生後期

認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター等

実習 - 8日間（64時間） 1年生後期

特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等の入所施設

評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などにより、総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習先での反省会、実習担当教員との個別面談・グループワーク、実習報告会などを通してフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】日々各自の実習課題に基づき、事前学習を行い、実習に臨む（毎日60分以上）。

【事後学修】日々の実習課題の達成を評価考察する（毎日60分以上）。

習反省会、実習記録等により実習全般を振り返り、振り返りを報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	介護実習 -1		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、二瓶 さやか、人見 優子		
ナンバリング	KDe379		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 - 1 に対応し、実習と組み合わせての学習である。

支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な支援方法について実習で実践的に学ぶための科目である。

科目の概要

介護実習 1 居宅で暮らす利用者の生活状況および訪問介護の実際を知る。利用者及び家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践を学ぶ

介護実習 - 1 - 施設に入所している利用者の介護過程における生活課題抽出までを行う。

学習目標

- 1 コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を築くことができる。
- 2 様々な介護現場における多職種協働について理解することができる。
- 3 利用者の個別の状況に応じた日常生活支援技術を実施できる。
- 4 一人の受け持ち利用者に関するアセスメントをし、生活課題の抽出ができる。

内容

1 介護実習 - 1 -

訪問介護事業所等での学外実習である。

12月に訪問介護事業所等で、3日間（24時間）の介護実習を行う。

2 介護実習 - 1 -

入所施設での学外実習である。

2～3月に介護老人福祉施設、介護老人保健施設等の入所施設で、20日間（160時間）の介護実習を行う。

3 本学習目標、実習計画書、実習先の状況を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し、介護実習を行う。

4 介護実習 - 1 - の実習についてはおおよそ下記のスケジュールを目安とする。ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。

- ・1週目の後半にアセスメント対象者を決定する（利用者が決定している場合は、利用者に関わりながら情報収集を行う）。
- ・2週目は、利用者に関わりながら情報収集を行う。
- ・3週目は、情報の分析・解釈・統合、判断を行い、3週目の終わりには大まかでもよいので、生活課題を抽出できる
- ・4週目は、介護計画の実施及び評価を行う 反省会を学生主体で行う。

5 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢、実習記録の内容、本学習目標の到達度、個人の実習計画の到達度等について、実習施設の評価及び担当

教員の評価を踏まえて評価し、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】各自の実習課題に基づき、事前学習を行い、実習に臨む（毎日60分以上）

【事後学習】実習課題の達成状況を評価考察する（毎日60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成の「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）を使用する。

科目名	介護実習 -2		
担当教員名	二瓶 さやか、宮内 寿彦、山口 由美、人見 優子		
ナンバリング	KDe479		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。
2. 本科目は、学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 ・ 及び介護実習 ・ 介護実習 -1を単位取得した者、並びに介護総合演習を履修中の者のみが履修できる。

科目の概要

1. 利用者の介護計画の作成、実施後の評価・計画の修正といった一連の介護過程を実践する。
2. 入所施設で23日間の介護実習を行う。
3. 原則として、夜勤実習等の変則勤務を経験する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 利用者個別の状況に応じたコミュニケーション技術や生活支援技術の方法を学ぶ
2. 利用者一人の介護過程の展開を通して、介護過程の展開方法を学ぶ
3. 社会福祉施設・機関の役割及びチームケアのあり方、介護福祉士の職務内容・役割を理解する。

内容

1. 8～9月に、介護老人福祉施設や介護老人保健施設で、23日間 (184時間) の介護実習を行う

2. 本学習目標、個人の実習計画書、実習先のプログラム等を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し実習を行う。

3. 介護過程の展開については、下記を目安とする。

ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。

- ・ 1 週目後半：介護過程を展開する利用者を決定する。既に利用者が決定している場合は、利用者に関わりながらアセスメントを行う。
- ・ 2 週目 ：利用者に関わりながらアセスメントを行う
- ・ 3～4 週目：アセスメント 介護計画の立案 実施を行う
- ・ 4～5 週目：介護計画の実施・評価を行う

4. 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢、実習記録、本学習目標の到達度、個人の実習計画の達成度等について、実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえ評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学生が作成した実習計画書に沿った事前学習、介護過程の復習を行う。介護過程のポイントは「楽しく学ぶ介護過程」のテキストで復習すること（実習日に対して60分）

【事後学修】実習反省会、日々の実習記録等により実習を振り返り、実習のまとめを行う。（実習日に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）

科目名	保育実践演習		
担当教員名	亀崎 美沙子、伊藤 陽一、野田 日出子、矢野 景子		
ナンバリング	KDe380		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、原則として、保育実習 または を履修済みであることが必要である。これまでの学習で学んできた知識と、3回の保育実習で得た知識や技能を結びつけて、保育士として必要な実践力を育成すると共に、理論と実践の統合を目指す。本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」「 関心・意欲・態度」に關与する。

科目の概要

保育士の役割、職務内容、児童と保護者に対する支援について、これまでの講義と実習体験を基にグループ学習や討論、ロールプレイ、プレゼンテーション等を行い、学習成果をまとめる。保育実習報告、研究発表会を行い、実習前の下級生との交流を行うことで、新たな気づきを得ることも目指す。必修科目（保育実践演習を除く）及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、まとめる。

学修目標（=到達目標）

- ・ 保育に関する横断的な学習能力を習得する。
- ・ 保育に関する現代的課題について関心を持ち、現状分析、考察、検討ができる。
- ・ 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深め、実践できる。

内容

1	オリエンテーション
2	実習課題の振り返り・共有化とグループ編成
3	保育職としての課題の明確化
4	保育職としての課題の明確化
5	地域の中の児童福祉施設の機能と役割
6	子どもの最善の利益の理解
7	こども理解 特別な支援を必要とする子どもとの関わり
8	保護者支援 事例検討とグループディスカッション
9	保育専門職の役割と倫理
10	グループワーク・研究発表会準備
11	研究発表会 プレゼンテーション
12	研究発表会 プレゼンテーション
13	研究発表会 プレゼンテーション
14	実習の振り返り
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢30%、研究発表会の準備と発表30%、ワークシート・レポート40%とし、60点以上を合格とする。
。本科目は、研究発表会に出席し、実習成果の報告をすることで単位を認定する。

【フィードバック】研究発表の内容や資料について、その都度、口頭でフィードバックし、次回に活かせるようにする。

授業外学習

【事前準備】次週の課題に関わる事例について調べ、グループワーク・討論の準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】クラス内で学んだ事例について、関連する本を読み理解を深める。保育指導案の作成、実技の練習等、実践力を高める努力も行うこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各担当教員より適宜指示する。

科目名	保育実践演習		
担当教員名	伊藤 陽一、亀崎 美沙子、野田 日出子、矢野 景子		
ナンバリング	KDe380		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、原則として、保育実習 または を履修済みであることが必要である。これまでの学習で学んできた知識と、3回の保育実習で得た知識や技能を結びつけて、保育士として必要な実践力を育成すると共に、理論と実践の統合を目指す。本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」「 関心・意欲・態度」に關与する。

科目の概要

保育士の役割、職務内容、児童と保護者に対する支援について、これまでの講義と実習体験を基にグループ学習や討論、ロールプレイ、プレゼンテーション等を行い、学習成果をまとめる。保育実習報告、研究発表会を行い、実習前の下級生との交流を行うことで、新たな気づきを得ることも目指す。必修科目（保育実践演習を除く）及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、まとめる。

学修目標（=到達目標）

- ・ 保育に関する横断的な学習能力を習得する。
- ・ 保育に関する現代的課題について関心を持ち、現状分析、考察、検討ができる。
- ・ 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深め、実践できる。

内容

1	オリエンテーション
2	実習課題の振り返り・共有化とグループ編成
3	保育職としての課題の明確化
4	保育職としての課題の明確化
5	地域の中の児童福祉施設の機能と役割
6	子どもの最善の利益の理解
7	こども理解 特別な支援を必要とする子どもとの関わり
8	保護者支援 事例検討とグループディスカッション
9	保育専門職の役割と倫理
10	グループワーク・研究発表会準備
11	研究発表会 プレゼンテーション
12	研究発表会 プレゼンテーション
13	研究発表会 プレゼンテーション
14	実習の振り返り
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢30%、研究発表会の準備と発表30%、ワークシート・レポート40%とし、60点以上を合格とする

。本科目は、研究発表会に出席し、実習成果の発表をすることで単位を認定する。

【フィードバック】研究発表の内容や資料について、その都度、口頭でフィードバックし、次回に活かせるようにする。

授業外学習

【事前準備】次週の課題に関わる事例について調べ、グループワーク・討論の準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】クラス内で学んだ事例について、関連する本を読み理解を深める。保育指導案の作成、実技の練習等、実践力を高める努力も行うこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各担当教員より適宜指示する。

科目名	保育実習 A (保育所実習)		
担当教員名	伊藤 陽一、亀崎 美沙子、野田 日出子、矢野 景子		
ナンバリング	KDe281		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格必修科目の実習であり、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。実習に参加するためには 「保育実習指導 」を履修済みであること、「履修の手引き」に示すルールに従うこと、 実習参加要件を満たすことが必要となる。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上 (概ね12日間) の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 保育所の役割や機能について理解する。
- ・ 観察やかかわりを通して、子ども理解を深める。
- ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

内容

本科目では、保育所における実習を通して、実際に子どもとかかわりながら、保育所の役割や職務内容について理解を深めていく。また、部分的な保育を担当し、保育実践に関する学びを深めていく。

1	保育所の生活と一日の流れを理解し、参加する
2	保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解する
3	保育所保育指針の内容と、実際の保育の展開について理解する
4	子どもの観察や記録、直接的かかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
5	子どもの発達過程に応じた保育内容について理解する
6	保育課程、指導計画について理解する
7	生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する
8	職員間の役割分担と連携について理解する
9	子どもの安全管理及び疾病予防への配慮について学ぶ
10	家庭との連携や保護者支援について学ぶ
11	実習の総括と自己評価
12	
13	
14	
15	

評価

実習園の評価、実習日誌、提出物、実習参加状況等により総合的に評価し、とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習終了後、個別面談を実施し、実習評価を通知する。

授業外学習

【事前準備】「保育実習指導」内での指導内容や、実習先から指定された事前準備を行うこと。各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。(各回60分)

【事後学修】実習終了後、実習全体を振り返り、最終レポートを作成する(60分)。事後面談、実習評価票をもとに実習内容を振り返り課題を明確化する(120分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

その他、「保育実習指導」のテキストを使用する

科目名	保育実習 A (保育所実習)		
担当教員名	野田 日出子、伊藤 陽一、矢野 景子、亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe281		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格必修科目の実習であり、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。実習に参加するためには 「保育実習指導 」を履修済みであること、「履修の手引き」に示すルールに従うこと、 実習参加要件を満たすことが必要となる。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上 (概ね12日間) の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 保育所の役割や機能について理解する。
- ・ 観察やかかわりを通して、子ども理解を深める。
- ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

内容

本科目では、保育所における実習を通して、実際に子どもとかかわりながら、保育所の役割や職務内容について理解を深めていく。また、部分的な保育を担当し、保育実践に関する学びを深めていく。

1	保育所の生活と一日の流れを理解し、参加する
2	保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解する
3	保育所保育指針の内容と、実際の保育の展開について理解する
4	子どもの観察や記録、直接的かかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
5	子どもの発達過程に応じた保育内容について理解する
6	保育課程、指導計画について理解する
7	生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する
8	職員間の役割分担と連携について理解する
9	子どもの安全管理及び疾病予防への配慮について学ぶ
10	家庭との連携や保護者支援について学ぶ
11	実習の総括と自己評価
12	
13	
14	
15	

評価

実習園の評価、 実習日誌、 提出物、 実習参加状況等により総合的に評価し、とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習終了後、個別面談を実施し、実習評価を通知する。

授業外学習

【事前準備】「保育実習指導」内での指導内容や、実習先から指定された事前準備を行うこと。各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。(各回60分)

【事後学修】実習終了後、実習全体を振り返り、最終レポートを作成する(60分)。事後面談、実習評価票をもとに実習内容を振り返り課題を明確化する(120分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』

その他、「保育実習指導」のテキストを使用する

科目名	保育実習 B (施設実習)		
担当教員名	野田 日出子、亀崎 美沙子、矢野 景子、伊藤 陽一		
ナンバリング	KDe381		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、実習に参加するためには「保育実習指導」を履修済みであることが必要である。

実習後には事後指導を受けて振り返りを行い、児童福祉施設等における保育士の役割と専門性について考えを深め、保育実習・に向けて課題を明確化する。本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育所以外の児童福祉施設・障害者支援施設等の社会福祉施設において、90時間以上の実習を行い、児童福祉施設の役割・機能と、児童福祉施設等の利用者への理解を深める。保育士の業務内容や、利用者との関わり方、子どもの最善の利益を確保する取り組みを、日々の生活を通して学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 児童福祉施設等の役割や機能について理解する。
- ・ 観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども・利用者への理解を深める。
- ・ 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。
- ・ 保育・養護の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ・ 施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的に理解する。

内容

実習内容は以下の通りである。その他については施設の種類や対象年齢、施設の方針等によって異なる。

1	実習施設の目的と概要を理解する。
2	施設における一日の流れや日常生活全般の流れを理解する。、
3	集団生活の中での基本的な生活習慣(食事、排泄、入浴、着替え等)を個々に応じて支援する。
4	子ども及び利用者の特性を理解した支援内容について理解する。
5	子ども及び利用者の活動を理解し、実践的に学ぶ。
6	子ども及び利用者の安全管理や疾病に対する配慮を学ぶ
7	施設における専門職としての保育士の業務内容について学ぶ。
8	施設における職員間の役割分担や連携について学ぶ。
9	子ども及び利用者の人権と最善の利益の考慮について理解する。
10	記録に基づく省察・自己評価を行う。
11	
12	
13	
14	
15	

評価

実習先からの評価 実習日誌 実習参加状況をもとに総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習評価は、実習終了後に個別面談にて通知する。

授業外学習

【事前準備】実習施設にオリエンテーションに伺い、事前に作成した実習課題が適切であるか確認し、施設概要等について不明な点がある場合には調べる（各授業につき60分）。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する（60分）。実習評価票を基に事後面談を行い、実習についての課題を明らかにし、次回の実習に役立てる（120分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

保育実習の手引き

なお、保育実習指導 のテキストを参照する。

科目名	保育実習 B（施設実習）		
担当教員名	矢野 景子、伊藤 陽一、野田 日出子、亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe381		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、実習に参加するためには「保育実習指導」を履修済みであることが必要である。

実習後には事後指導を受けて振り返りを行い、児童福祉施設等における保育士の役割と専門性について考えを深め、保育実習・ に向けて課題を明確化する。本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育所以外の児童福祉施設・障害者支援施設等の社会福祉施設において、90時間以上の実習を行い、児童福祉施設の役割・機能と、児童福祉施設等の利用者への理解を深める。保育士の業務内容や、利用者との関わり方、子どもの最善の利益を確保する取り組みを、日々の生活を通して学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- ・児童福祉施設等の役割や機能について理解する。
- ・観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども・利用者への理解を深める。
- ・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。
- ・保育・養護の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ・施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的に理解する。

内容

実習内容は以下の通りである。その他については施設の種類や対象年齢、施設の方針等によって異なる。

- 1．日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣（食事、排泄、入浴、着替え等）を個々に応じて支援する。
- 2．子ども・利用者の活動を理解し、実践的に学ぶ。
- 3．専門職としての保育士の業務内容と倫理、職員間の役割分担や連携について学ぶ。
- 4．記録に基づく省察・自己評価を行う。

評価

実習先からの評価 実習日誌 実習参加状況をもとに総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習評価は、実習終了後の個別面談にて通知する。

授業外学習

【事前準備】実習施設にオリエンテーションに伺い、事前に作成した実習課題が適切であるか確認し、施設概要等について不明な点がある場合には調べる（各授業につき60分）。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する（60分）。実習評価票を基に事後面談を行い、実習についての課題を明らかにし、次回の実習に役立てる（120分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

保育実習の手引き

なお、保育実習指導 のテキストを参照する。

科目名	保育実習指導		
担当教員名	野田 日出子、亀崎 美沙子、伊藤 陽一、矢野 景子		
ナンバリング	KDe282		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習 A」ならびに「保育実習 B」の実習事前・事後指導を目的とするものである。保育実習に参加を希望する場合には、必ず履修しなければならない。なお、本科目の履修にあたっては、「実習の手引き」に示す指定科目の単位を修得済みであることを原則とする。本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

実習の目的・内容ならびに実習先施設の機能や役割、職員の職務内容を理解し、実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識・態度・技術を身につける。

あわせて、実習のねらいの達成に向けて、グループワークによるディスカッションや課題の共有、面談等を行う。

学修目標（＝到達目標）

実習の事前指導を通して、実習に必要な心構えや知識、技術を身につける。実習先施設の社会的役割や機能、職員の職務内容について理解し、自己課題を明確化する。実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育士としての課題を理解し、今後の学習目標を設定する。

その他、「実習の手引き」の記載事項に従うこと

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、事例分析等を取り入れながら、学びを深めていく。

第1回：オリエンテーション、第2回：保育所実習の内容理解

第3回：施設実習の意義と目標、第4回：保育所保育指針の理解

第5回：実習生に求められるもの、第6回：保育所の実習日誌の書き方 記録の意義と形式

第7回：施設の種類と概要 乳児院／児童養護施設等での援助・実践の理解

第8回：保育実習の心がまえと実習目標

第9回：施設の種類と概要 児童養護施設での援助・実践の理解

第10回：施設の種類と概要 障害者支援施設での援助・実践の理、

第11回：保育所の実習日誌の書き方 エピソード記録

第12回：保育所の実習日誌の書き方 時系列記録

第13回：実習課題の整理（施設）、第14回：子ども理解と援助

第15回：施設の記録作成 記録の意義と形式 第16回：施設の記録作成 エピソード記録

第17回：保育実習の書類作成等、第18回：施設実習の書類作成等

第19回：ゲストスピーカー特別講義（施設）、第20回：ゲストスピーカー特別講義（保育所）

第21回：実習内容の理解 保育所、第22回：実習内容の理解 施設

第23回：実習内容の理解 異学年交流による学び合い、第24回：実習オリエンテーションガイダンス（保育所）

第25回：実習オリエンテーションガイダンス（施設）

第26回：お礼状の書き方

第27回：実習計画の作成 保育所、第28回：実習計画の作成 施設

第29回：自己課題の設定と準備状況確認、第30回：自己課題の設定と準備状況確認

評価

授業への参加姿勢40%、提出課題等60%（保育所30%、施設30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：実習計画、提出書類等の評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り扱うテキスト・保育所保育指針の該当所を事前に読んでおくこと。また、指定された書類・レポートを作成しておくこと。（各回60分）

【事後学修】実際の実習場面を想定して、実習生としての対応についてまとめる、あるいは、授業内で取り扱ったエピソードをもとに、実習記録を作成すること。（各回60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 実習の手引き、厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社、長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』、松本峰雄『より深く理解できる施設実習 施設種別の計画と記録の書き方』萌文書林
その他、授業内で適宜紹介する。

科目名	保育実習（保育所実習）		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe383		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。実習に参加するためには、「保育実習指導」の単位を修得済みであること、原則として「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していること、「保育実習指導」を履修していること、実習参加要件を全て満たしていること、「実習の手引き」に従うことが必要である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。本科目では、同一クラスで連続して実習を体験し、指導案の作成にもとづく責任実習を行う。さらに、保育士の行う保護者支援、地域の在宅家庭への子育て支援について学んでいく。

学修目標（=到達目標）

- ・保育所の保育を実際に実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うと共に、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

内容

本科目では、保育所における実習を通して、保育所の役割や保育士の職務の理解を深めるとともに、保育の計画・実践・評価を実際に体験し、学びを深めていく。

1	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2	子どもの個人差について理解し、対処方法を理解する
3	指導計画を立案し、実際に実践する
4	家庭とのコミュニケーションや具体的支援について学ぶ
5	地域の在宅子育て家庭に対する支援について具体的に学ぶ
6	子どもの最善の利益とその配慮について学ぶ
7	保育士の職業倫理について学ぶ
8	保育所保育士に求められる資質・能力・技術について、自己課題を明確化する
9	実習全体を振り返り、実習の評価を行う
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

実習園の評価、実習日誌、提出物、実習参加状況等により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】実習終了後、個別面談を実施し、実習評価を通知する

授業外学習

【事前準備】各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。また、「保育実習 A」の自己課題を踏まえ、必要な事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習全体を振り返り、実習レポートを作成する(120分)。また、日誌、実習評価票、事後面談を踏まえ、自己課題を明らかにする。(240分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針』フレーベル館

「保育実習指導」の使用テキスト

その他、授業内で指示する

科目名	保育実習（保育所実習）		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe383		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。実習に参加するためには、「保育実習指導」の単位を修得済みであること、原則として「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していること、「保育実習指導」を履修していること、実習参加要件を全て満たしていること、「実習の手引き」に従うことが必要である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。本科目では、同一クラスで連続して実習を体験し、指導案の作成にもとづく責任実習を行う。さらに、保育士の行う保護者支援、地域の在宅家庭への子育て支援について学んでいく。

学修目標（=到達目標）

- ・保育所の保育を実際に実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うと共に、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

内容

1	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2	子どもの個人差について理解し、対処方法を理解する
3	指導計画を立案し、実際に実践する
4	家庭とのコミュニケーションや具体的支援について学ぶ
5	地域の在宅子育て家庭に対する支援について具体的に学ぶ
6	子どもの最善の利益とその配慮について学ぶ
7	保育士の職業倫理について学ぶ
8	保育所保育士に求められる資質・能力・技術について、自己課題を明確化する
9	実習全体を振り返り、実習の評価を行う
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

実習園の評価、実習日誌、提出物、実習参加状況等により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習評価は、実習終了後に通知する

授業外学習

【事前準備】各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。また、「保育実習 A」の自己課題を踏まえ、必要な事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習全体を振り返り、実習レポートを作成する(120分)。また、日誌、実習評価票、事後面談を踏まえ、自己課題を明らかにする。(240分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」、「保育所保育指針」の他、「保育実習指導」で指定するテキストを使用する

科目名	保育実習指導		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe382		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」に参加するための実習事前・事後指導である。そのため、「保育実習」に参加を希望する場合には、必ず履修しなければならない。本科目は、本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

本科目では、「保育実習」に向けた実習事前指導を行う。「保育実習 A」の評価から自己課題を設定し、必要な専門性を身につけるために、指導案の作成、実践と評価を行う。「保育実習指導」の単位を修得している場合に履修が可能である。また、履修時に「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していることを基本とする。

学修目標 (= 到達目標)

実習に向けて、子どもの発達に応じた指導案を作成し、実践することができる、地域子育て支援の取り組みについて理解する、入所児童の保護者に対する支援について理解することを主な目標とする。

履修にあたっては、「実習の手引き」に定めるルールに従うこと。

内容

本科目では、保育実習に向けて、ペアワーク、グループワークを中心に演習形式で進めていく。また、地域子育て支援に関する見学実習を行い、実践に関する理解を深めていく。

1	オリエンテーション
2	自己課題の明確化
3	実習内容の理解 保育所の社会的役割と保育士の職務
4	実習内容の理解 保育所における地域子育て支援の機能と役割
5	実習内容の理解 保育所における地域子育て支援の実際
6	保育内容の理解 発達に即した生活と援助
7	保育内容の理解 発達に即した教材
8	実習計画・目標の設定
9	保育の計画と実践 部分実習指導案の作成
10	保育の計画と実践 実践と評価・改善
11	保育の計画と実践 1日責任実習指導案の作成
12	実習オリエンテーションガイダンス
13	実習日誌の評価と改善
14	実習内容・準備状況の確認
15	まとめ

評価

提出物60%、事前学習20%、参加姿勢20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】指導案、実習計画等の評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】「実習の手引き」を熟読しておくこと。各回で指定された書類作成、事前課題に取り組むこと。(各回60分)

【事後学修】授業内容を各自ノートにまとめ、ノートをまとめること。(各回60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

【推薦書】

開仁志編著『これで安心！保育指導案の書き方』北大路書房

その他、授業内にてプリントを配布する。

科目名	保育実習（施設実習）		
担当教員名	矢野 景子、伊藤 陽一、野田 日出子		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は保育士資格取得の必修科目であり、保育実習 A、保育実習 Bに加えて、児童福祉施設等における実習を深める性格を持つ。また、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、児童福祉施設等において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。養護・療育・健全育成の内容を深めるために、施設等において部分実習及び責任実習を行う。

学修目標（＝到達目標）

- ・既習の教科目や保育実習 の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、子どもの健全育成に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
- ・施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的な実践に結び付けて理解する。
- ・実習における自己課題を理解する。

内容

1	子ども（利用者）に対する養護全般に参加し、日常生活や自立支援といった技術を習得する。
2	子ども（利用者）の個人の状況について理解し、適切な対応方法を習得する。
3	支援計画を立案の方法を学び、実際に実践している状況を観察・学習する。
4	子どもや利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。
5	地域とのかかわりについて理解を深め、地域及び関係機関との連携の方法について学ぶ。
6	子どもの最善の利益を確保する方法について学ぶ。
7	児童福祉施設等に勤務する保育士として専門職の倫理を具体的に学ぶ。
8	児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力等について認識し、自己の課題を明確化する。
9	まとめ・保護者支援、家庭再統合のための知識、技術、判断力を養う。
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

実習先の評価、実習日誌、提出物、実習参加状況を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】これまで学習した保育、社会福祉関係の専門科目を復習する。また、保育実習 Bでの自己課題を踏まえた綿密な目標を立て、事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する(120分)。実習評価票を基に事後面談を行い、施設保育士としての自己課題を明らかにする(240分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『実習の手引き』及び保育実習指導 で使用した教科書

科目名	保育実習（施設実習）		
担当教員名	矢野 景子、伊藤 陽一、野田 日出子		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は保育士資格取得の必修科目であり、保育実習 A、保育実習 Bに加えて、児童福祉施設等における実習を深める性格を持つ。また、本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、児童福祉施設等において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。養護・療育・健全育成の内容を深めるために、施設等において部分実習及び責任実習を行う。

学修目標（＝到達目標）

- ・既習の教科目や保育実習 の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、子どもの健全育成に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
- ・施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的な実践に結び付けて理解する。
- ・実習における自己課題を理解する。

内容

1	子ども（利用者）に対する養護全般に参加し、日常生活や自立支援といった技術を習得する。
2	子ども（利用者）の個人の状況について理解し、適切な対応方法を習得する。
3	支援計画を立案の方法を学び、実際に実践している状況を観察・学習する。
4	子どもや利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。
5	地域とのかかわりについて理解を深め、地域及び関係機関との連携の方法について学ぶ。
6	子どもの最善の利益を確保する方法について学ぶ。
7	児童福祉施設等に勤務する保育士として専門職の倫理を具体的に学ぶ。
8	児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力等について認識し、自己の課題を明確化する。
9	まとめ・保護者支援、家庭再統合のための知識、技術、判断力を養う。
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

実習先の評価、参加状況、実習日誌を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】これまで学習した保育、社会福祉関係の専門科目を復習する。また、保育実習 Bでの自己課題を踏まえた綿密な目標を立て、事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する(120分)。実習評価票を基に事後面談を行い、施設保育士としての自己課題を明らかにする(240分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】本学作成の『実習の手引き』実習指導 のテキスト

科目名	保育実習指導		
担当教員名	野田 日出子、伊藤 陽一、矢野 景子		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得希望者を対象とした選択必修科目である。本科目は「施設実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。

また、本科目は、本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育士資格取得のために、児童福祉施設等における実習「保育実習」に向けた実習事前指導を行う。「保育実習 B」の体験、学修の学び、評価を振り返り、さらに必要な専門性を身につけるために、日常生活支援、自立支援、療育支援、遊びの支援のあり方を学ぶ。また、履修時に「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していることが前提になる。

学修目標 (= 到達目標)

保育実習の実習に向けて、児童福祉施設の社会的役割の理解、施設保育士としての職務、施設における子育て支援・家族再統合のあり方、施設保育士の倫理等を理解すること。実習事後指導等より実習の総括と自己評価を行い、保育・養護・療育・健全育成等の課題を明確にする。

履修にあたっては、「実習の手引き」に定めるルールに従うこと。

内容

学習効果向上のため、順番を変更する場合もあり得る。

1	オリエンテーション 保育実習指導 の目的と保育実習 Bの振り返り
2	実習施設の概要理解
3	実習施設の内容理解 (実習施設の社会的役割・保育士の職務・利用児・者の現況)
4	実習施設の生活日課への支援のあり方及び保育実習 b 面談
5	実習施設の活動 (学習・療育・遊び等) への支援のあり方及び保育実習 b 面談
6	実習施設の施設の特質 (虐待・障害・子育て支援等) への支援のあり方及び保育実習 b 面談
7	施設の日課における課題探索 生活日課への支援のあり方
8	施設の日課における課題探索 活動 (学習・療育・遊び等) への支援のあり方
9	施設の日課における課題探索 施設の特質 (虐待・障害・子育て支援等) への支援のあり方
10	課題発表と取り組み評価 実習計画と目標の設定
11	課題発表と取り組み評価 実習教材の作成
12	課題発表と取り組み評価 実習指導案の作成
13	施設種別ごとの個別学習 実習の準備状況の確認・実習記録の書き方
14	施設種別ごとの個別学習 実習の最終確認 (実習内容・実習日誌等)
15	まとめ

評価

授業の取組姿勢20%、事前学習20%、提出物60%の状況を総合的に勘案し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】これまで学習した保育、社会福祉関係教科の復習が必要（各授業につき60分）。

【事後学修】学習した課題、演習等の再確認が必要（各授業につき60分）。

実習準備及び実習後において、書類や課題の提出物は期限内に提出のこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松本峰雄『より深く理解できる施設実習 施設種別の計画と記録の書き方』萌文書林

【参考図書】守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

科目名	社会調査の応用		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	Kdf384		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目であるが、内容的に「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。また、社会福祉士国家試験の合格に要求される「各種統計数値の見方」「統計数値が示す内容の理解」を習得し、試験対策に役立つ性格も有する。さらに、人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの、「 学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

社会調査によって明らかとなった各種統計数値を講義形式で説明する。また、明らかとなった課題や背景をグループでディスカッションし、小論文形式でまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 社会調査にける各種統計数値に基づき、現代社会における現状や課題を深く理解できる。
- 2) 統計数値を用いて、論文作成に活かす技術が習得できる。

内容

この授業は講義形式を基本として、小論文作成やグループディスカッションにより、学びを深めていく

1	統計指標の理解と意義
2	人口動態調査
3	人口動態調査 に基づき小論文作成
4	国民生活基礎調査
5	国民生活基礎調査に基づき小論文作成
6	福祉行政報告例
7	福祉行政報告例に基づき小論文作成
8	幼稚園・保育所等の経営実態調査
9	幼稚園・保育所等の経営実態調査に基づき小論文作成
10	地域児童福祉事業等調査
11	地域児童福祉事業等調査に基づき小論文作成
12	被保護者調査
13	被保護者調査に基づき小論文作成
14	国民医療費調査
15	国民医療費調査に基づき小論文作成

評価

授業への参加度10%、小論文50% 期末試験40%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁

止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】適宜小論文の作成を授業内で行うので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返るとともに添削後の確認を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働統計協会編「国民の福祉と介護の動向2019/2020」厚生労働統計協会

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	Kdf386		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

公的扶助特論は公的扶助論と連関する科目である。低所得者対策と生活保護制度の概要と運用の実際や問題点について理解する。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「 学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

貧困の現実、憲法・生活保護法の人権理念、子どもの貧困対策法、ホームレス問題、改正生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護不正受給問題等、それぞれの概要と連関、実際、運用の問題点等を理解する。

学修目標（＝到達目標）

低所得者に対する支援と生活保護法制度の概要やその実際の在り方と関連づけて理解することを目標とする。

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

授業の方法・授業計画

1 オリエンテーション。

本講義の概要、貧困の概念について説明する。

2 貧困・低所得者問題。低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。

3 生活保護制度の概要 。生活保護の原理、原則。

4 生活保護制度の概要 。生活保護の種類、加算について理解する。

5 生活保護制度の概要 。最低生活費の体系について理解する。

6 生活保護制度の概要 。収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。

7 生活保護制度における組織及び団体の役割。福祉事務所の役割について理解する。

8 生活保護制度における専門職の役割と実際。現業員の役割、査察指導員の役割について理解する。

9 現業員と査察指導員の業務 。高齢者世帯の事例を用いて、業務内容を理解する。

10現業員と査察指導員の業務 。母子世帯の事例を用いて、業務内容を理解する。

11生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際

12生活保護制度における自立支援。就労支援と労働市場の現状について理解する。

13生活困窮者自立支援法の概要としくみ。

14生活福祉資金の概要、無料定額診療制度、住宅施策、支援組織について学ぶ。

15まとめ

評価

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジュメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】今井伸編著 「わかるみえる社会保障論」みらい

【参考図書】授業時、適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	坂入 竜治		
ナンバリング	Kdf187		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間福祉学科の学位授与方針 1，2，3 に該当する

科目の性格

人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、社会福祉展開科目である本科目では、精神保健（メンタルヘルス）の立場から人間の生活を捉え、精神保健の諸課題をソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用）から理解する視点を養うものとする。

科目の概要

現代社会における精神保健の諸課題について理解を深めると同時に、それらの問題に対し社会福祉学を基盤とするソーシャルワーク専門職が果たす役割について学んでいく。

学修目標（＝到達目標）

- ・人間の生活における精神保健の諸課題について説明することができる。
- ・精神保健の諸課題に対する福祉的支援の必要性を説明することができる。
- ・精神障害者の地域移行支援について説明することができる。

内容

この授業は講義を基本に、映像資料等を活用しながら個人ワーク、教員との対話などを通じて学びを深めていく。

1	オリエンテーション・精神保健福祉を学ぶ意義
2	精神保健と社会福祉
3	ライフサイクルと精神の健康
4	精神保健と生活習慣・ストレス
5	代表的な精神疾患の理解（1）
6	代表的な精神疾患の理解（2）
7	精神保健福祉にかかわる専門職種と多職種連携
8	家庭における精神保健福祉
9	学校における精神保健福祉
10	職場における精神保健福祉
11	アルコール関連問題対策
12	自殺防止対策
13	精神障害者の地域移行
14	本科目のまとめ（1）
15	本科目のまとめ（2）

評価

リアクションペーパー（10回程度）30%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

リアクションペーパーへの質問については授業で可能なかぎり返答し、理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前学修】 次回の授業内容に関連する新聞記事をインターネットを用いて検索し、内容を整理してまとめておくこと（各授業に対して60分）。

【事後学修】 配布資料の内容を復習し、疑問点があればまとめておくこと（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 使用しない。レジュメは学生各自で印刷の上、授業に出席すること（初回に説明する）。

【推薦書】 授業内で紹介する。

【参考図書】 授業内で紹介する。

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	Kdf188		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間生活学部学位授与方針の3、人間福祉学科学位授与方針の3に該当し、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、推進するための技術としてボランティア・コーディネーション力を、具体的実践事例 (ゲストスピーカー含む) を交えながら理解することを内容とする。

学修目標 (=到達目標)

1. ボランティアについて理解する。
2. ボランティア・コーディネーションについて理解する。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を身につける。

内容

この授業は講義を基本に、ゲストスピーカーを交えて話し合う機会を作ったり、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ボランティアについて-概観-
2	実際の活動から学ぶ 本学ボランティアセンターや学内活動
3	ボランティアの必要性和意味
4	ボランティア活動の内容
5	実際の活動から学ぶ 学外のボランティアについて
6	日本のボランティア活動の歴史
7	ボランティア活動の性格 主体性、社会性、創造性
8	ボランティア活動の性格 無償性
9	ボランティアとNPO
10	実際の活動から学ぶ NPO活動について
11	ボランティアのとらえ方
12	利己主義と利他主義、ボランティア活動の課題と弱点
13	実際の活動から学ぶ ボランティアコーディネーターについて
14	ボランティアとNPO、ボランティアセンター
15	ボランティアコーディネーターの役割

評価

授業への参加度10% (シンキングタイムで学生同士で話し合う)、毎回のリアクションペーパー10%、学修目標に関する中間レポート40%、総括レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】ボランティアについて、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等から確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業内容を復習しすることを必須として、授業時に紹介されたHP、活動等について各自内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科目名	介護基礎		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDf089		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として、介護の知識と基本的な介護技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、主体的にいきいきと暮らしていくために、支援者が身に付けておくべき知識と技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

学修目標

1. 利用者主体の介護を理解できる。
2. 利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する。
3. 環境の整備、食の支援、身じたくの支援に関する技法を習得する。

内容

1	ガイダンス 介護福祉の基礎
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解
5	車椅子体験と介助方法
6	食事の介護 < 食事の意義と目的 >
7	食事の介護 < 食事における介護技術 >
8	身じたくの介護 < 身じたくの意義と目的 >
9	身じたくの介護 < 身じたくにおける介護技術 >
10	移動の介護 < 移動の意義と目的 >
11	移動の介護 < 移動・移乗における介護技術 >
12	移動の介護 < 移動・移乗における介護技術 >
13	排せつの介護 < 排せつの意義と目的・排泄における介護技術 >
14	高齢者の理解
15	まとめ

評価

授業への取り組み 20点、レポート 40点、筆記試験 40点とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料は、講義内容に合わせて適宜配布する

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KDf281		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科の学位授与方針2に該当する。本学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

本授業は講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容についての討論も行い、学びを深めていく。

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 障がい児のきょうだい支援
9	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
10	子どものリハビリテーション 発達障がい
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。
【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑に返答し、学習理解が深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ授業中の問いかけに答えられるように準備しておく（60分）。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにして、知識を深めておく。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておく（60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川真旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング	Kdf192		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標 (= 到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容

毎回のテーマに合わせて、「単語」、「文法」、「会話練習」で手話を身につける。

聴覚障がい者の諸問題についてグループ・ディスカッションで掘り下げて行く。

第1回 あいさつ

第2回 家族

第3回 名前

第4回 指文字ア～サ行

第5回 点字の基礎

第6回 指文字タ～八行

第7回 趣味

第8回 指文字マ～ワ行

第9回 地名

第10回 実技まとめ

第11回 色彩

第12回 食べ物

第13回 介護

第14回 講義まとめ

第15回 会話練習

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、授業への参加度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の読み取り問題は、授業の最後に答え合わせをする。実技まとめ、講義まとめについては、その翌週に正解発表と解説を行う。自分の到達度や課題について確認しよう。

授業外学習

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと(60分程度)

【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと(各授業に対して15分程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	スクールソーシャルワーク論		
担当教員名			
ナンバリング	Kdf394		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目

学校教育分野で活動するソーシャルワーカーとしてのスクールソーシャルワーカー(SSW)は、我が国では新しい職業であること等から、基本的な業務の性格、特徴、及び現状と課題等について学びます。

科目の概要

SSWの成り立ちの歴史、現状と課題、及び実践について、事例を交え講義を中心に進行します。そのために、常に教育、児童福祉関連のニュースに関心を持つ必要があります。特に学校におけるいじめ、体罰等の問題、及び子どもの生活に関わる貧困問題に着目する必要があります。

学修目標（=到達目標）

ソーシャルワーク業務におけるSSWの特徴、及び現状と課題等について理解でき、説明できることを目標とします。

内容	
1	なぜ、SSWが必要なのか。
2	SSWとは何か。
3	SSWの価値。
4	SSWの意義。
5	SSWの歴史と動向。
6	学校教育の特徴。
7	学校が連携する機関とその機能。
8	学校が連携する機関とその機能。
9	SSWの基礎理論。
10	SSWのケース展開。
11	SSWのケース展開。
12	SSWの実践。
13	SSWの実践。
14	SSWの実践。
15	まとめ

評価

筆記試験60%、授業内レポート等を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業期間中に調整します。

授業外学習

【事前準備】テキストの読み込み、及び学校におけるいじめ等についての報道に関心を持つ。

【事後学修】振り返り、特に福祉的視点から各課題を整理してみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】よくわかるスクールソーシャルワーク（ミネルヴァ書房）

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	Kdf195		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする。支援を必要とする人々への基本的なとらえ方を理解することに関連する。本学科学位授与方針1に関連する。 ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。またケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察する。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

授業形態は、広義を基本として、個人ワークもしくは集団学習を用いる。

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	ケアの経験
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開1)
6	看護教育におけるケア
7	ケアと共感：ロジャーズのカウンセリング理論
8	ケアと共感 (コフト、神田橋)
9	ケアと抱え
10	ケアと共依存：依存症、アダルトチルドレン、人格障害
11	ケアと共依存：恋愛依存
12	ターミナルケア (キューブラロス)
13	ターミナルケア (北米仏教の思想とGRACEプログラム)
14	ケアと癒し (傷ついた癒してモデルより)
15	まとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。レポート課題へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア (care) の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。授業中に資料等を配布する。

【推薦書】

ロロ・メイ 『愛と意志』 誠信書房

メイヤロフ 『ケアの本質』 ゆみる出版

広井良典 『ケア学』 医学書院

岡田尊司 『境界性パーソナリティ障害』 幻冬舎新書

西平直・中川吉晴 『ケアの根源を求めて』 誠信書房

科目名	医療ソーシャルワーク論		
担当教員名	杉山 明伸		
ナンバリング	Kdf396		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . に該当する社会福祉展開科目です。

科目の概要

医療ソーシャルワーカーの機能と役割をゼミ形式で学びます。講義だけでなく、積極的な意見交換を行います。医療機関でのソーシャルワークに関心のある人や、将来、医療ソーシャルワーカーになりたいと考えている人の履修を歓迎します。

学修目標 (= 到達目標)

医療ソーシャルワーカーの倫理・知識・技術を実践的に理解できるようになる。

内容	
1	医療ソーシャルワーカーとは
2	医療ソーシャルワーカーにできること
3	医療ソーシャルワーカーの歴史
4	医療ソーシャルワーカーが大切にしていること
5	病院の種類
6	病院の歴史
7	病院にいる専門職
8	病院に影響を与える制度
9	医療法
10	医療保険と診療報酬
11	病院を利用される人たち
12	発症してから、退院した後
13	患者・家族支援の実際
14	医療ソーシャルワーカーとして病院で働くということ
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、テスト70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】質疑には随時、遅くも次回授業時に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

- 【事前準備】新聞・ニュース等の医療福祉関連記事に関心を持ち、自分なりに内容を整理しておく（各授業に対し60分）。
- 【事後学修】授業内容に関連した書籍・ホームページ等を閲覧し、必要に応じ医療福祉関連の現場を訪ねるなどして、理解を深めるように復習ノートを作成する（各授業に対し60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】菊地かほる、これがMSWの現場です 2015年補訂版 、医学通信社

【参考図書】池上直己、医療・介護問題を読み解く、日本経済新聞出版社

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格: 卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解する。本学科学位授与方針2に関連する。

科目の概要: ポートフォリオの活用による担任によるメンタリング。

社会福祉分野のフィールドワーク (グループ活動)、フィールドワーク報告会。ゼミ説明会運営。

学修目標 (= 到達目標): グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
3	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
4	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
5	フィールドワークの概要
6	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
8	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
9	フィールドワークの実施 (グループ別)
10	フィールドワークの実施 (グループ別)
11	フィールドワークの実施 (グループ別)
12	フィールドワークの報告会準備
13	フィールドワークの報告会準備
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて
15	まとめ

評価

フィールドワークレポート、報告会レポート等の提出物 (50%) および最終レポート (40%)、授業参加態度 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】フィールドワーク概要で課題を提示、事前学習を行う

【事後学修】フィールドワーク実施後、事前学習と統合し報告会でクラス内で共有する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格:卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解する。本学科学位授与方針2に関連する。

科目の概要:ポートフォリオの活用による担任によるメンタリング。

社会福祉分野のフィールドワーク(グループ活動)、フィールドワーク報告会。ゼミ説明会運営。

学修目標(=到達目標):グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
4	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
5	フィールドワークの概要
6	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
8	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
9	フィールドワークの実施(グループ別)
10	フィールドワークの実施(グループ別)
11	フィールドワークの実施(グループ別)
12	フィールドワークの報告会準備
13	フィールドワークの報告会準備
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて
15	まとめ

評価

フィールドワークレポート、報告会レポート等の提出物(50%)および最終レポート(40%)、授業参加態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】フィールドワーク概要で課題を提示、事前学習を行う

【事後学修】フィールドワーク実施後、事前学習と統合し報告会でクラス内で共有する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格: 卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解する。本学科学位授与方針2に関連する。

科目の概要: ポートフォリオの活用による担任によるメンタリング。

社会福祉分野のフィールドワーク (グループ活動)、フィールドワーク報告会。ゼミ説明会運営。

学修目標 (= 到達目標): グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
3	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
4	ポートフォリオ作成とメンタリング (クラス担任別)
5	フィールドワークの概要
6	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
8	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
9	フィールドワークの実施 (グループ別)
10	フィールドワークの実施 (グループ別)
11	フィールドワークの実施 (グループ別)
12	フィールドワークの報告会準備
13	フィールドワークの報告会準備
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて
15	まとめ

評価

フィールドワークレポート、報告会レポート等の提出物 (50%) および最終レポート (40%)、授業参加態度 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】フィールドワーク概要で課題を提示、事前学習を行う

【事後学修】フィールドワーク実施後、事前学習と統合し報告会でクラス内で共有する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格:卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解する。本学科学位授与方針2に関連する。

科目の概要:ポートフォリオの活用による担任によるメンタリング。

社会福祉分野のフィールドワーク(グループ活動)、フィールドワーク報告会。ゼミ説明会運営。

学修目標(=到達目標):グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
4	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)
5	フィールドワークの概要
6	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
8	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習
9	フィールドワークの実施(グループ別)
10	フィールドワークの実施(グループ別)
11	フィールドワークの実施(グループ別)
12	フィールドワークの報告会準備
13	フィールドワークの報告会準備
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて
15	まとめ

評価

フィールドワークレポート、報告会レポート等の提出物(50%)および最終レポート(40%)、授業参加態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】フィールドワーク概要で課題を提示、事前学習を行う

【事後学修】フィールドワーク実施後、事前学習と統合し報告会でクラス内で共有する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現すること、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高め発展させることができること、他者とのかわりから振り返りを進め、専門的援助関係における自己覚知を深めることに関連する。本学科学位授与方針2.3に関連する。

科目の概要

ゼミごとの中心的なテーマに対して主体的にコミットし、自分自身の見解を明確にすることができるようになることを目指す。また他のメンバーの見解を批判的に受け入れ、かつそれに対して自分なりの見解を伝達することができることを目指す。傾聴やカウンセリング等の面接技法に関連する文献を輪読する。レジュメ作成を通して読解力の向上、自身の見解の適切な表明を求める。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己覚知について深めることができる。
- 2) 文献購読ができるようになる。
- 3) 傾聴姿勢や技法について1つ以上習得する。

内容

オリエンテーション、今後の予定、レポート課題の提示、自己成長のためのガイドライン傾聴スキルトレーニング、文献輪読、フィールドワーク：保育園や子ども食堂、特養、地域活動支援センター等での参与観察
<後期>

傾聴トレーニング、卒業研究の方法、まとめ

年に2回程度ゼミ合宿を行う。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。結果は翌年度の卒業研究の授業の最初にフィードバックする。

授業外学習

- 【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。
- 【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科学位授与方針1,2,3に該当する。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず全科目と関連する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために、多様な地域福祉実践をフィールドワークやサービラーニングで認識し、テキスト等を活用して知識を吸収し、自由なディスカッションを通じて思考力、想像力、判断力を養う。ゼミは成長を共にする仲間との学びあいの場であり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめ、自己の成長に生かす。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

卒研に向けた関心テーマに基づくグループワークやフィールドワークを実施し、社会福祉課題としての障害児者余暇活動支援に関する活動を地域ボランティアと実践的に学ぶアクティブラーニングを実施する。また、個別の指導を通じて、研究方法を探求し、研究テーマを見出し焦点化して考察を深め、ゼミ生は卒業論文を作成する。

評価

日頃の学習活動やディスカッションの内容、レポート、卒業論文と報告会等から総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の発言やレポート発表にコメントし、学習理解を深められるよう対話する。

授業外学習

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われる政策や事業、実践活動を確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】テーマやキーワードの理解を深め、復習を必須とし、授業で紹介されたHP、施策や事業、実践の内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成し、卒研に生かす。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つけていく。

学修目標 (= 到達目標)

1) 自己の研究テーマが選定できる。2) テーマに接近するための道筋がわかる。3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

片居木ゼミはとくに「現代の人権と法を考える」を統一テーマとして、各自関心のある人権問題についてテーマを絞り、立論・意見交換・討論などを通して、卒論準備を進める。

3年次において卒論目次の大方を完成。4年次は個別指導を中心に、目次完成と卒論執筆を進め、その進捗状況の確認を行う。卒論提出後、ゼミ時間に卒業研究報告会を行う。

卒論は製本の予定。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習し、次回報告に向けレポートを作成しておく (各演習に対して30分)。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進め、レポートを作成しておく (各演習に対して30分)。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する科目である。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか、ゼミメンバーで共有する過程を大切にする。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

なお、本科目は、主に学位授与方針 (ディプロマポリシー) の 1 と 2 に該当する。

内容

ゼミ全体のグループ指導、あるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。
研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。
先行研究、研究計画、ゼミ発表レジュメ等をまとめ、その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。
ゼミ活動の記録や発表のレジュメ等を、ゼミメンバーで共有し、各自のフィードバックができるようにする。
【フィードバック】ゼミ指導・個人指導のフィードバックは、授業内で随時、口頭で行う。

授業外学習

- 【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する (各授業に対して30分)
- 【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく (各授業に対して30分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。社会福祉の課題に関心を持ち、課題を解決する方法などについて学び合う科目である。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか共有する。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に支援しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し、内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（=到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる
- 3) 仲間の研究テーマや視点に関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

当ゼミでは、「保育・福祉の専門職のあり方」を統一のテーマとし、そこから各自の関心のあるテーマに則した、グループディスカッションならびに個別指導を通じて、研究テーマを設定する。さらに、研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、4年次の卒業研究につなげる。

夏合宿を行いフィールドワークを実施する。ゼミの時間には保育・福祉分野の専門職を迎えて講義を行うことがある。そこでは、専門職・社会人として必要なスキルを磨く機会になるので、自覚をもって講義に参加することを望む。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ゼミ指導・個人指導のフィードバックは、授業内で随時行う。

授業外学習

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。目的意識をしっかりと持ち、講義に参加すること。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。本科目はディプロマポリシーの「思考・判断」、「関心・意欲・態度」にかかわる科目である。

科目の概要

前期ではゼミ生一人ひとりが卒業研究のテーマを絞り込むために、ゼミ生の要望に合わせて事業所見学やテーマに沿った学びの場を持つ。その上で自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 根拠にもとづき論理的に物事を考えることができる。
- 2) 研究テーマとその方法がわかる。
- 3) 収集した情報を構造化し、自分なりの考えを述べることができる。

内容

事前にレポートを作成し、発表ならびにグループディスカッションを行いながら、学びを深めていく。各自の関心にしたがって研究テーマを設定し、適切な研究方法を探求し、考察を進める。また、必要に応じて子育て支援の場に出向き、フィールドワークを実施する。

評価

授業への参加姿勢30%、提出物70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出レポートにもとづきディスカッションと個別指導を行う。

授業外学習

【事前準備】各回で出される課題レポートに取り組むこと。(各回120分)

【事後学修】ディスカッションや個別指導を踏まえ、レポートの改善に取り組むこと。(各回120分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で適宜指示する。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 卒業研究の意義と目的について理解できる
- 2) 自己の研究テーマが選定できる
- 3) テーマに接近するための道筋がわかる
- 4) 仲間の研究テーマや視点に関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける

内容

1. 教員の提示した研究テーマ・学生の関心のあるテーマをもとに研究方法について理解を深める。
2. フィールドワークを通じて、各自の研究テーマを検討し焦点化する。
3. 研究テーマを明確にし、4年次の卒業研究へつなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容等を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各自興味関心のある内容について、図書、論文、ホームページ等で情報を収集し理解を深めておく (各授業に対して 60 分)

【事後学修】講義内でのディスカッションを復習すると共に、卒業研究のための方法について各自学習を進める (各授業に対して 60 分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜、資料の配布・紹介を行う

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1，2，3，に該当する。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（=到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。
- 【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」、「 関心・意欲・態度」に深くかかわる科目である。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。また、仲間と共に学ぶ姿勢を持ち、お互いの興味関心やテーマなどにも触れながら、視野を広げていく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 自己の研究テーマが選定できる。
- ・ テーマに接近するための筋道が分かる。
- ・ 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築く。

内容

1. 保育に関連するフィールドワークを行い、体験したことを各自まとめ、発表することを通して、テーマを焦点化していく。
2. 教員の指導を通じて、それぞれのテーマにふさわしい研究方法を探究し、4年次の卒業研究につなげていく。

評価

研究に取り組む姿勢 (40%) と、その成果が発表やレポートなどに現れていること (60%) を評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ゼミ内での発表や中間報告に対して、その都度コメントをし、次に繋げられるようにする。

授業外学習

【事前準備】各自のテーマに合わせた文献検索、情報収集を行い、発表できるようにまとめる。(各授業に対して60分) 関連分野のワークショップ、ボランティアなどには積極的に参加する。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自研究を進められるよう調べ学習を行う。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 【推薦書】 【参考図書】 各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」、「 関心・意欲・態度」に深くかかわる科目である。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 自己の研究テーマが選定できる。
- ・ テーマに接近するための筋道が分かる。
- ・ 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築く。

内容

人間福祉演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を探るプロセスを経験する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要と資料の集め方の基礎を学ぶことを中心に授業を進める。後期には、各自興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行い、その過程をゼミの中で発表する。

年間を通して、地域における自主社会活動や実践活動に取り組み、課題発見力・社会人基礎力・表現力を磨くことも目指す。

第1回オリエンテーション・ゼミにつて

第2回～第4回 卒業研究について・「問い」と研究方法・ 研究計画の作成・ 研究倫理について

第5回・第6回 資料収集と共有・発表 （関心のあるテーマに合わせた資料を持ち寄り、発表する）

第7回・第8回 資料収集と共有・発表 （関心のあるテーマに合わせた論文を持ち寄り、発表する）

第9回～第15回 研究方法の理解と実際（論文の収集と読み合わせ）・先行研究の整理

第16回 中間報告

第17回～第20回 研究方法とデータ収集・中間発表

第21～第25回 研究方法とデータ分析・中間発表

第26回～第30回 まとめ・発表の準備

各回、必要に応じてフィールドワークを実施する。

評価

研究に取り組む姿勢（40％）と、その成果が発表やレポートなどに現れていること（60％）を評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。

ゼミ内での中間報告に対する評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】前期には文献検索、報告の準備を行う。後期には各自のテーマに合わせた研究・調査を進め、報告の準備をする。関連分野のワークショップなどが学内外で開催される場合には積極的に参加する。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針PD1・2・3に該当する。

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では、自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学び合いである。互いの問題・課題を知り、広げ、深め、まとめていく過程を大切にす。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 自己の研究テーマが選定できる。
- (2) テーマに接近するための筋道が分かる。
- (3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築く。

内容

グループ指導、個別指導を通して研究テーマを見だし焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる。必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われた関心ある授業の内容について復習する。文献検索、情報収集を行い、研究準備を行う。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習をすすめておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適時、参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

本科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断」、「 関心・意欲・態度」に深くかかわる科目である。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 自己の研究テーマが選定できる。
- ・ テーマに接近するための筋道が分かる。
- ・ 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築く。

内容

この授業は学生間でのグループディスカッションを基本として、適宜教員による支援、助言を行うことで学びを深めていく

人間福祉演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を探るプロセスを経験する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要と資料の集め方の基礎を学ぶことを中心に授業を進める。

後期には、各自興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行い、その過程をゼミの中で発表する。

年間を通して、地域における自主社会活動や実践活動に取り組み、課題発見力・社会人基礎力・表現力を磨くことも目指す。

評価

研究に取り組む姿勢 (40%) と、その成果が発表やレポートなどに現れていること (60%) を評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。

ゼミ内での中間報告に対する評価をフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】前期には文献検索、報告の準備を行う。後期には各自のテーマに合わせた研究・調査を進め、報告の準備をする。関連分野のワークショップなどが学内外で開催される場合には積極的に参加する (各授業に対して60分)。

【事後学修】質疑の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（同60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導である。事実や支援の効果について実証的に明らかにし、理解すること、援助・支援に関する理論や考え方を理解し、実際の事例に合わせて説明する、他者とのかかわりから振り返りを進め、専門的援助関係における自己覚知を深めることと関連する。本学科学位授与方針2.3に関連する。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 卒業研究のテーマを設定できる。
- 2) 研究目的達成のための方法及び方法論を理解し、その手続きを明示できる。
- 3) 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができ、研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

授業外学習

- 【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。
- 【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科学位授与方針1,2,3に該当する。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求し卒業論文を作成する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず全科目と関連する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために、多様な地域福祉実践をフィールドワークやサービラーニングで認識し、テキスト等を活用して知識を吸収し、自由なディスカッションを通じて思考力、想像力、判断力を養う。ゼミは成長を共にする仲間との学びあいの場であり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つけ、卒業論文を作成するとともに自己の成長に生かす。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定し作成する
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

卒研に向けた関心テーマに基づくグループワークやフィールドワークを実施し、社会福祉課題としての障害児者余暇活動支援に関する活動を地域ボランティアと実践的に学ぶアクティブラーニングを実施する。また、個別の指導を通じて、研究方法を探求し、研究テーマを見出し焦点化して考察を深め、ゼミ生は卒業論文を作成し提出する。

評価

日頃の学習活動やディスカッションの内容、レポート、卒業論文と報告会等から総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の発言やレポート発表にコメントし、学習理解を深められるよう対話する。

授業外学習

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われる政策や事業、実践活動を確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】テーマやキーワードの理解を深め、復習を必須とし、授業で紹介されたHP、施策や事業、実践の内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成し、卒研に生かす。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 , に該当する。

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】年に数回、個別面談をしながらその都度フィードバックする。完成した卒業研究は最終修正を行い、卒業研究発表会を経て、卒業論文集として印刷製本する。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。本科目は、人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

学生各自によるテーマの設定、先行研究の整理、研究テーマに関連する学習、研究方法・手続きについての理解と習得、グループ及び個別指導の実施、卒業研究結果の報告と評価という構成で展開される。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べるができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。卒業研究にはコメントを付し卒業時まで返却する。

授業外学習

- 【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。(毎回60分)。
- 【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。(毎回60分)。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング	KdH599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科学位授与方針1,2,3に該当する。

人間福祉の学びの総まとめである卒業研究のための指導を行う。学生自らの興味と関心に応じたテーマを設定し、卒業研究を執筆する。卒業研究提出は、必修の卒業要件である。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自らの卒業研究のテーマを設定できる。
- 2) 研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。
- 3) 卒業研究を実施し、その内容を論文として執筆し、その内容について明確に述べる事ができる。
- 4) 卒業研究の成果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。ゼミメンバーのディスカッションにより、相互に学びあうことを重視する。

研究テーマの設定。

先行研究の整理。

研究方法・手続きの理解。

研究テーマに関連する文献の収集および調査（質問紙作成、フィールドワークなど）の実施。

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。

卒業研究の作成。

成果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】卒業研究作成過程の発表・報告等のフィードバックは、授業時に口頭で行う。提出されたレポートはコメントの上、返却する。卒業研究については、学科内の教員による講評をいただき、それを含めた講評をフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究や情報を収集し整理する。ゼミでの発表・報告を行う準備をする。ゼミメンバーのテーマにも関心を持ち、討論できる準備する。（各授業に対して60分）

【事後学修】ゼミにおける討論や、教員の指導を踏まえて、卒業研究の作成を進める。（各授業に対して60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

大学生活4年間の集大成である卒業研究作成のための指導を行う。卒論研究を通して社会全体についての問題意識を向上し、高い専門性と倫理に関する知識を理解することができることを目的とする。

科目の概要

興味・関心があり、時代の要請に応えた研究テーマを設定する。関心あるテーマに添った先行研究を整理し、研究テーマに関連する学習を行う。卒論を執筆するための研究方法・手続きについて理解し習得する。実際の授業運営については、グループ及び個別指導の実施する。卒業研究結果を成果として報告し評価を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 卒業研究のテーマを設定できる。
2. 研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。
3. 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べるができる。
4. 卒業研究結果を適切な技法を用いて報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。他者とディスカッションができるようメンバーの研究テーマについても予習しておくこと (各授業に対して60分)

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。 (各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導を行う。本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」
「 思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

川村匡人・川村岳人『改訂福祉系学生のためのレポート&論文の書き方』中央法規

その他参考文献については、ゼミの中で紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉の課題に関心をもち、その解決に向けてどのような方法があるのかを学び合う科目である。
また、研究の知見をプレゼンテーションする力を身につける科目である。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解、習得する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究 80%、授業への参加 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し、内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KdH599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

人間福祉学科における大学の学びの総まとめとして、3年からの演習に引き続き、自ら興味・関心を持つ分野に関してテーマを絞り、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。卒業研究を作成し、その課題について明確に述べるができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。少人数での発表・質疑応答を通して、より精度の高い研究となるよう学びを深めていく。

研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究 (70%) を評価対象とし、学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30%) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に合わせて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。(各授業に対して毎日1時間程度)

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。また、作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。(各授業に対して毎日30分程度)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は卒業必修科目であり、卒業研究を作成するための科目である。本学科のディプロマポリシーの「 知識・理解・技能・表現」「 思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

各自の設定したテーマについて、グループディスカッションを行いながら、先行研究を整理し、適切な方法にもとづき卒業研究を作成する。

学修目標（=到達目標）

本科目の目標は、 先行研究レビューを行うことことができる、 研究目的を達成するために適切な研究方法を用いて結果を導き出すことができる、 研究結果を踏まえて自分なりの考察を述べることことができるの3点とする。

内容

毎週、事前にレポートを作成し、各自の発表、ディスカッションを行いながら、学びを深めていく。それらを、卒業研究としてまとめ、論文を執筆するとともに、卒業論文発表会において発表・質疑応答を行う。

評価

【評価】

ゼミへの参加姿勢20%、 レポート30%、 卒業研究50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出レポートに対して毎回口頭指導を行うとともに、論文の添削を行う。

授業外学習

【事前予習】毎回出されたレポート課題に取り組み、前日までに提出すること。（各回120分）

【事後学修】ディスカッション内容を踏まえて、レポート内容を修正すること。（各回60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。